富士通PCサーバ プライマジー
PRIMERGY

FUJITSU

Windows Server 2008 R2 Foundation運用ガイド

はじめてのファイルサーバ編

第1．0版
2010年4月
富士通株式会社

改版履歴

版数	改版日	変更箇所	変更内容
初版	2010.2		新規作成

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

はじめに

FUJITSU

■本書について

本書では「TX100 S1 Windows Server 2008 R2 Foundation インストールタイプ」をご購入されたお客様、または購入の検討をされているお客様に向けてWindows Server 2008 R2 Foundationのファイルサーバとしての活用方法・設定手順をご説明しています。

■免責事項

・著作権・商標権・その他の知的財産権について

本資料は、著作権・商標権・その他の知的財産権で保護されています。個人的に使用する範囲で本書をプリントアウトまたはダウンロードできます。ただし、これ以外の利用（資料の改変、ご自分のページへの再利用や他のサーバへのアップロード等）については、当社または権利者の許諾が必要となります。

・保証の制限

本資料について、当社は、その正確性、商品性、ご利用目的への適合性等に関して保証するものではなく、そのご利用により生じた損害について、当社は法律上のいかなる責任も負いかねます。本書は、予告なく変更・廃止されることがあります。

■商標登記について

・Microsoft、Windows、Windows Serverは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

・記載されている会社名、製品名等の固有名詞は、各社の商号、登録商標または商標です。

・その他、本資料に記載されている会社名、システム名、製品名等には必ずしも商標表示を付記しておりません。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

■人物・企業について

本編中に登場する人物・企業は全て架空のものであり、実在の個人名、社名等との関連性は一切ありません。

■略称について

本書では以下の略称を使用します。

製品名称	略称
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Foundation	Windows Server 2008 R2 Foundation
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional
Microsoft® Windows® XP Service Pack 2	Service Pack 2
Microsoft® Windows® XP Service Pack 3	Service Pack 3
Microsoft® Windows® 7	Windows 7

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

目次

第1章 イントロダクション -6-

1.1 オフィスにサーバがやってきた！ -7-

1.2 ファイルサーバって？ -11-

1.3 サーバ活用でパソコントラブル防止 -12-

1.4 ファイルサーバ導入の流れ -14-

-TIPS- サーバ購入時の留意事項 -15-

第2章 初期設定ガイド -16-

2.1 サーバのセットアップ -18-

2.2 ネットワークの設定をしよう -19-

2.3 ハードディスクの設定をしよう -24-

第3章 ファイルサーバをつくろう -35-

3.1 ユーザーアカウントを作成しよう -37-

3.2 グループを作成しよう -44-

3.3 ファイル共有設定をしよう -50-

第4章 ファイルを共有しよう -59-

4.1 共有フォルダーにアクセスしてみよう -61-

4.2 共有フォルダーにファイルをコピーしよう -65-

-TIPS- 日々の運用について -69-

-TIPS- ユーザーアカウント数制限について -70-

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

第5章 大切なデータを失わないために -71-
5.1 バックアップ機能をインストールしよう -74-
5.2 システムのバックアップ -78-
5.3 システムの復元 -86-
5.4 データの復元 -92-
5.5 シャドウコピーを設定しよう -102-
5.6 シャドウコピーでファイルの復元 -105-

-補足-
外部領域へのバックアップイメージのコピー -107-
-補足-
外部領域を使用したシステムの回復 -110-

おわりに -113-

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

第1章
イントロダクション

1.1 オフィスにサーバがやってきた！
1.2 ファイルサーバって？
1.3 サーバ活用でパソコントラブル防止
1.4 ファイルサーバ導入の流れ

-TIPS- サーバ購入時の留意事項

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

1.1 オフィスに サーバがやってきた！

FUJITSU

- 本資料の説明の舞台となるのは、社員数12名で貿易業を営む「富士通貿易」です。
- 富士通貿易では、業務データを各社員のパソコンに保存して、管理していました。
- 業務データの一元管理を目的に、ファイルサーバを導入することになりました。
- はじめてのサーバ導入。うまくいくのでしょうか？

太郎さん

主人公の太郎さんは入社して3年目。総務部に所属しています。パソコンの知識はあるものの、サーバを使うのははじめてです。

社長からサーバ導入/管理を指示されました。

富士通貿易のサーバ導入

これより、サーバ管理者に任命されたばかりの太郎さんが、PRIMERGY TX100 S1とWindows Server 2008 R2 Foundationを組み合わせた、ファイルサーバを構築するまでの過程を説明します。

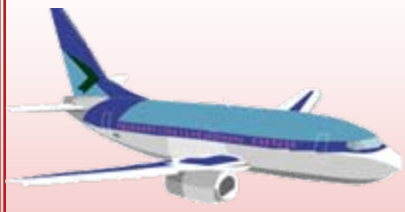
All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

サーバ導入の背景

富士通貿易社長

最近は、
「取引先からの情報管理要求も強く」、また
「パソコントラブルで大切な業務データを失うわけにはいかない」
太郎くん！よろしく頼むよ。

富士通貿易で発生したトラブル例



■トラブルその1

リフレッシュ休暇中のAさん宛てに、取引先から見積もり書類を予定より早く送るよう依頼が来ました。

見積もり書類はAさんのパソコンの中にあるはずですが、Aさんのパソコンのパスワードがわからないのでログオンできず見積もり書類が見られません！Aさんにも連絡がつきません！

■トラブルその2

Bさんのパソコンのハードディスクが故障してしまいました！

バックアップを取っていなかったので、パソコン内の発注書類が失われてしまいました！

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

■ 今回、富士通貿易では、コストパフォーマンスに優れ、静音/省電力で環境に優しい、PRIMERGY TX100 S1を導入することにしました。

■ OSには小規模事業所に最適なWindows Server 2008 R2 Foundationを採用しました。

うちのような会社では、静音/省電力なサーバはジャストフィット！！
太郎くん！！まかせたよ。

富士通からの提案。静かなPCサーバで、ビジネスを加速する。

PRIMERGY TX100 S1

Windows Server 2008 R2 Foundation インストールタイプ

おすすめ1 静音性

優れた静音設計でサーバ内部のファン回転による騒音を低減することで、ビジネス環境を快適にし、業務の改善に貢献します。

おすすめ2 ロープライス

ビジネスが求めるパフォーマンスを、さらなるロープライスで実現。あなたのビジネスを強力にサポートします。

おすすめ3 世界統一モデル

世界中のお客様に、世界統一の優れた品質をお届けします。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

社長から直々に任されてしまったものの、太郎さんはサーバのことなど何一つ分わかりません。

そこのところ抜かりない社長は、太郎さんを立派なサーバ管理者に育て上げるべく、知り合いの会社に頼んで、サーバに詳しい社員からレクチャーをしてもらうことにしました。

そうしてやってきたのがWindows Serverのスペシャリスト、次郎さんです。

次郎さん

次のページから次郎さんによる
サーバのレクチャーが始まります。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

1.2 ファイルサーバって？

FUJITSU

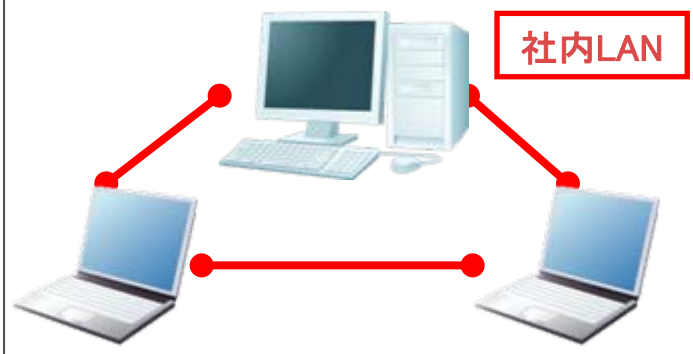
■本節では、ファイルサーバの概要について説明しています。

はじめまして、次郎さん。
早速質問なのですが、そもそもファイルサーバとはいったいなんなのですか？

はじめまして、太郎さん。
ファイルサーバというのは、サーバの使い方の1つです。社員各々が持っているファイルを集約し、みんなで共有できるようにする仕組みを持ったサーバのことをファイルサーバといいます。

富士通貿易だと、ファイルサーバ導入前と後では、以下の図のように変わります。

ファイルサーバ導入前



■ファイルは社員各々のパソコン、またはメディアにバラバラに保存。

■ファイルが社員各々のパソコンに保存されているので、網羅的なバックアップが不可能である。

■欲しいファイルを得るには、欲しいファイルが入っているパソコンが起動している必要がある。

■セキュリティ強化の方法が限られている。

ファイルサーバ導入後

■個々のパソコン･メディアに保存していたファイルをまとめて管理･共有。

■ファイルがまとまっているので、取りこぼしのない確実なバックアップが容易にできる。

■サーバが起動していれば必要なファイルがいつでも取り出せる。

■様々な方法でセキュリティを強化することができる。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

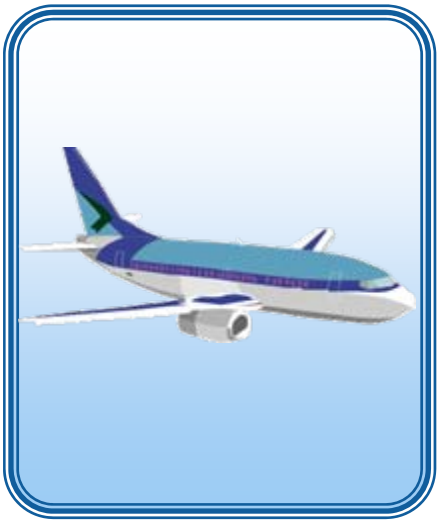
1.3 サーバ活用で パソコントラブル防止

■本節では、ファイルサーバを導入することで防止できるパソコンのトラブルについて説明しています。

次郎

ファイルサーバを活用すれば、社長がおっしゃっていたトラブルの発生を防げるようになるだけでなく、情報セキュリティの強化も行えるようになります。

富士通貿易で発生したトラブルの防止方法



■トラブルその1

Aさんが作成した見積もり書類を、ファイルサーバに保存しておけば、お客様から急な依頼があっても、他の社員が見積もり書類をファイルサーバから取り出して対応できます。

⇒詳しくは[第3章 ファイルサーバをつくろう][第4章 ファイルを共有してみよう]を参照してください。

■トラブルその2

大事なファイルをファイルサーバに保存し、まとめてバックアップすれば、データの損失を防げます。Bさんのパソコンのハードディスクが故障しても、発注書類はサーバでバックアップされているので、完全に失われることはありません。

⇒詳しくは[第5章 大切なデータを失わないために]を参照してください。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

ファイルサーバ導入によるプラスαの効果

■情報セキュリティ強化

ファイルサーバで共有しているフォルダーに、社員によって開くことができる・できないを設定して、情報の閲覧を制限できます。
これを**アクセス制御**といいます。

部内の情報を特定のメンバーだけで共有することにより、情報漏洩の危険性を減らせます。

太郎

ファイルサーバを導入することで、うちの会社で過去に起こったトラブルを防止できるようになるだけでなく、セキュリティ強化もできるようになるのですか・・・

ファイルサーバ1つで凄い効果ですね！

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

1.4 ファイルサーバ導入の流れ

FUJITSU

■本節では、ファイルサーバ導入で必要となる作業の流れについて説明しています。

次郎

ファイルサーバ導入で必要になる作業は以下の通りです。

初期設定
⇒[第2章 初期設定ガイド]へ

↓

ファイル共有
⇒[第3章 ファイルサーバをつくろう]へ
⇒[第4章 サーバにアクセスしてみよう]へ

↓

データ損失防止の対策
⇒[第5章 大切なデータを失わないために]へ

太郎

案外やるべきことは少ないのですね。これなら僕でもできそうです！

次郎

日頃Windowsを使っているなら、問題無く作業は進められると思います。

では、そろそろ実際にサーバを使ってみましょう。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

-TIPS-
サーバ購入時の留意事項

FUJITSU

データ損失防止の対策にはHDDのRAID構成がオススメ

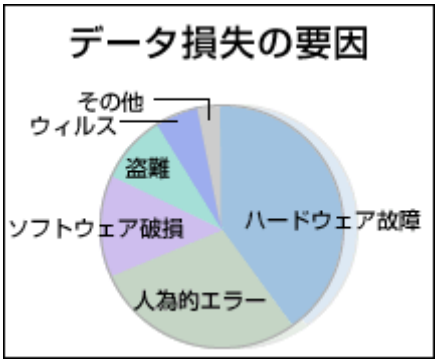
サーバで一括してデータを管理する場合、サーバのハードディスクが故障するとデータが全て失われてしまう可能性があります。これはオプションのRAID構成を採っておくことで回避できます。

RAIDはハードディスクの故障対策として特に有効なため、サーバ購入の際にはRAID構成を採ることをお奨めします。

参考資料:RAID機能とは

http://storage-system.fujitsu.com/jp/term/raid/01.html

バックアップ装置・ソフトの手配をお忘れなく



上の図から、データ損失防止の要因には[ハードウェア故障]以外の割合が半分以上を占めており、ハードウェアだけでデータ損失防止への対策を施しても、万全とはいえないことがわかります。

ハードウェアでの対策に加えて、バックアップ装置・ソフトでのバックアップを組み合わせると、データ損失防止の対策に効果的です。小規模な構成でのバックアップには、RDX(内蔵データカートリッジドライブユニット)がお奨めです。

参考資料:バックアップソリューション

http://primeserver.fujitsu.com/primergy/solution/backup/

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

サーバで作業を行います。

第2章
初期設定ガイド

2.1 サーバのセットアップ
2.2 ネットワークの設定をしよう
2.3 ハードディスクの設定をしよう

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

サーバを使えばどんなことができるのかわかりました。

実際にサーバを使い始めるには、どうすれば良いのでしょうか？
パソコンと比べて難しかったりするのですか？

いいえ、サーバだから特別難しい操作が必要ということはありません。基本的にはサーバもパソコンも操作は一緒です。

なるほど、サーバだからといって特別身構えることはないのですね。

その通りです。

では、サーバを使えるようにするために、以下の作業を行っていきましょう。

・サーバのセットアップ
・ネットワークの設定
・ハードディスクの設定

注意

サーバをネットワークに接続する前に、必ずセキュリティソフトウェアをインストールするようにしてください。セキュリティソフトウェアによって手順が違うため、本書ではインストール手順を説明しません。

All Rights Reserved, Copyright © 2009 FUJITSU LIMITED

2.1 サーバのセットアップ

FUJITSU

■ 本節では、サーバを使用できるようにする方法について説明しています。

次郎

まずはサーバを設置して、セットアップを行わないとサーバを使用することができません。

サーバのセットアップは、サーバと一緒に梱包されている以下のマニュアルを読みながら行いましょう。

- ■ はじめにお読みください
- ■ 安全上のご注意
- ■ ユーザーズガイド
- ■ ソフトウェアガイド

太郎

マニュアル通りに進めるだけでいいのなら、簡単ですね。

注意

本書の手順は全てAdministratorアカウントでサーバにログオンして作業を行います。他のアカウントでサーバにログオンすると、作業が行えない場合があります。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2.2 ネットワークの設定をしよう

■本節では、ネットワークに接続する手順について説明しています。

次郎

セットアップを終えたら、次はネットワークに接続できるように設定しましょう。

注意

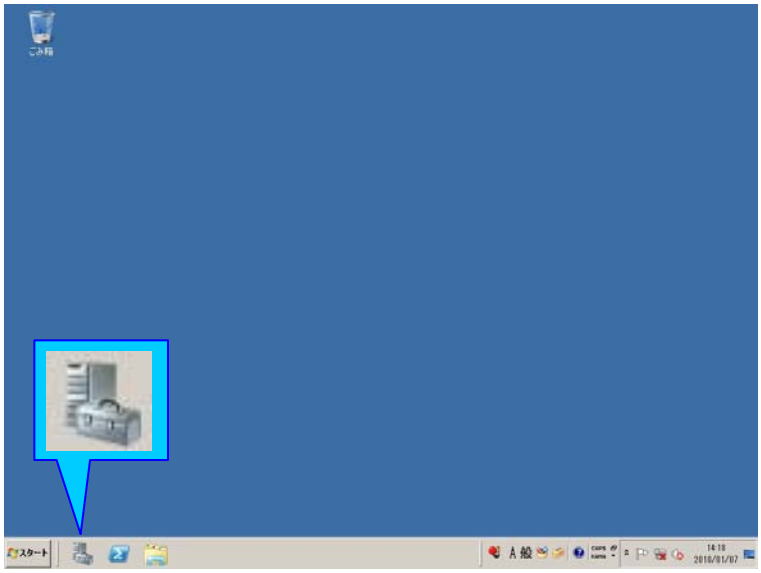
本書のネットワークの設定手順はほんの一例です。既存のネットワーク環境に沿った設定を行ってください。

1 ネットワークの設定をします

1 [サーバー マネージャー] を起動します

画面左下の[サーバー マネージャー]アイコンをクリックします。

※[サーバー マネージャー]が起動している場合、この作業は必要ありません。

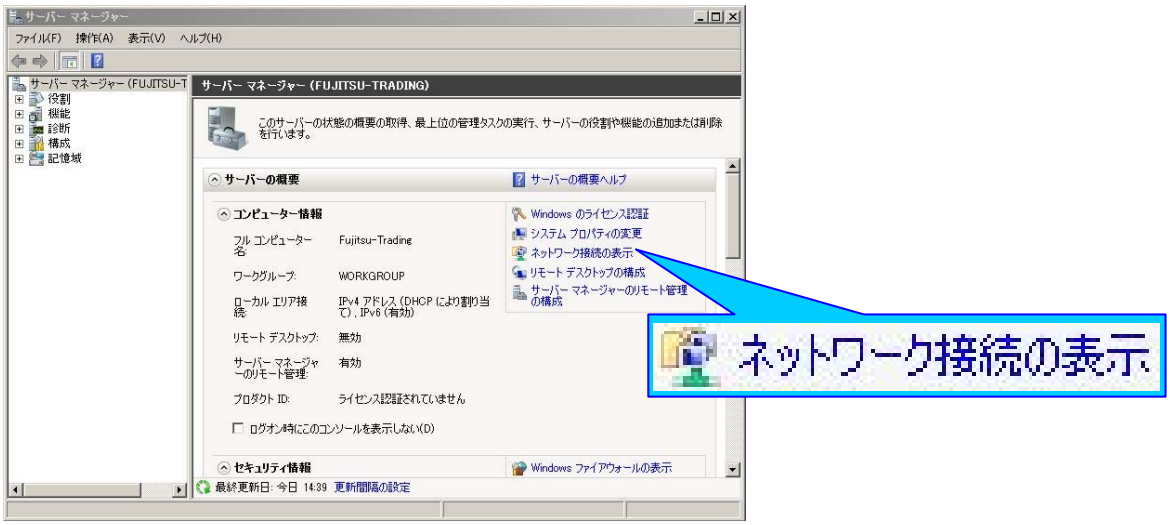


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

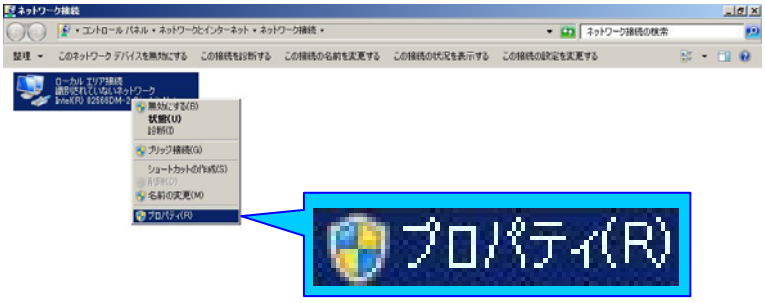
2 ネットワーク接続を表示します

[ネットワーク接続の表示]をクリックします。



3 [ローカル エリア接続] の [プロパティ] を開きます

[ローカル エリア接続]を右クリックして[プロパティ]をクリックします。

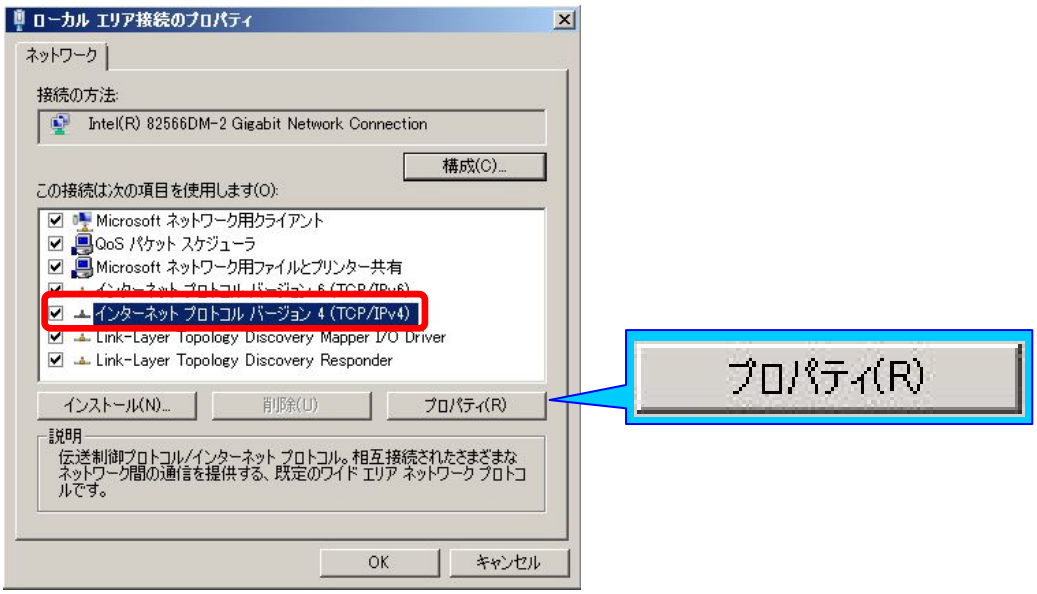


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

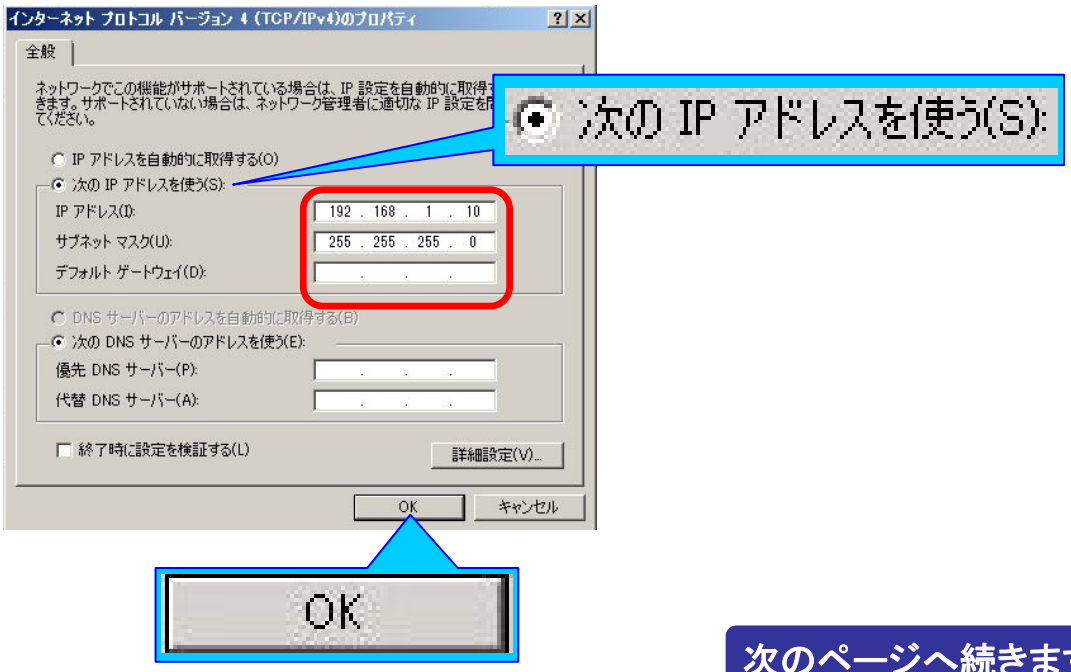
4 [インターネット プロトコル バージョン 4] の [プロパティ] を開きます

[インターネット プロトコル バージョン 4]を選択し、[プロパティ]をクリックします。



5 IPアドレスを設定します

[次のIPアドレスを使う]を選択し、サーバに割り当てる[IPアドレス]
[サブネット マスク]を入力します。[デフォルト ゲートウェイ]は必要に応じて入力します。入力し終わったら[OK]をクリックします。

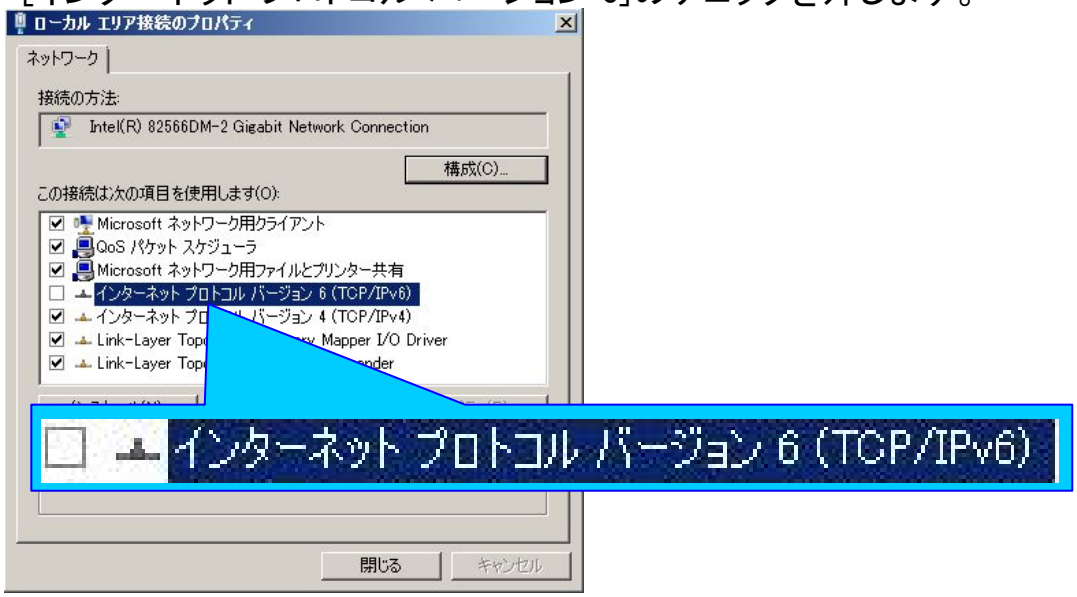


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

6 [インターネット プロトコル バージョン 6] を無効化します

[インターネット プロトコル バージョン 6]のチェックを外します。



7 ネットワーク設定を終了します

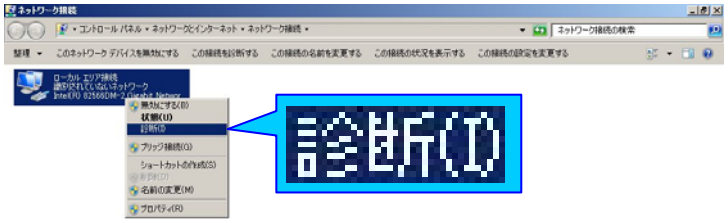
[閉じる]をクリックします。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2 ネットワークの診断をします

1 ネットワークの診断画面を開きます

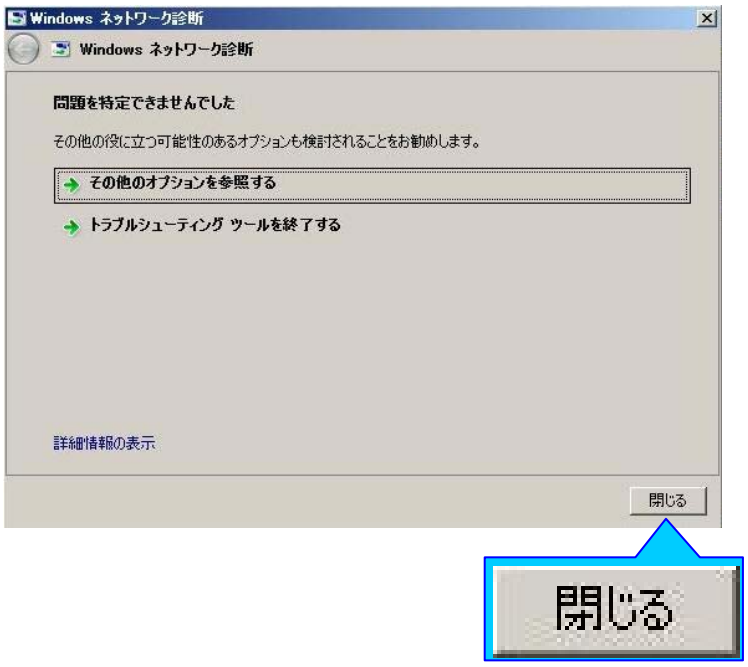
[ローカル エリア接続]を右クリックし、[診断]をクリックします。



2 診断の結果を確認します

問題が検出されなければ、[閉じる]をクリックします。

※問題が検出された場合は、画面の表示に従って問題の調査を行います。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2.3 ハードディスクの設定をしよう

FUJITSU

■本節では、ハードディスクの設定をする手順について説明しています。

次郎

TX100 S1は160GBのハードディスクを搭載していますが、初期の状態では32GBしか使えるようになっていません。
ハードディスクを以下の構成で使えるようにする手順を説明します。

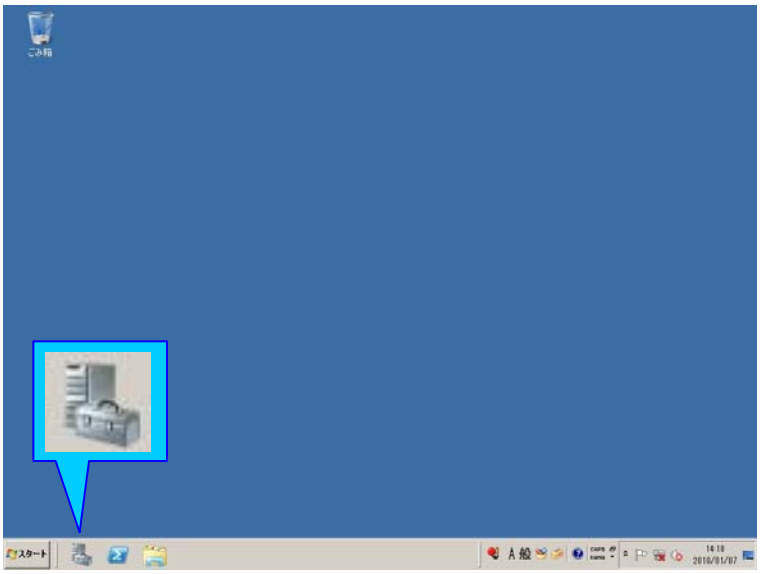
ドライブ名	ドライブ文字	容量
システム ドライブ	C	32GB
データ ドライブ	D	48GB
バックアップ ドライブ	E	80GB

1 ディスクの管理画面を開きます

1 [サーバー マネージャー] を起動します

画面左下の[サーバー マネージャー]アイコンをクリックします。

※[サーバー マネージャー]が起動している場合、この作業は必要ありません。

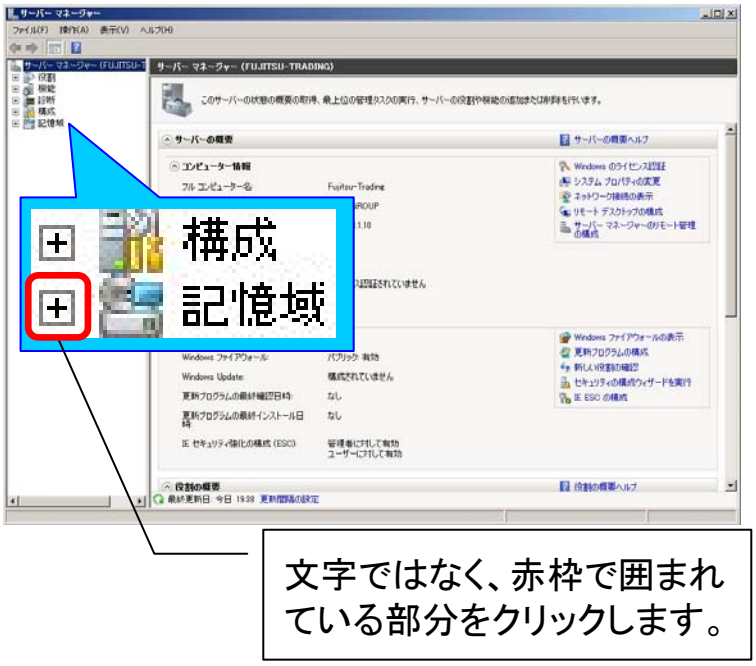


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

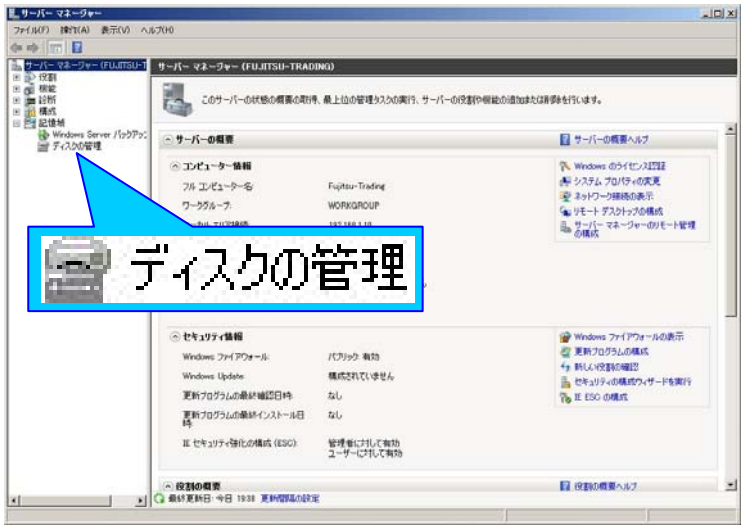
2 記憶域を開きます

[サーバー マネージャー]で[記憶域]をクリックします。



3 [ディスクの管理] を起動します

[ディスクの管理]をクリックします。



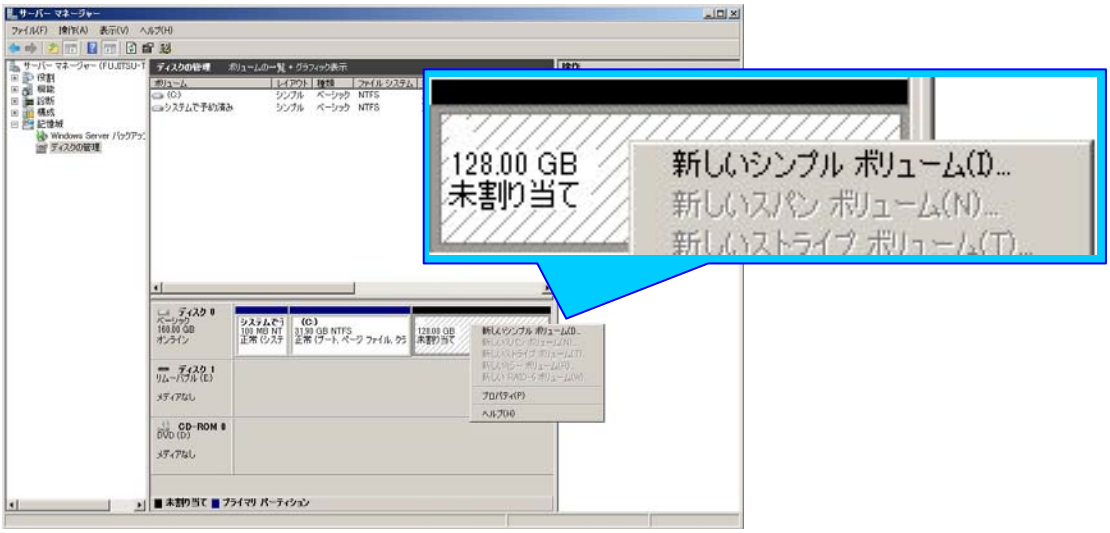
All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2 新しいボリュームを作成します

1 ボリュームの作成画面を開きます

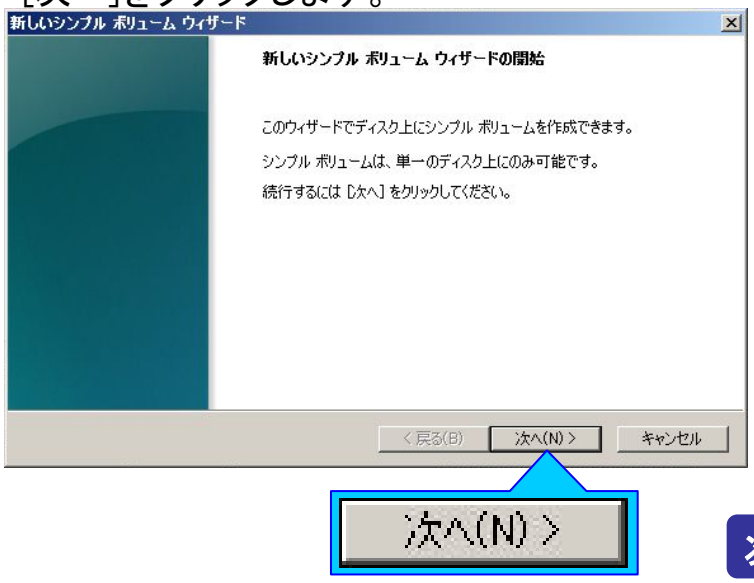
[未割り当て]の領域を右クリックし、[新しいシンプル ボリューム]をクリックします。

※[データ ドライブ]用ボリュームを作成した後、[バックアップ ドライブ]用ボリュームを作成します。



2 新しいシンプル ボリューム ウィザードを開始します

[次へ]をクリックします。



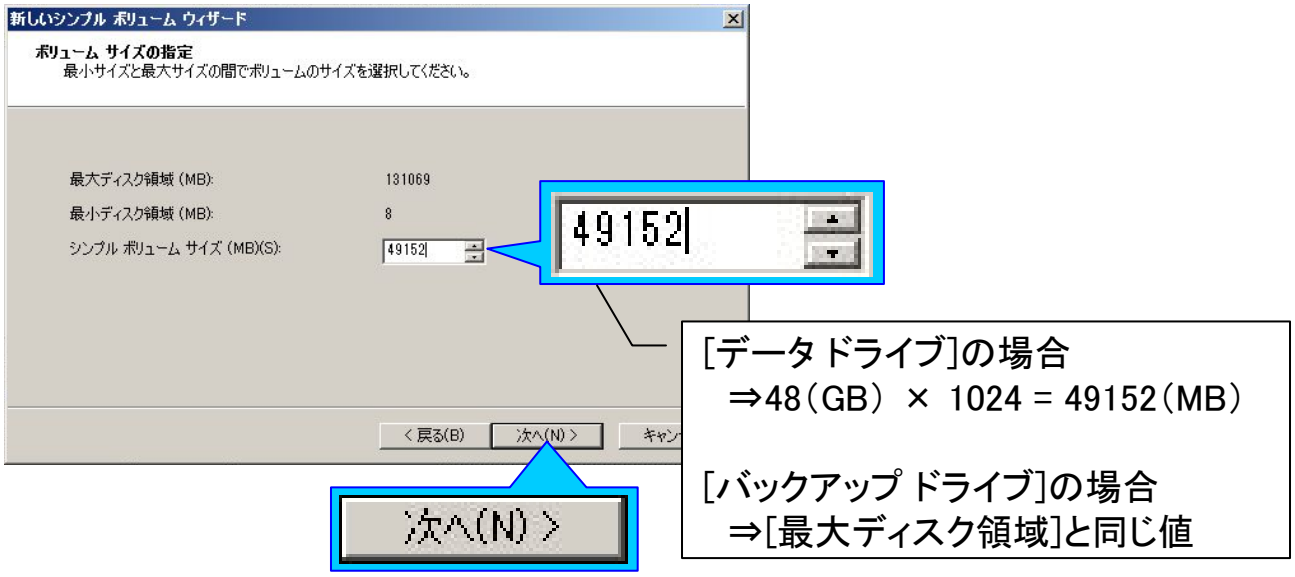
次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

3 ボリュームサイズを指定します

[シンプル ボリューム サイズ]を入力し、[次へ]をクリックします。

※[シンプル ボリューム サイズ]はMB単位で入力します。



4 ドライブ文字またはパスの割り当てを行います

[次へ]をクリックします。

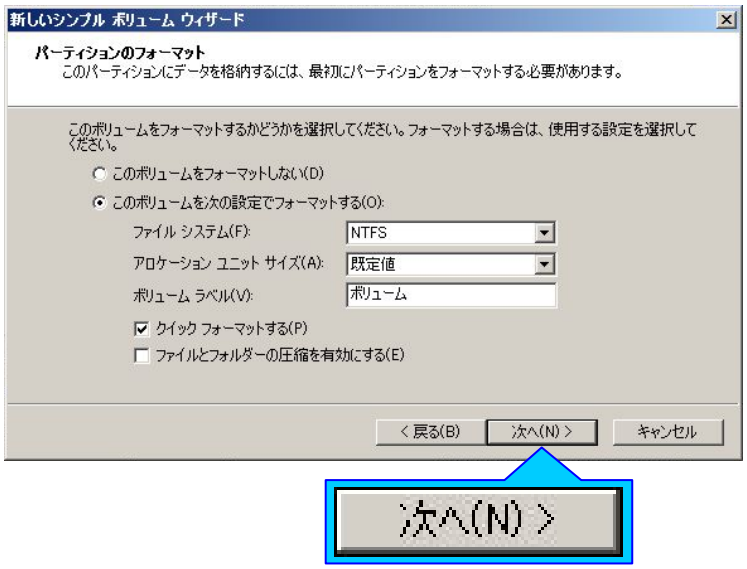
※ドライブ文字は手順 *4*で変更します。

次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

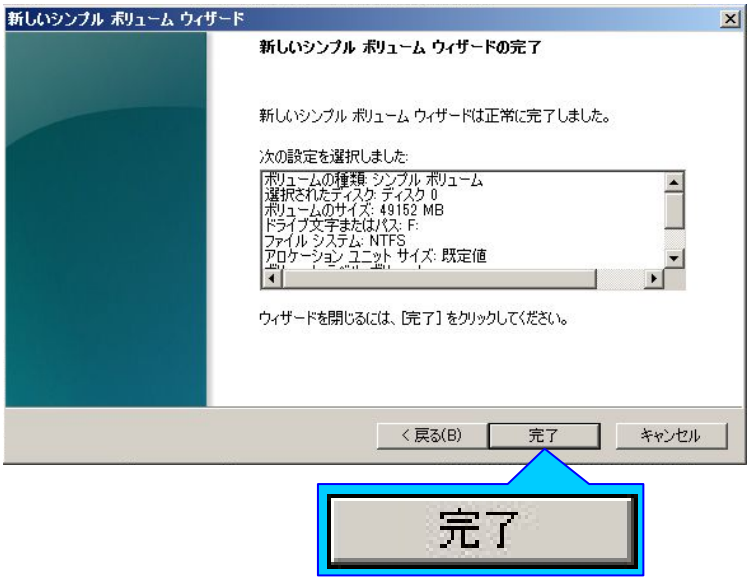
5 パーティションのフォーマット方法を設定します

[次へ]をクリックします。



6 設定の確認を行います

設定した情報が表示されるので内容を確認し、問題が無ければ[完了]をクリックします。

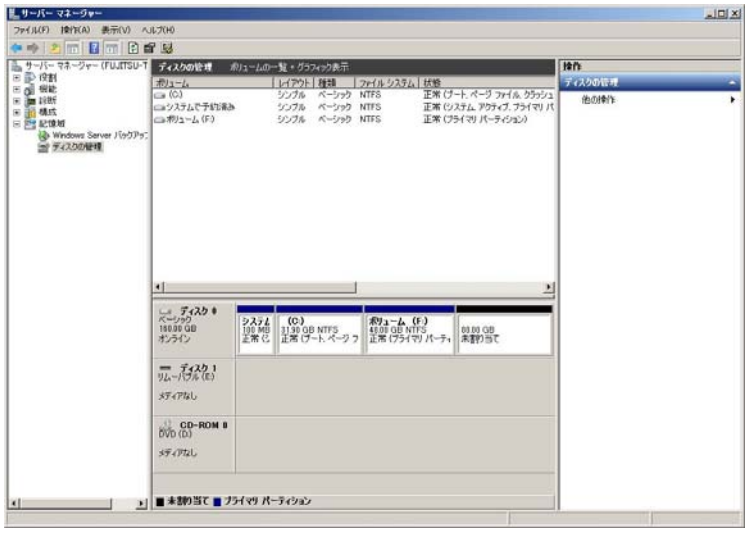


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

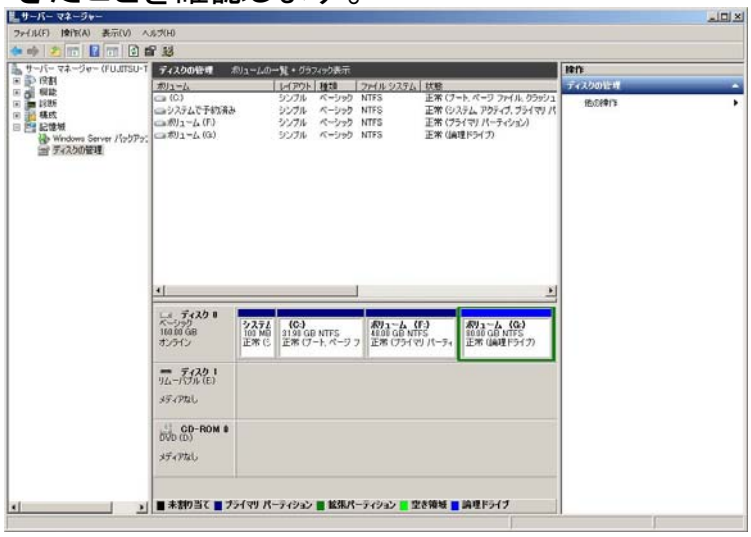
7 連続してボリュームを作成します

[バックアップ ドライブ]用のボリュームを作成するために、1 ～ 6 を繰り返します。



8 ボリュームが作成できたことを確認します

[データ ドライブ]用ボリュームと、[バックアップ ドライブ]用ボリュームが作成できたことを確認します。



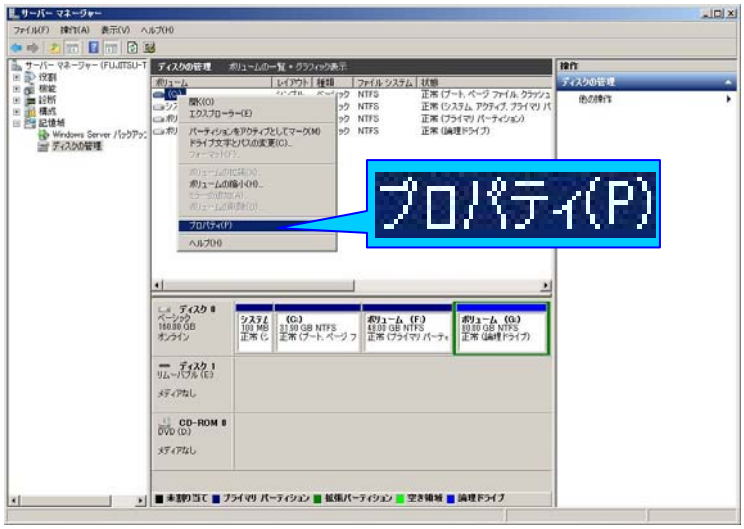
All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

3 ドライブ名を変更します

1 プロパティを開きます

ドライブを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

※Cドライブ名を[システム ドライブ]、48GBのドライブのドライブ名を[データ ドライブ]、80GBのドライブのドライブ名を[バックアップ ドライブ]と変更します。



次のページへ続きます。

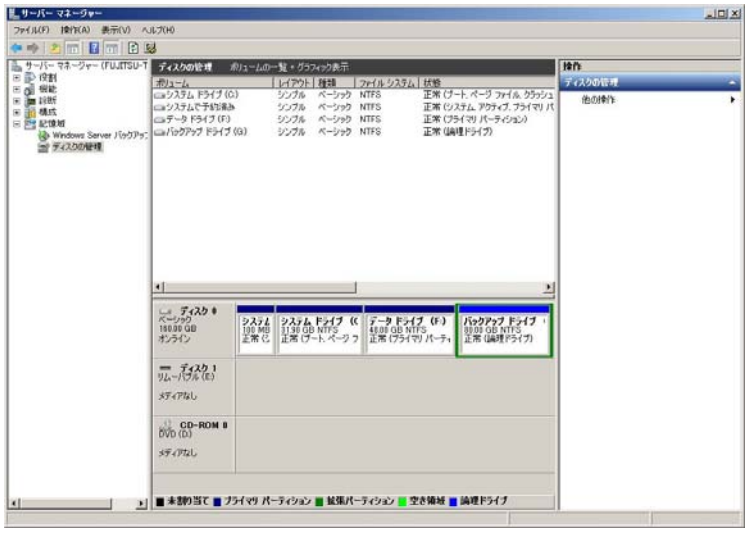
All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

❷ プロパティ画面でドライブ名を入力します

ドライブ名を入力し、[OK]をクリックします。

❸ ドライブ名の変更を確認します

ドライブ名が変更されていることを確認します。❶ ～❷ を繰り返して他のドライブ名も変更します。



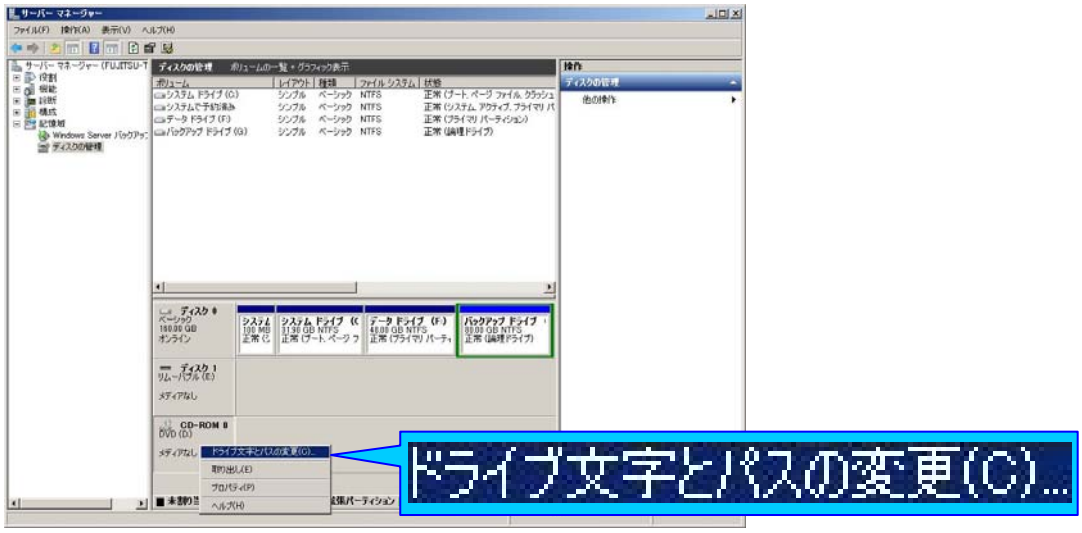
All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

4 ドライブ文字を変更します

1 ドライブ文字とパスの変更画面を開きます

ドライブを右クリックし、[ドライブ文字とパスの変更]をクリックします。

※ [データ ドライブ]のドライブ文字を(D:)、[バックアップ ドライブ]のドライブ文字を(E:)に変更します。
ドライブ文字を変更しなくとも今後の作業に影響はありません。
ドライブ文字の変更を行わない場合は、本書の画像内に含まれるドライブ文字を変更前のものに読み替えて作業を行ってください。



注意

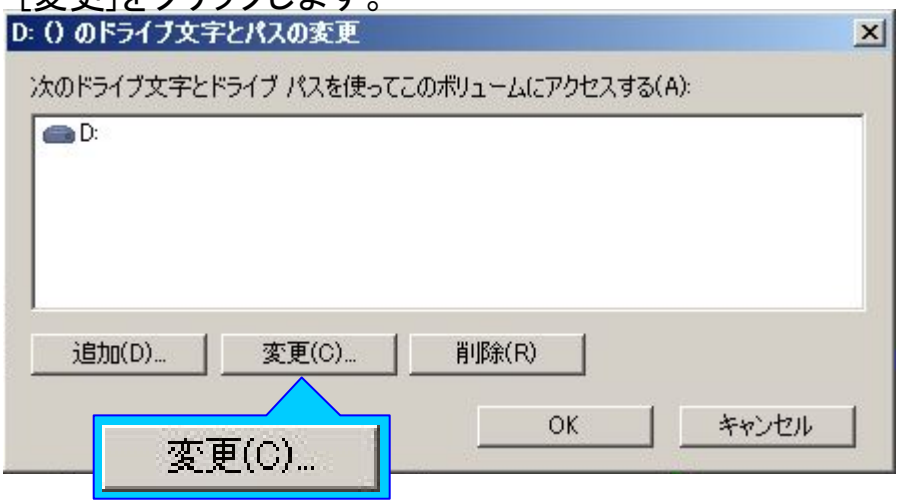
同じドライブ文字を同時に二つのドライブに割り当てることはできないので、他のドライブ(CD-ROMドライブなど)で(D:)(E:)のドライブ文字が既に使用されている場合は、先に他のドライブのドライブ文字を別のものに変更します。

次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

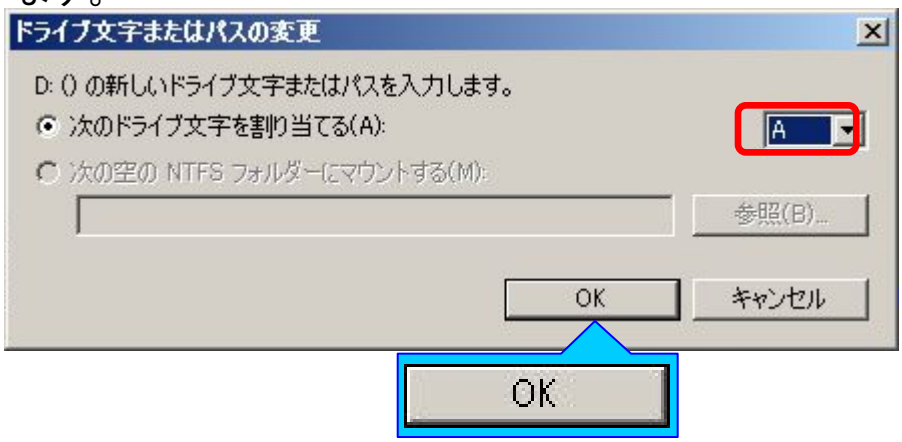
2 ドライブ文字を変更します

[変更]をクリックします。



3 ドライブ文字を選択します

使用したいドライブ文字をプルダウンメニューから選択し、[OK]をクリックします。

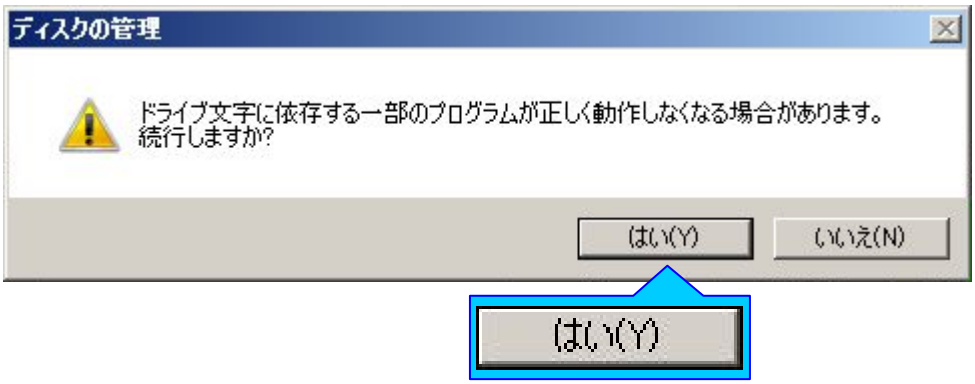


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

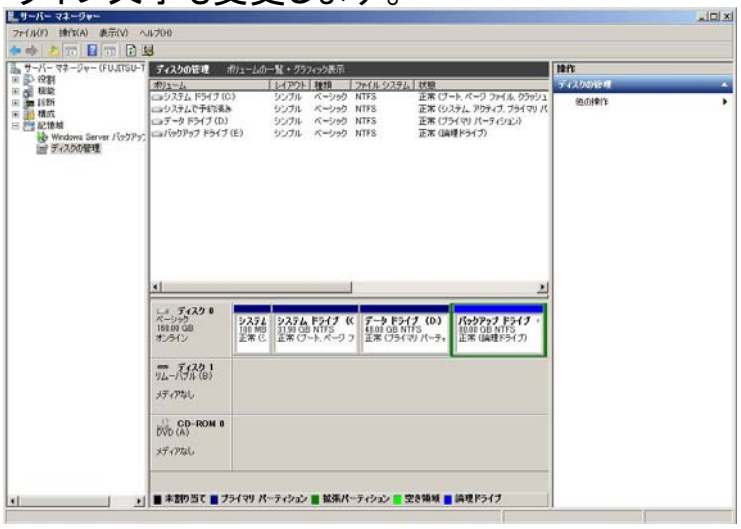
4 警告を確認します

警告を確認し、[はい]をクリックします。



5 ドライブ文字の変更を確認します

ドライブ文字が変更されていることを確認します。1 ～4 を繰り返して他のドライブ文字も変更します。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

サーバで作業を行います。

第3章
ファイルサーバをつくろう

3.1 ユーザーアカウントを作成しよう
3.2 グループを作成しよう
3.3 ファイル共有設定をしよう

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

次郎さんのお陰で、無事にサーバの初期設定ができました。

次は何をすれば良いのでしょうか？

このままではサーバは何の機能も持っていないので、サーバを**ファイルサーバ**として運用できるようにしましょう。

いよいよファイルサーバを作っていくのですね。具体的にはどんな作業をすれば良いのですか？

ファイルサーバを構築するのに必要な作業は大きく分けて以下の3つがあります。

・ユーザーアカウント作成
・グループ作成
・ファイル共有設定

これらの作業を順に行っていけば、ファイルサーバを構築することができます。

All Rights Reserved, Copyright © 2009 FUJITSU LIMITED

3.1 ユーザーアカウントを作成しよう

■本節では、ユーザーアカウントを作成する手順について説明しています。

次郎

ユーザーアカウントは社員をサーバで管理するためのものです。ファイルサーバを構築するために、まず最初にユーザーアカウントを作成します。

いきなり社員全員分のユーザーアカウントを作成するのは大変なので、まず5人分作成してみましょう。

太郎さん、ファイルサーバを利用する社員を、総務部から太郎さんを含めた2人、営業部から2人、幹部社員から1人選んでください。そしてそれぞれの人にユーザー名をつけてください。

太郎

わかりました。この5人と、こんな感じのユーザー名で良いでしょうか。

名前	ユーザー名
[幹部] 中山 大二郎(社長)	nakayama.d
[総務部] 鈴木 太郎	suzuki.t
[総務部] 佐藤 一樹	satou.k
[営業部] 佐々木　大介	sasaki.d
[営業部] 大西 茜	oonishi.a

次郎

OKです。
そのユーザー名はサーバにアクセスする際に必要なので、後でそれぞれの方に教えてあげてください。

次のページから、総務部の佐藤さんを例にして、ユーザーアカウントを作成する手順を説明します。

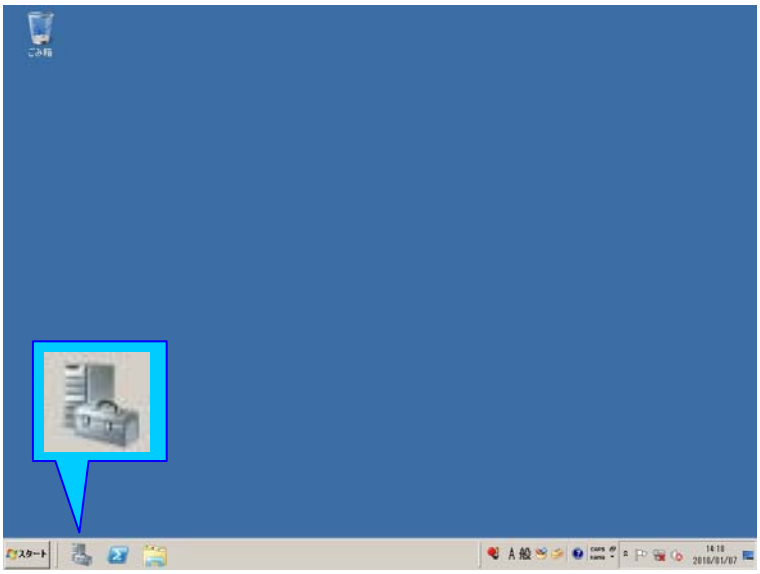
All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

1 [ローカル ユーザーとグループ] を開きます

1 [サーバー マネージャー] を起動します

画面左下の[サーバー マネージャー]アイコンをクリックします。

※[サーバー マネージャー]が起動している場合、この作業は必要ありません。

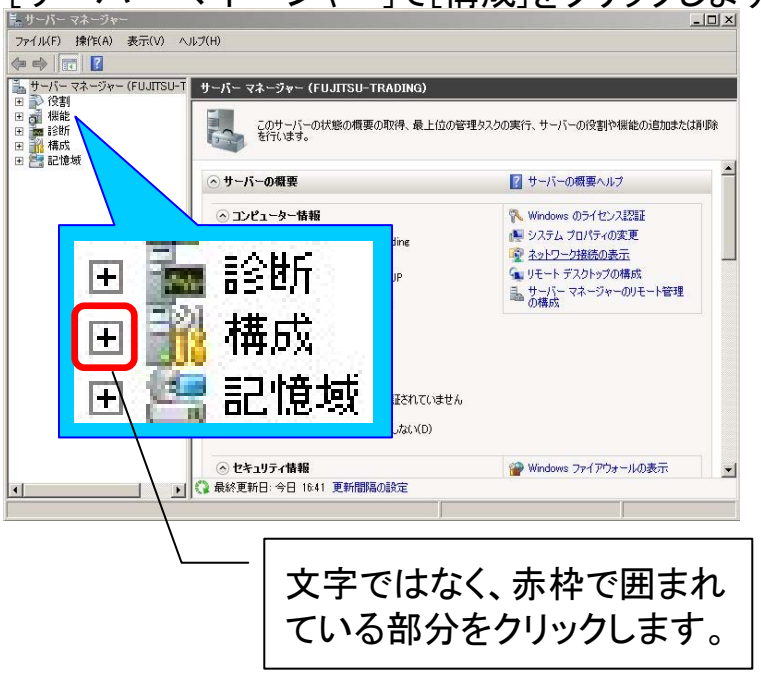


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2 [構成] を開きます

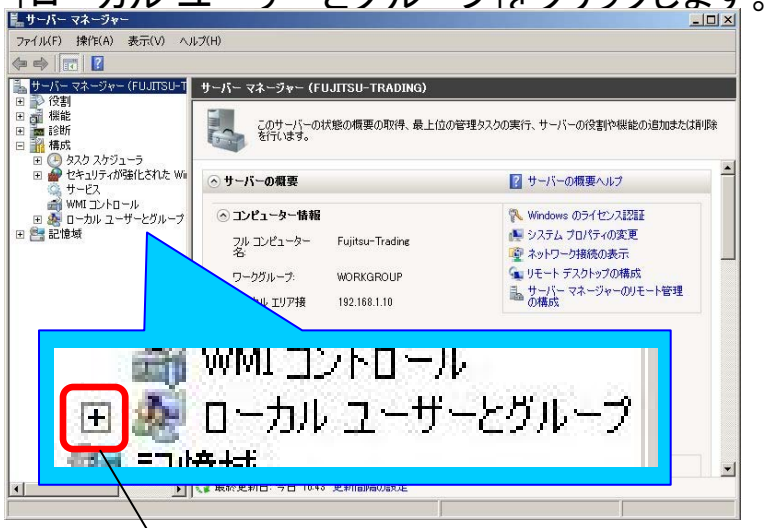
[サーバー マネージャー]で[構成]をクリックします。



文字ではなく、赤枠で囲まれている部分をクリックします。

3 [ローカル ユーザーとグループ] を開きます

[ローカル ユーザーとグループ]をクリックします。



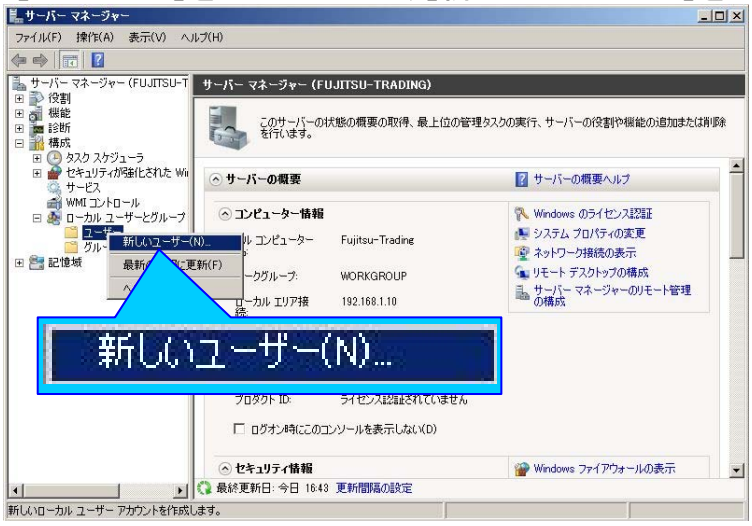
文字ではなく、赤枠で囲まれている部分をクリックします。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2 ユーザーアカウントを作成します

1 ユーザーアカウントの作成画面を開きます

[ユーザー]を右クリックし、[新しいユーザー]をクリックします。



2 ユーザーアカウントの情報を入力します

[ユーザー名]、[フルネーム]、[パスワード]を入力します。[説明]は自由に入力します(所属部署など)。

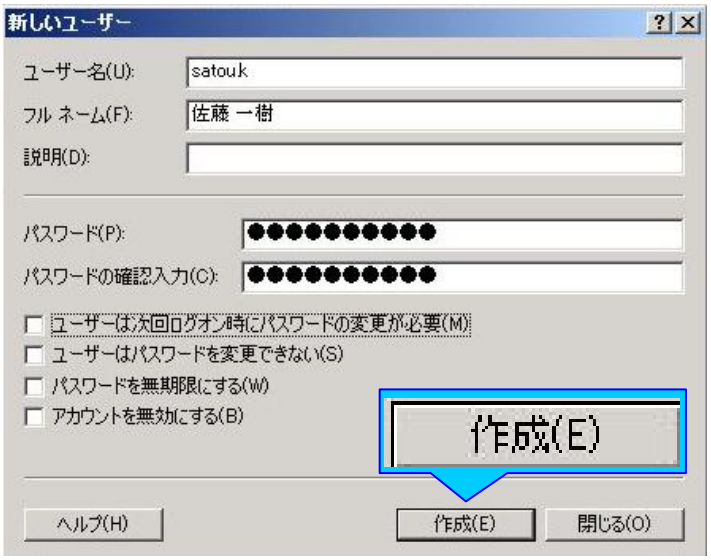
※パスワードはいくつかの条件を満たしたものを設定する必要があります。次ページの「注意」を参照して設定してください。

次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

3 ユーザーアカウントを作成します

[作成]をクリックしてユーザーアカウントを作成します。



次のページへ続きます。

注意

デフォルトの設定では、パスワードは以下の条件を満たしている必要があります。

・ユーザー名/フルネームに含まれる3文字以上連続する文字列を使用しない
・長さは6文字以上にする
・次の4つのカテゴリのうち3つから文字を使う

英大文字(A～Z)	英小文字(a～z)
10進数の数字(0～9)	アルファベット以外の数字(!、$、#、%など)

これらを満たさないパスワードを登録しようとすると、以下のエラー画面が表示されます。[OK]をクリックして条件を満たしたパスワードを入力しなおします。

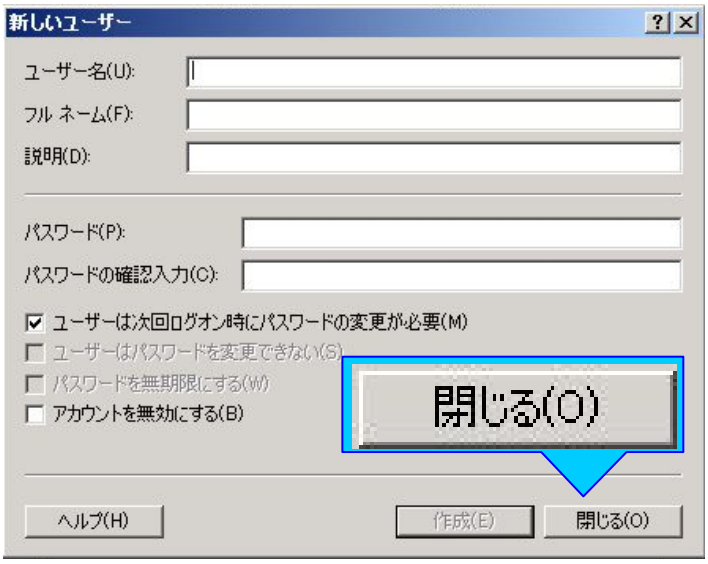
また、デフォルトの設定では、パスワードは設定してから**42日間**で有効期限が切れて、使用できなくなります。定期的にパスワードを変更する必要があります。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

4 連続してユーザーアカウントを作成します

ユーザーアカウントを作成し終わると、最初の画面に戻ります。作成したいユーザーアカウントの数だけ、2 ～3 を繰り返します。

ユーザーアカウントを全て作成し終わったら[閉じる]をクリックして終了します。



注意

既に存在しているユーザーアカウントと同名のユーザーアカウントを作成しようとすると以下のエラー画面が表示されます。[OK]をクリックして別のユーザー名で作成しなおします。

次郎

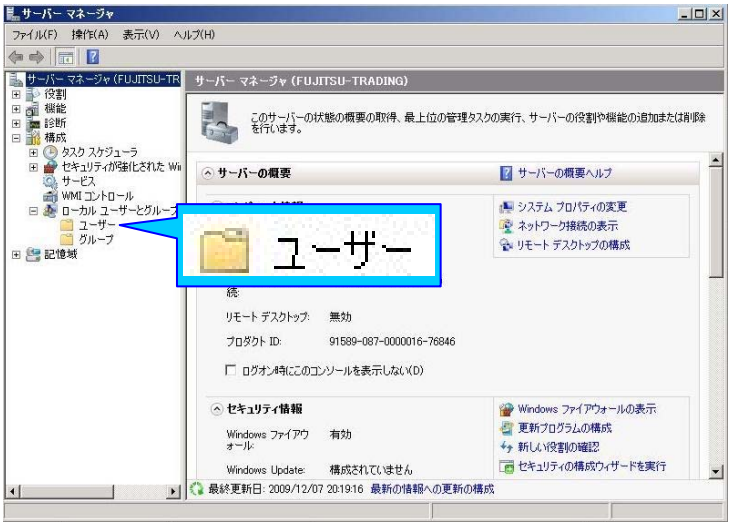
ユーザーアカウントを作成しただけでは、作業は終わりではありません。ユーザーアカウントに設定した情報が間違っていないか、設定し忘れがないか確認を行いましょう。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

3 ユーザーアカウントが正しく作成できたか確認します

1 ユーザーアカウントを表示します

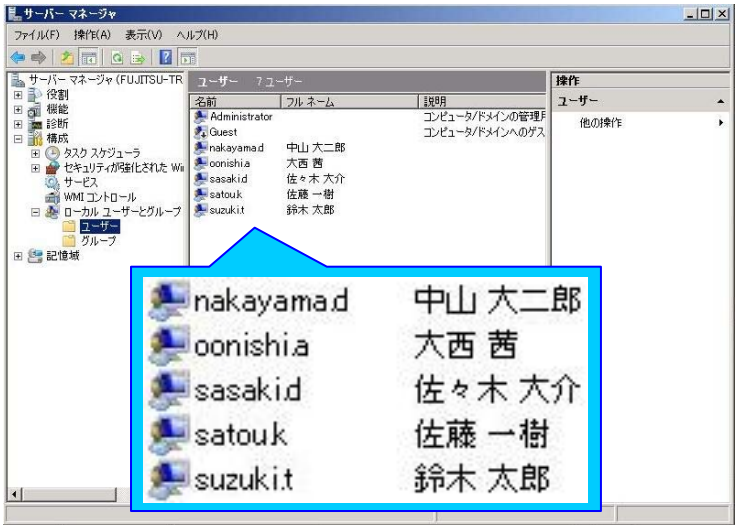
[ユーザー]をクリックします。



2 作成したユーザーアカウントを確認します

ユーザーアカウントが正しく作成できていることを確認します。確認できたらユーザーアカウントの作成は完了です。

※ユーザーアカウントの作成し忘れがあった場合は、手順2を再度行います。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

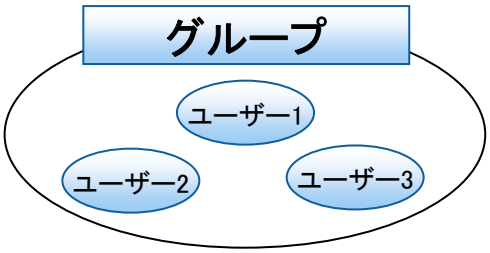
3.2 グループを作成しよう

FUJITSU

■ 本節では、グループを作成し、ユーザーアカウントをグループに追加する手順について説明しています。

次郎

グループはユーザーアカウントをまとめて管理するためのものです。ユーザーアカウントが作成できたら、次の作業はグループの作成です。ユーザーアカウントをグループに追加することによって、サーバの管理にかかる手間が大幅に減ります。
グループのイメージは下図のような感じです。



グループは[幹部]、[総務部]、[営業部]グループといった感じで、所属部門・役職などによって分けましょう。

太郎

うちの会社だとこのような感じでしょうか。

所属グループ	名前	ユーザー名
幹部	中山 大二郎	nakayama.d
総務部	鈴木 太郎	suzuki.t
	佐藤 一樹	satou.k
営業部	佐々木　大介	sasaki.d
	大西 茜	oonishi.a

次郎

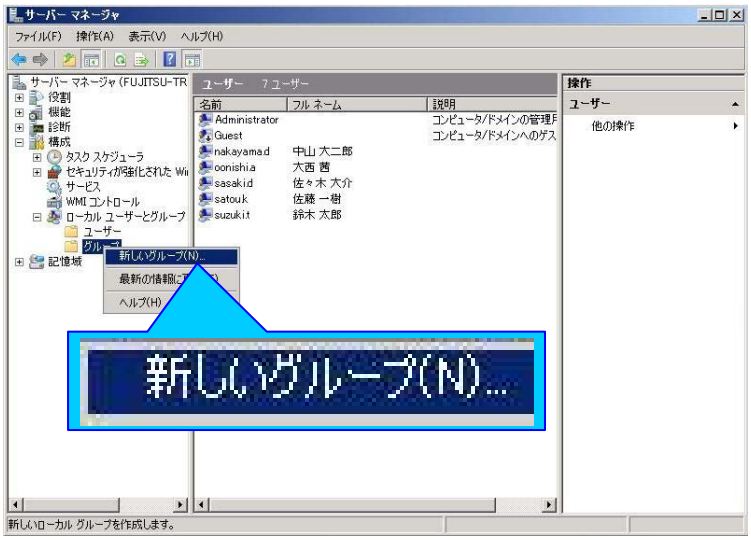
ばっちりです。では次のページから総務部を例にして、グループを作成する手順を説明します。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

1 グループを作成します

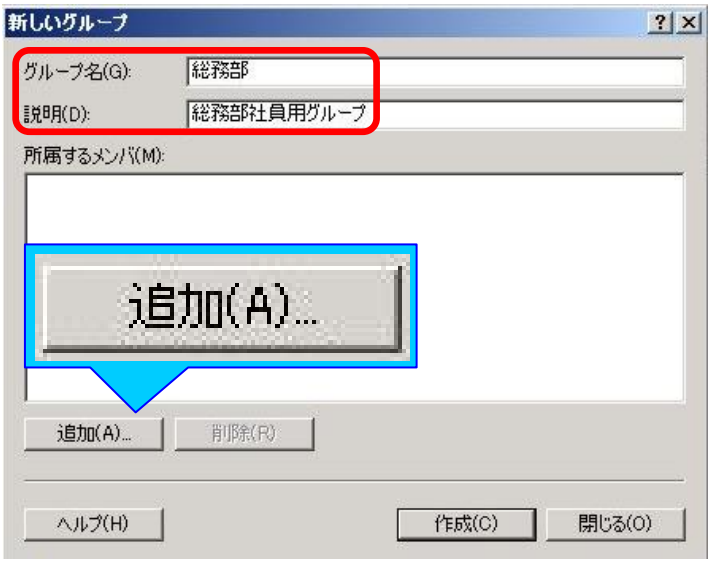
1 グループの作成画面を開きます

[グループ]を右クリックして、[新しいグループ]をクリックします。



2 グループ情報を入力します

[グループ名]を入力します。[説明]は自由に入力します。情報が入力できたら[追加]をクリックします。

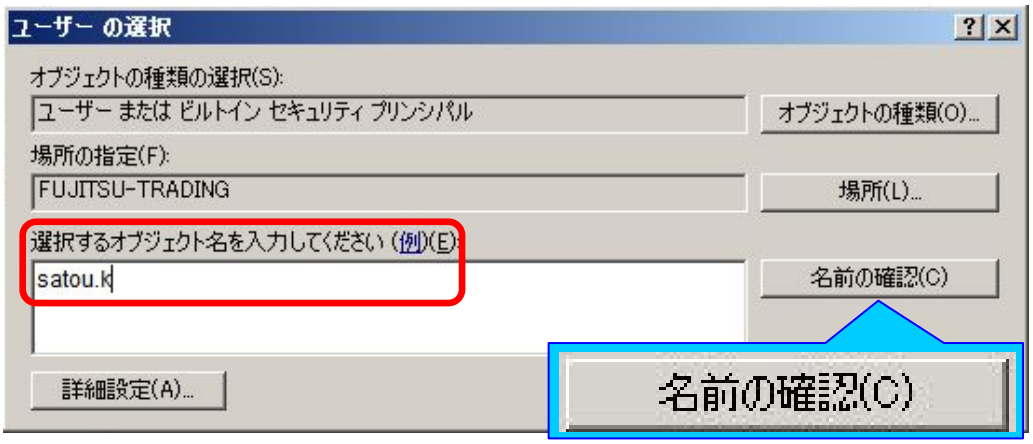


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

3 ユーザーアカウントを選択します

グループに参加させるユーザーアカウントの[ユーザー名]を[選択するオブジェクト名を入力してください]欄に入力し、[名前の確認]をクリックします。



4 名前の確認を行います

[選択するオブジェクト名を入力してください]欄に入力した「ユーザー名」が、以下のように変化したら名前の確認は完了です。

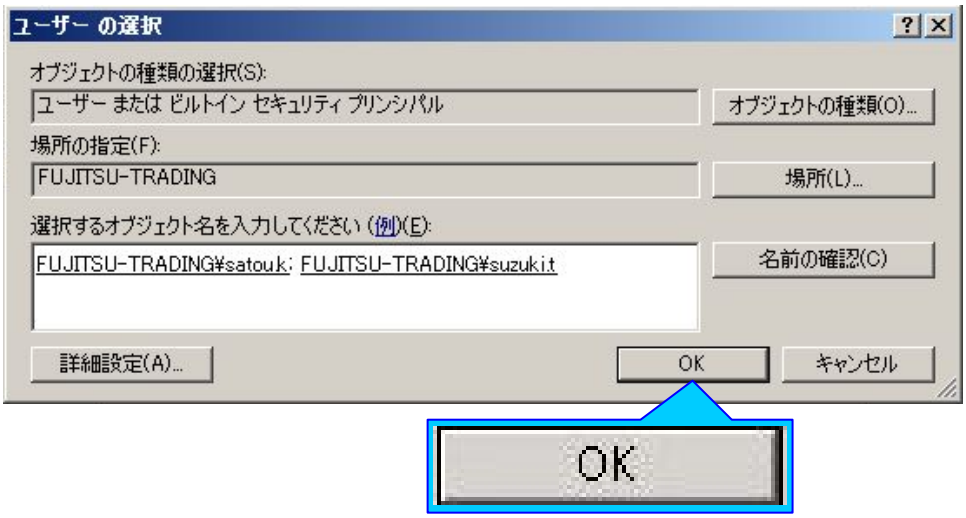
次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

5 連続してユーザーアカウントを追加します

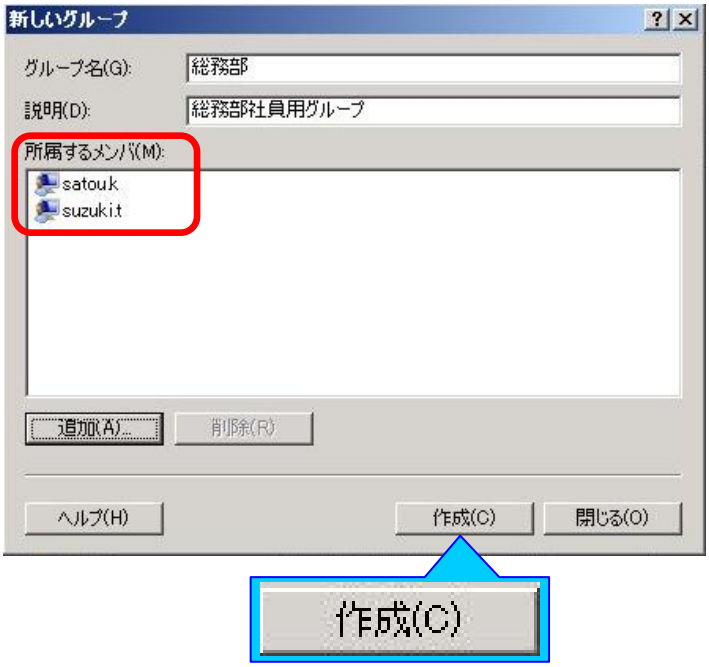
追加したいユーザーアカウントの数だけ、手順 3 ～ 4 を繰り返します。

全てのユーザーアカウントを追加し終わったら、[OK]をクリックして[ユーザーの選択]を終了します。



6 グループを作成します

ユーザーアカウントが追加されていることを確認し、[作成]をクリックします。



次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

7 連続してグループを作成します

グループを作成し終わると、最初の画面に戻ります。作成したいグループの数だけ、2 ～ 6 を繰り返します。

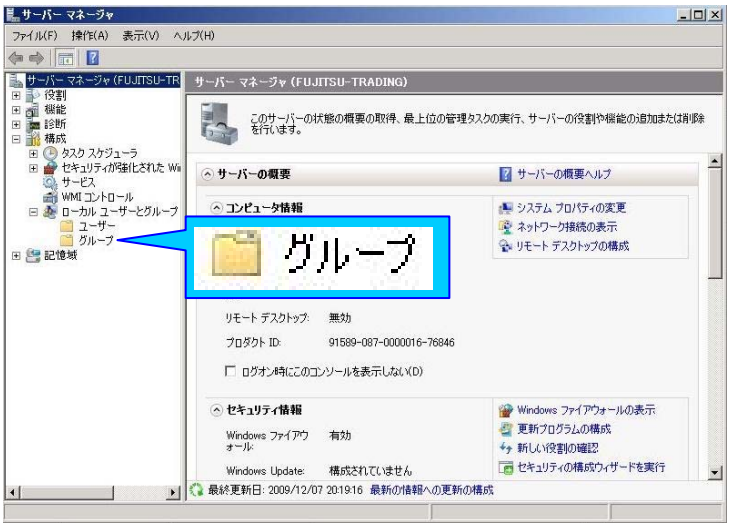
全てのグループを作成し終わったら、[閉じる]をクリックして終了します。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2 グループが正しく作成できたか確認します

1 グループを表示します

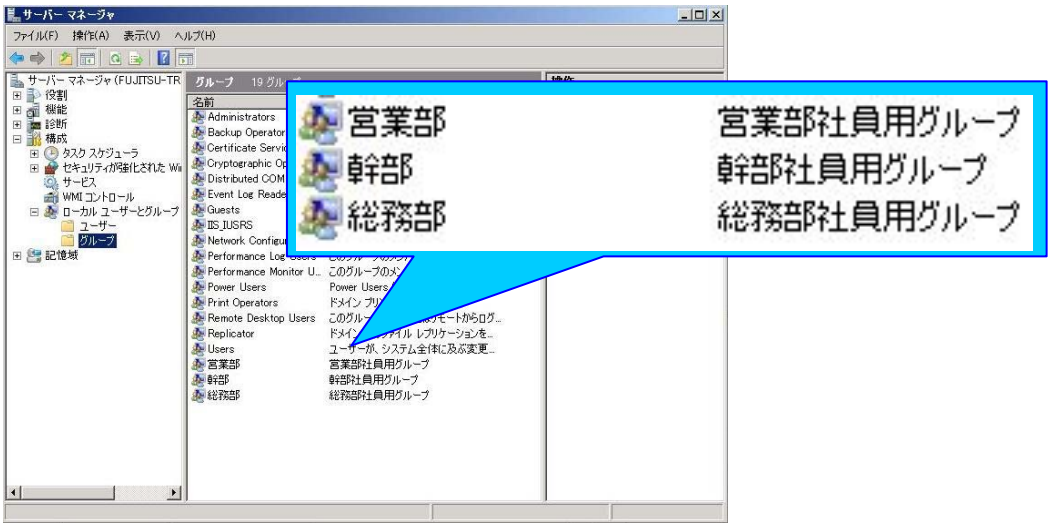
[グループ]をクリックします。



2 作成したグループを確認します

グループが作成できていることを確認します。確認できたらグループの作成は完了です。

※グループの作成し忘れがあった場合は、手順 *1* を再度行います。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

3.3 ファイル共有設定をしよう

■ 本節では、ファイル共有とアクセス制御設定の手順について説明しています。

次郎

グループが作成できたら、次はサーバに共有用のフォルダーを作成してファイル共有設定を行います。

作成したフォルダーに、どのグループがアクセスできるかを設定することによって、情報セキュリティが強化できます。

太郎さんの会社では、どのようにファイル共有を設定したいですか？

太郎

作成する共有用のフォルダーは、幹部、総務部、営業部のグループごとに1つずつと、全社員がアクセスできるフォルダーを1つ、合計4つ作成し、各フォルダーにアクセスできるグループは以下のようにしたいです。

フォルダー／グループ	全社員	幹部	総務部	営業部
幹部グループ	○	○	○	○
総務部グループ	○	×	○	×
営業部グループ	○	×	×	○

次郎

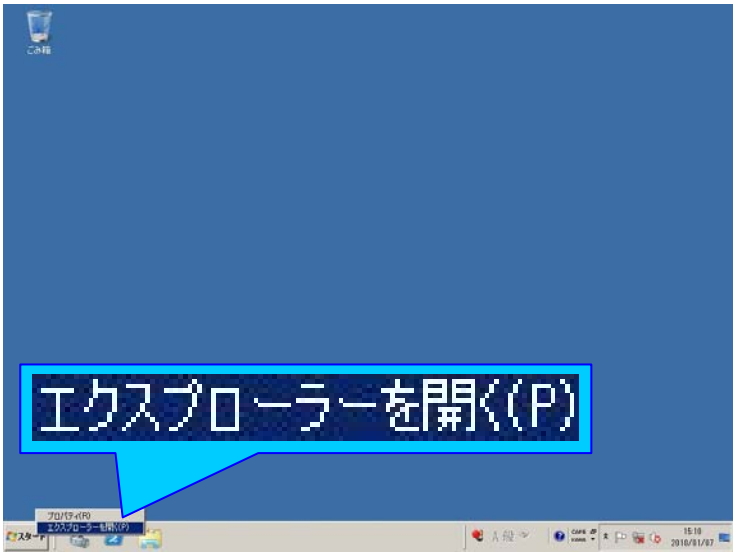
OKです。では、次のページから、総務部グループを例にして、ファイル共有を設定する手順を説明します。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

1 フォルダーを作成します

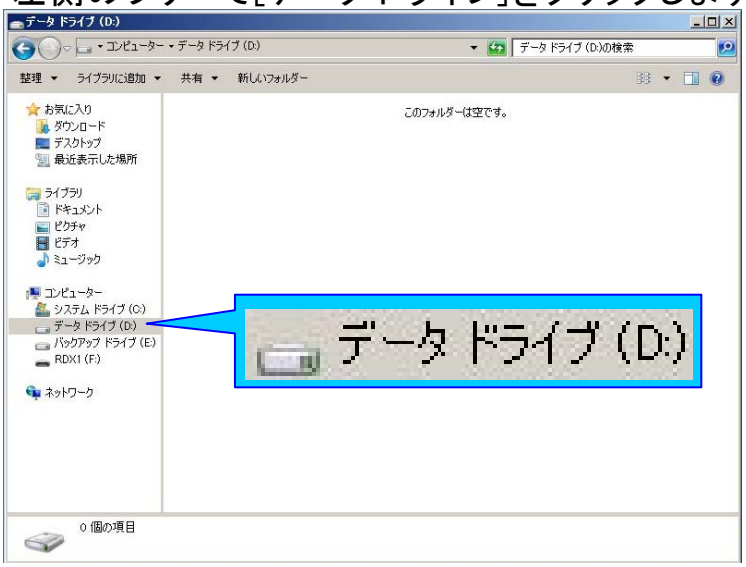
1 エクスプローラを開きます

[スタート]メニューを右クリックし、[エクスプローラーを開く]をクリックします。



2 [データ ドライブ] を開きます

左側のツリーで[データ ドライブ]をクリックします。

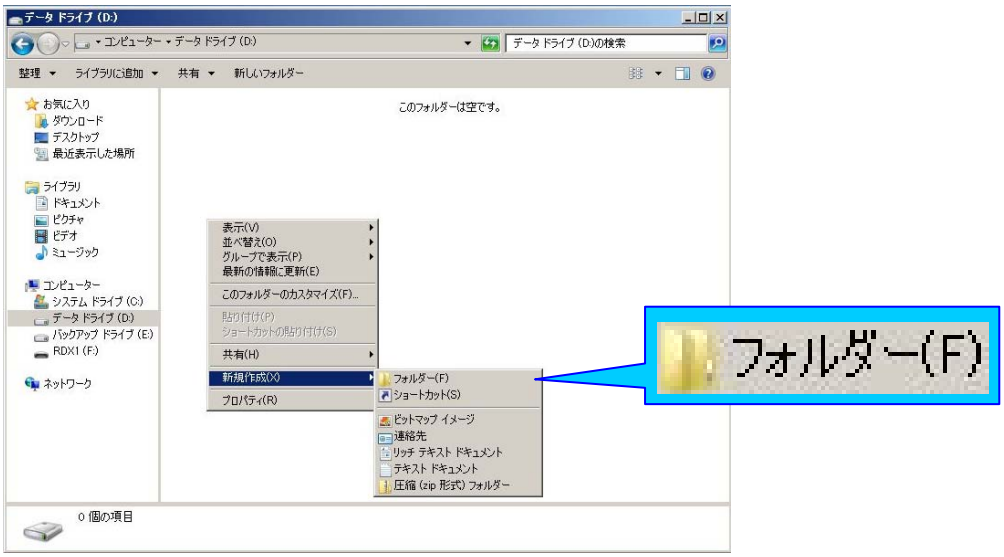


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

3 フォルダーを作成します

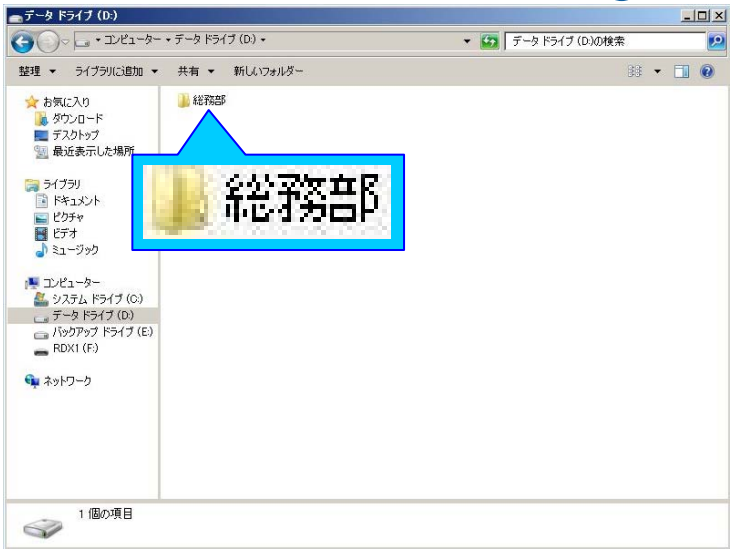
画面を右クリックして[新規作成]から[フォルダー]をクリックします。



4 フォルダーに名前をつけます

フォルダーに名前を入力します。

作成したいフォルダーの数だけ、2 ～3 を繰り返します。

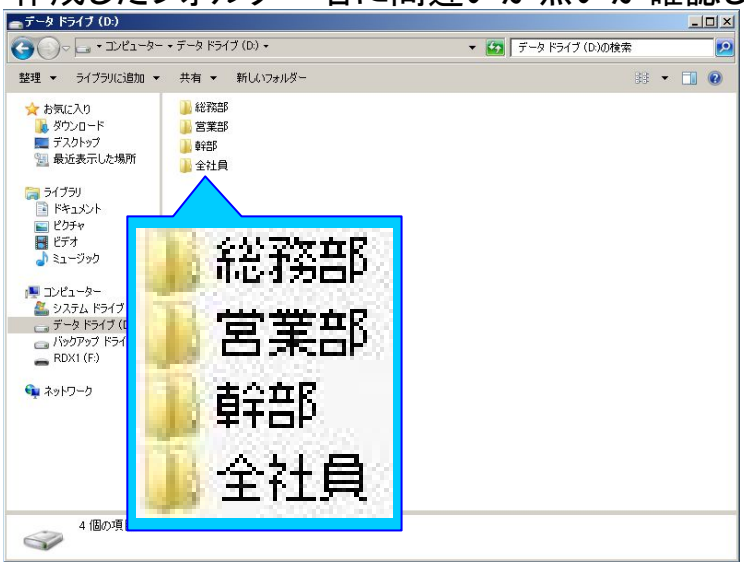


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

5 作成したフォルダーを確認します

作成したフォルダー名に間違いが無いか確認します。

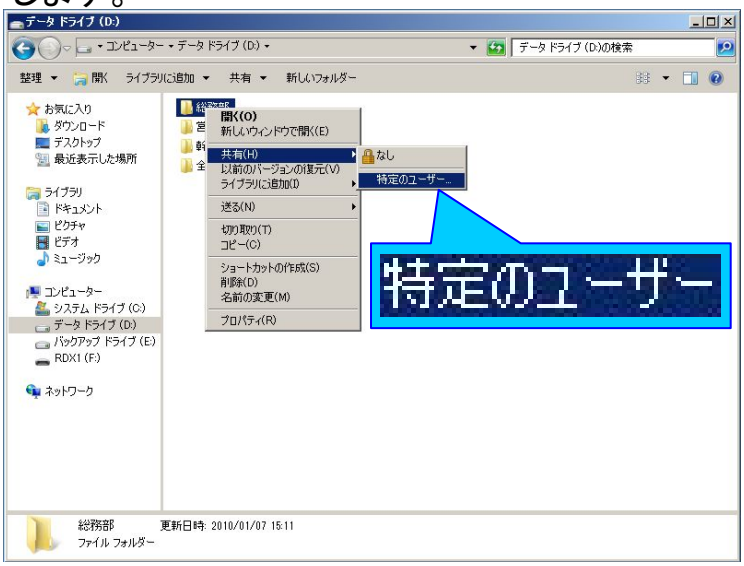


All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2 フォルダーに共有設定をします

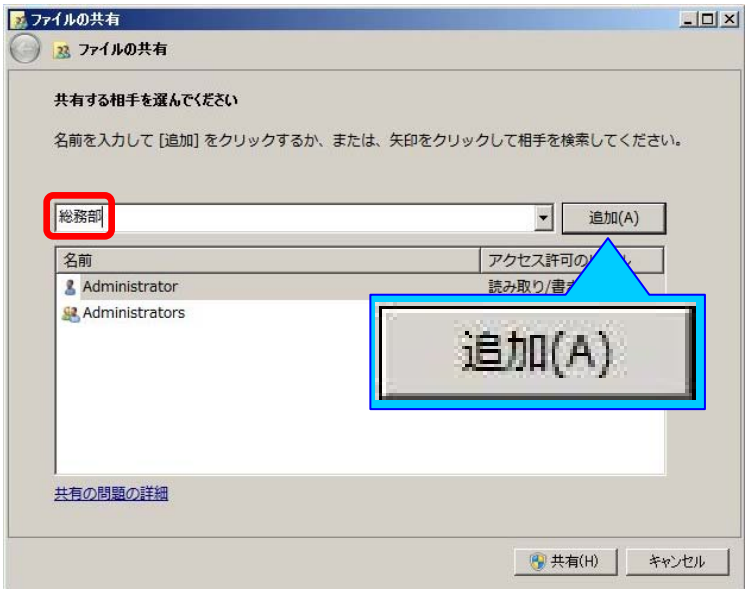
1 ファイルの共有画面を開きます

共有を行うフォルダーを右クリックし、[共有]から[特定のユーザー]をクリックします。



2 グループを登録します

[グループ名]を入力し、[追加]をクリックします。

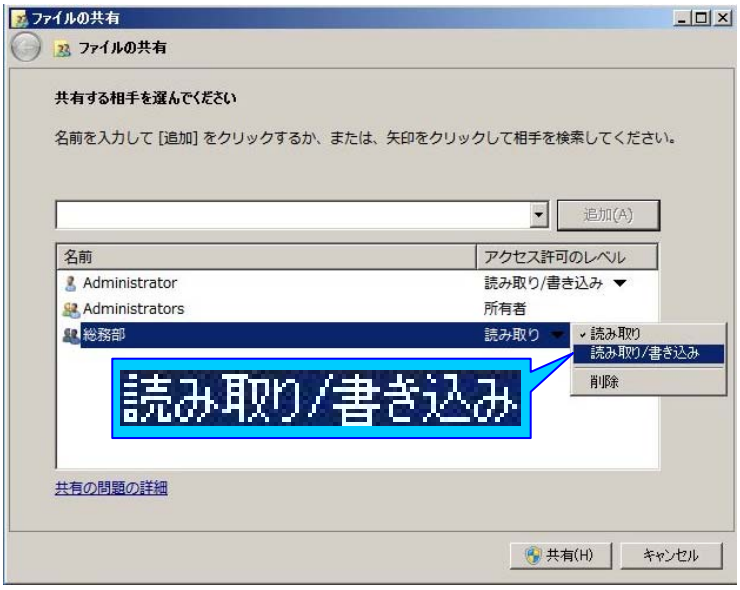


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

3 アクセス許可のレベルを設定します

追加したグループをクリックし、[読み取り/書き込み]をクリックします。



ポイント

ここで割り当てられたアクセス許可のレベルでできることは、以下の通りです。

読み取り	ファイルの表示のみできます。ファイルの追加･変更･削除はできません。
読み取り/書き込み	全てのファイルの表示･追加に加えて、ファイルの変更や削除も行うことができます。

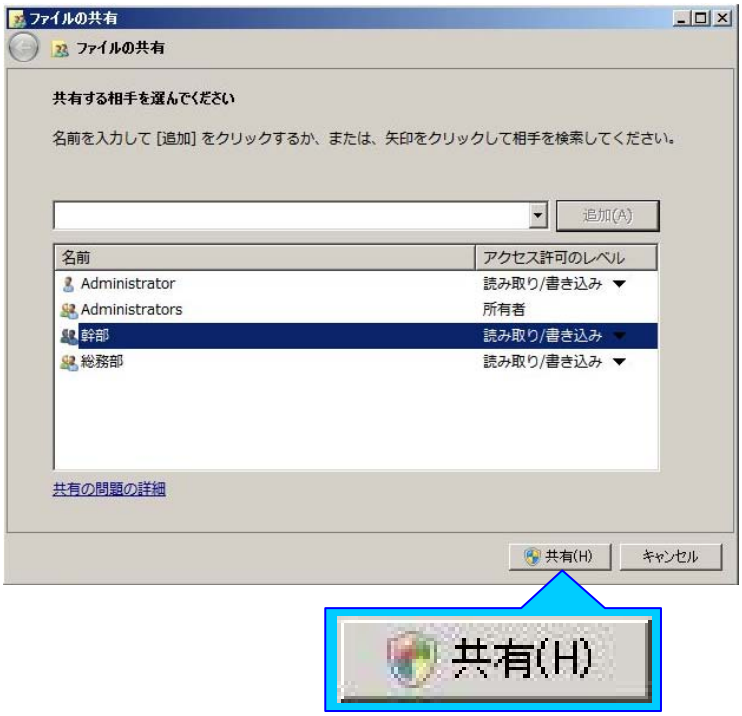
次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

4 連続してグループを追加します

追加したいグループの数だけ、2 ～ 3 を繰り返します。

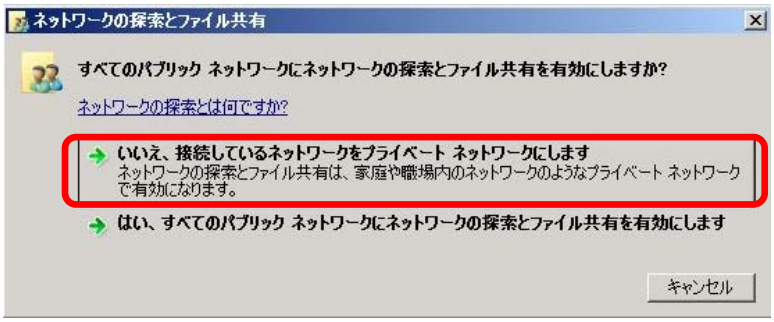
グループを全て追加し終わったら、[共有]をクリックします。



5 [ネットワークの探索とファイル共有] を設定します

[ネットワークの探索とファイル共有]の画面が表示されたら、[いいえ、接続しているネットワークをプライベートネットワークにします]をクリックします。

※この画面が表示されないこともありますが、作業に問題はありません。



次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

❻ 終了します

[終了]をクリックします。

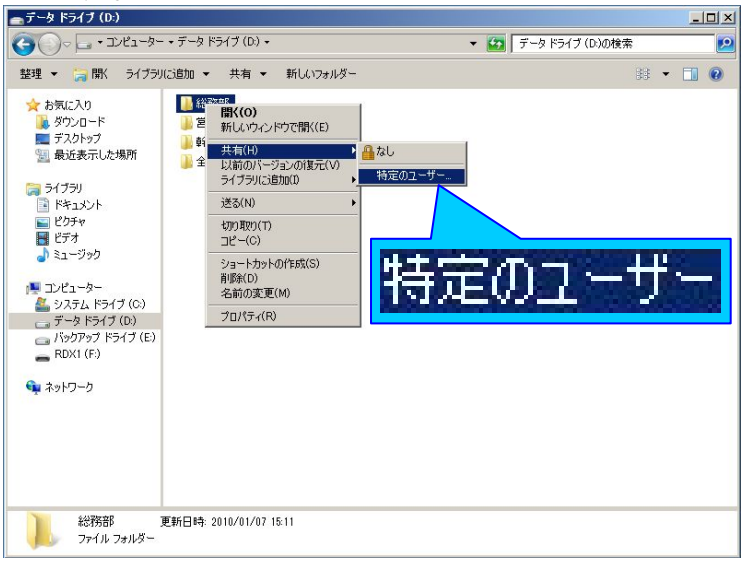
共有したいフォルダーの数だけ、❶～❻を繰り返します。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

3 共有が正しく出来たか確認します

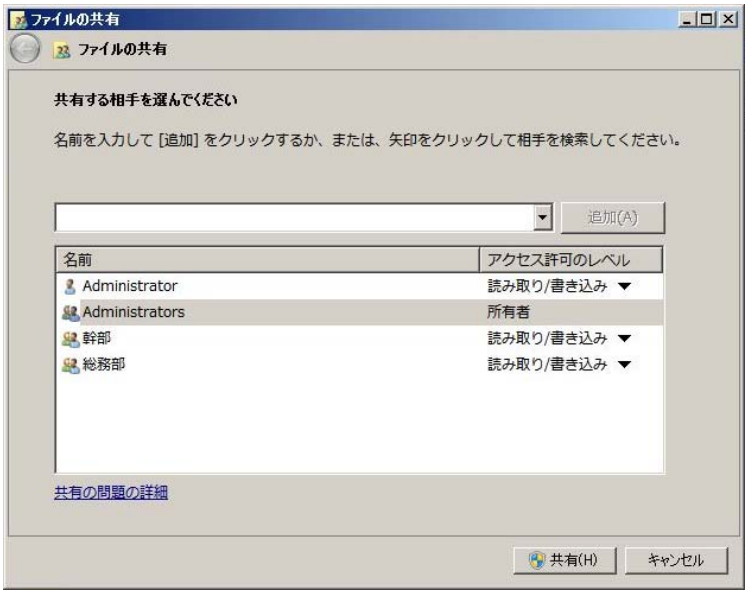
1 ファイルの共有画面を開きます

共有設定したフォルダーを右クリックし、[共有]から[特定のユーザー]をクリックします。



2 アクセス許可を確認します

ファイルの共有画面が表示されるので、間違いが無いか確認します。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

パソコンで作業を行います。

第4章
ファイルを共有しよう

4.1 共有フォルダーにアクセスしてみよう
4.2 共有フォルダーにファイルをコピーしよう

-TIPS- 日々の運用について
-TIPS- ユーザーアカウント数制限について

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

先ほどの作業で、サーバ側での設定は完了です。

次はパソコンで作業を行いましょう。

いまサーバの中には何のデータも入っていないから、パソコンからサーバにデータをコピーするのですね？

その通りです。
太郎さんもだんだんファイルサーバというものがわかってきたようですね。

パソコンで行う作業は以下の2つになります。

・共有フォルダーにアクセス
・共有フォルダーにファイルをコピー

All Rights Reserved, Copyright © 2009 FUJITSU LIMITED

4.1 共有フォルダーにアクセスしてみよう

FUJITSU

■ 本節では、パソコンからサーバの共有フォルダーにアクセスする手順について説明しています。

太郎

サーバへのアクセスは、僕の仕事用パソコンを使いたいと思います。OSはWindows 7です。

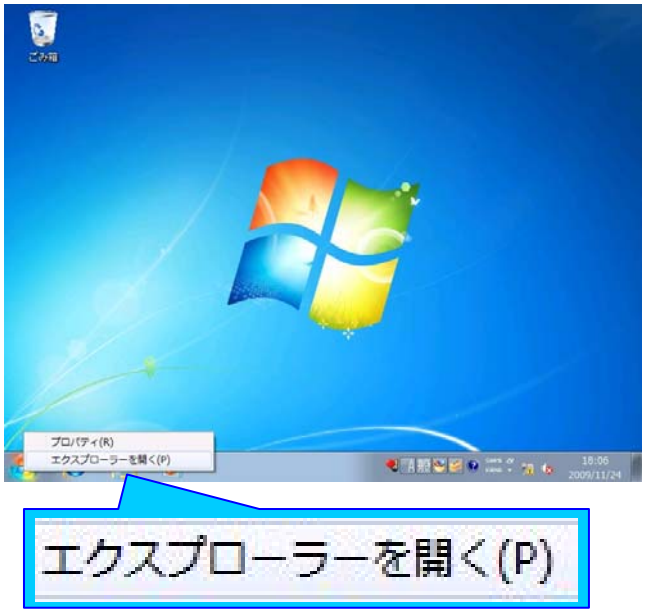
次郎

わかりました。
パソコンからサーバの共有フォルダーにアクセスする手順を説明します。

1 サーバにアクセスします

1 エクスプローラを開きます

[スタート]メニューを右クリックし、[エクスプローラーを開く]をクリックします。

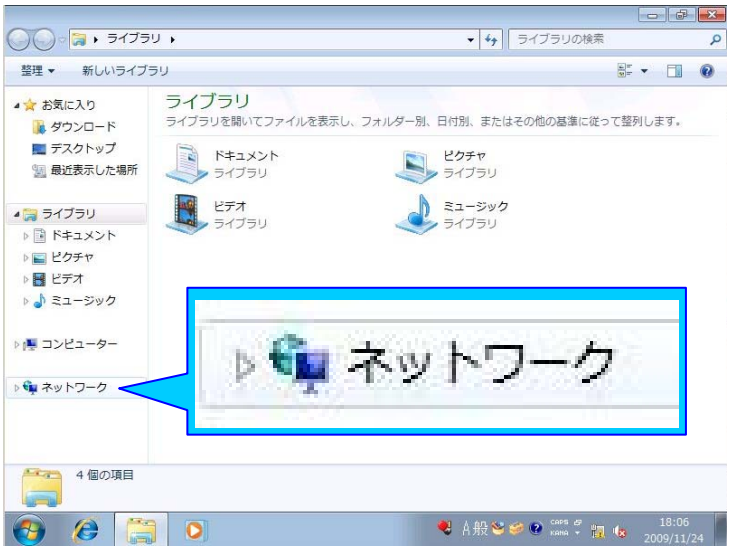


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2 ネットワークを開きます

[ネットワーク]をクリックします。



3 サーバにアクセスします

共有設定したサーバをダブルクリックします。

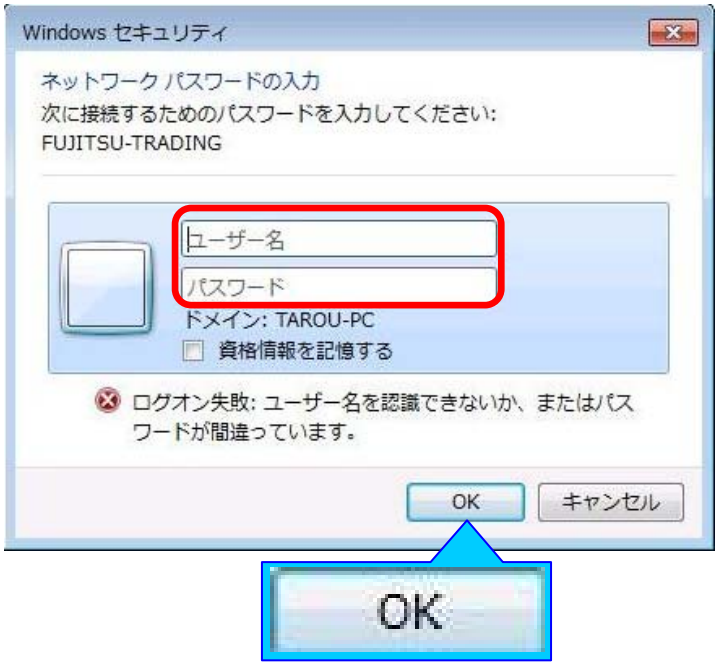
※サーバのアイコンが表示されない場合は、画面を右クリックし、[最新の情報に更新]をクリックします。

次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

4 ネットワークパスワードを入力します

サーバでユーザーアカウントを作成する際に設定した[ユーザー名][パスワード]を入力し、[OK]をクリックします。



5 アクセスできることを確認します

サーバにアクセスでき、共有フォルダーが閲覧できることを確認します。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2 共有フォルダーにアクセスします

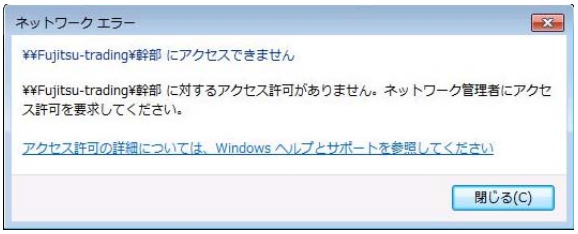
1 共有フォルダーを開きます

共有フォルダーをダブルクリックします。

2 アクセス許可がある場合

共有フォルダーを開けることを確認します。

3 アクセス許可がない場合



アクセスできず、[ネットワーク エラー]が表示されます。[閉じる]をクリックします。

※もし想定していたアクセス許可と食い違った場合は、サーバ側の共有設定を見直してください。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

4.2 共有フォルダーにファイルをコピーしよう

■ 本節では、パソコンからサーバの共有フォルダーに、ファイルをコピーする手順について説明しています。

太郎

僕のパソコンの中にあるファイルを、先ほどアクセスした共有フォルダーにコピーすれば、サーバで共有できることになるのですね？

次郎

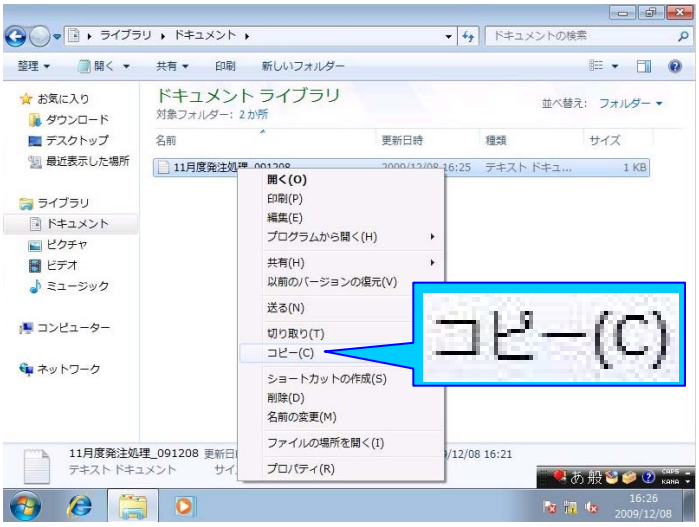
はい、その通りです。
サーバでファイルを共有するために、パソコン内のファイルを共有フォルダーにコピーする手順を説明します。

1 パソコンからサーバにファイルをコピーします

1 ファイルをコピーします

パソコン内の共有したいファイルをコピーします。

※画像の作業例では1つのファイルしかコピーしていませんが、一度に複数のファイルを共有フォルダーにコピーすることも可能です。



次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2 サーバにアクセスします

[ネットワーク]をクリックし、共有設定したサーバをダブルクリックします。

3 共有フォルダーを開きます

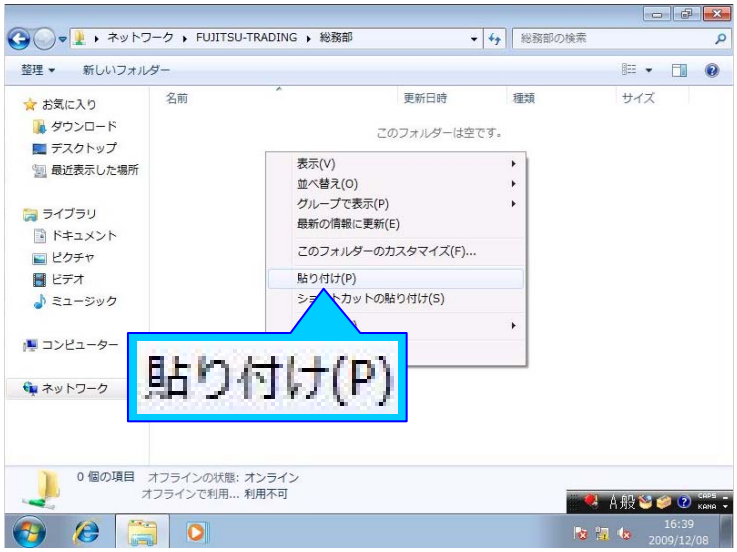
ファイルを置きたい共有フォルダーをダブルクリックします。

次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

4 ファイルを貼り付けます

共有フォルダー内に先ほどコピーしたファイルを貼り付けます。

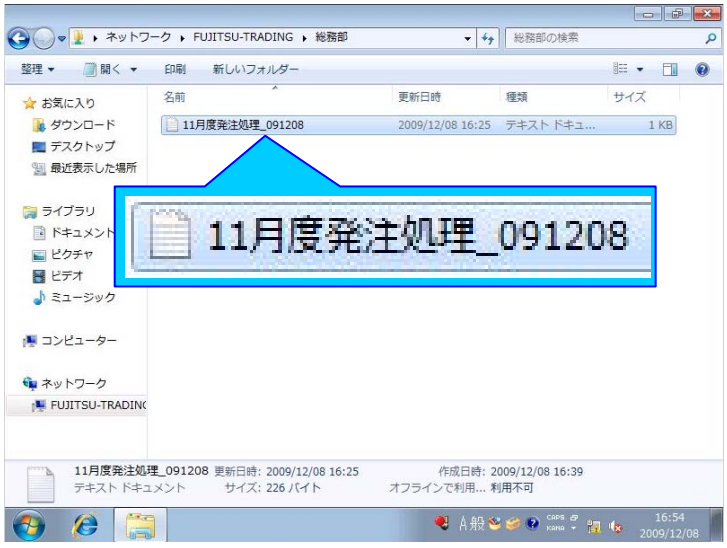


注意

[読み取り]権限では共有フォルダーにファイルをコピーすることはできません。[読み取り/書き込み]の権限を与えるようにしてください。

5 ファイル共有を確認します

他のユーザーのパソコンからサーバの共有フォルダーにアクセスし、貼り付けたファイルが見られることを確認します。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

次郎

無事にファイルを共有フォルダーにコピーすることができましたね。

これらのファイル共有の手順と、それぞれの方のID・パスワードを太郎さんが社員の皆さんに教えてあげてください。

太郎

わかりました！

その他にやるべきことは何かありますか？

次郎

とても大事なことが1つあります。

サーバのデータ損失防止の対策が必要不可欠です。この作業をやっておかないと、サーバのデータを失う危険性があり、会社の業務停止や信用問題に発展する恐れがあります。

太郎

大量のデータをサーバに集めている分、サーバのデータが失われると会社の損失も大きいというわけですね。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

-TIPS-
日々の運用について

次郎

ファイルサーバの日々の運用について、ポイントを説明します。
これらのポイントを守ってファイルサーバの運用を行うようにしてください。

ドキュメント作成時の注意点

ファイルサーバ構築後、共有フォルダーではパソコンと変わらぬドキュメント作成･編集が可能です。

但し、パソコンからサーバの共有ファイルを削除すると、[ゴミ箱]に移動せずに完全に削除されてしまいます。誤削除･上書き事故対策のために第5章の作業を実施することをお奨めします。

定期的なバックアップを実施

サーバのデータ損失防止の対策として、定期的にバックアップを実施することをお薦めします。

⇒バックアップを主としたデータ損失防止の対策に関しては、第5章で詳しく説明しています。

定期的に空き容量をチェック

定期的にサーバの空き容量を把握する。

空き容量が減っているようであれば、ファイルを圧縮したり、メディアに移したりして空き容量を増やす必要があります。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

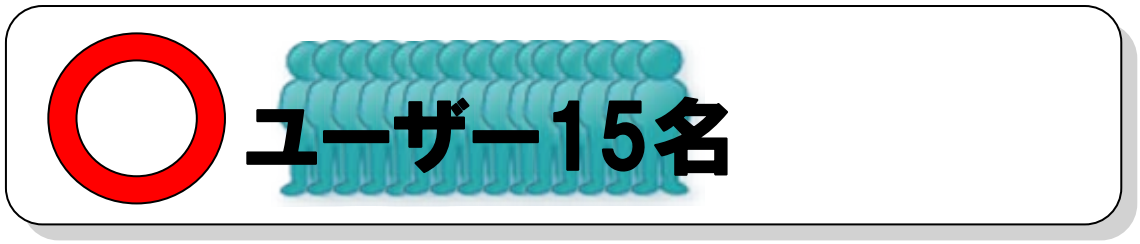
-TIPS-
ユーザーアカウント数制限について

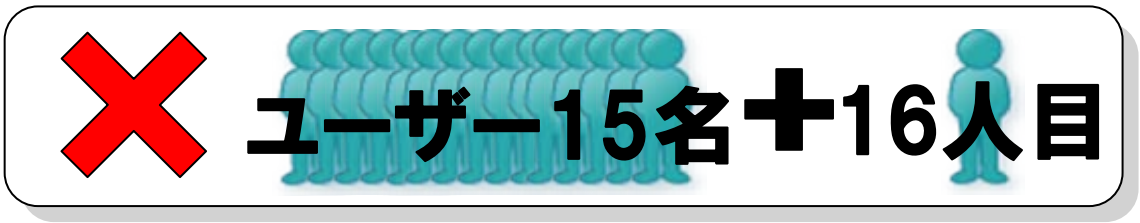
注意

Windows Server 2008 R2 Foundationでは、ユーザーアカウント数は最大で15までに制限されています。16以上のユーザーアカウントを作成すると、ライセンス違反となります。

16以上のユーザーアカウントをサーバで使用したい場合は、Windows Server 2008 R2の上位エディションがインストールされたサーバに買い換えるか、OSのアップグレードをする必要があります。

StandardやEnterpriseといった上位エディションには、ユーザーアカウント数の制限がありません。





All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

サーバで作業を行います。

第5章
大切なデータを失わないために

5.1 バックアップ機能をインストールしよう
5.2 システムのバックアップ
5.3 システムの復元
5.4 データの復元
5.5 シャドウコピーを設定しよう
5.6 シャドウコピーでファイルの復元

補足:外部領域へのバックアップイメージのコピー
補足:外部領域を使用したシステムの回復

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

データ損失防止の対策は必要不可欠です。これをやっておかないと、人為的なミスや万が一のサーバ故障などで、データを失う危険性が常につきまといます。

データ損失防止の対策をしないままサーバが故障すると、データが失われて、サーバ内のファイルが消えてしまうのですね。

その通りです。失われたデータは二度と戻ってこず、会社への損失は計り知れません。

データ損失防止の対策には以下の二つがあります。必ず両方とも行うようにしましょう。

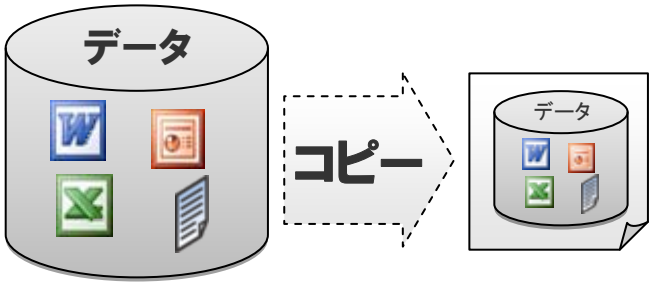
・バックアップ
・シャドウコピー

All Rights Reserved, Copyright © 2009 FUJITSU LIMITED

次郎

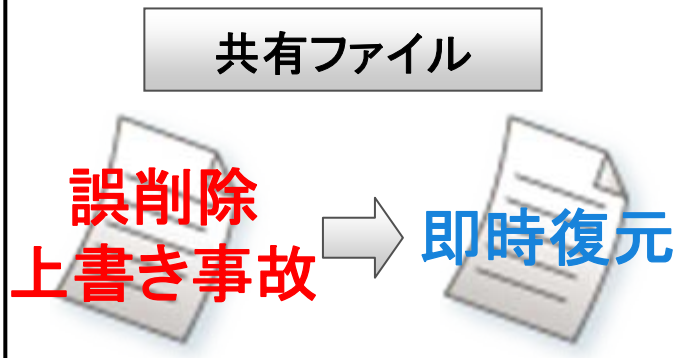
バックアップとシャドウコピーの概要は以下の通りです。

バックアップ



- サーバのシステム･データを別の領域にコピー･管理します。
- バックアップを取っておけば、誤った操作でデータを消した時などにデータを失わずに済み、サーバ故障時の復元時間も短縮できます。

シャドウコピー



- 共有フォルダー内のデータを自動で世代管理します。
- ユーザーが共有ファイルを誤って消去･上書きなどをした際に、すぐさま自分で任意の世代のファイルに復元することができます。

注意

同一のハードディスク内でバックアップを行っている場合、ハードディスクが故障した際には、サーバのデータとバックアップの両方が失われます。

TX100 S1のオプション製品を使用することによって、バックアップはより万全になります。オプション製品を使用したバックアップの詳しい手順については、章末の[補足:外部領域へバックアップイメージをコピー/外部領域を使用したシステムのリストア]を参照してください。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

5.1 バックアップ機能をインストールしよう

■ 本節では、サーバにバックアップ機能をインストールする手順について説明しています。

次郎

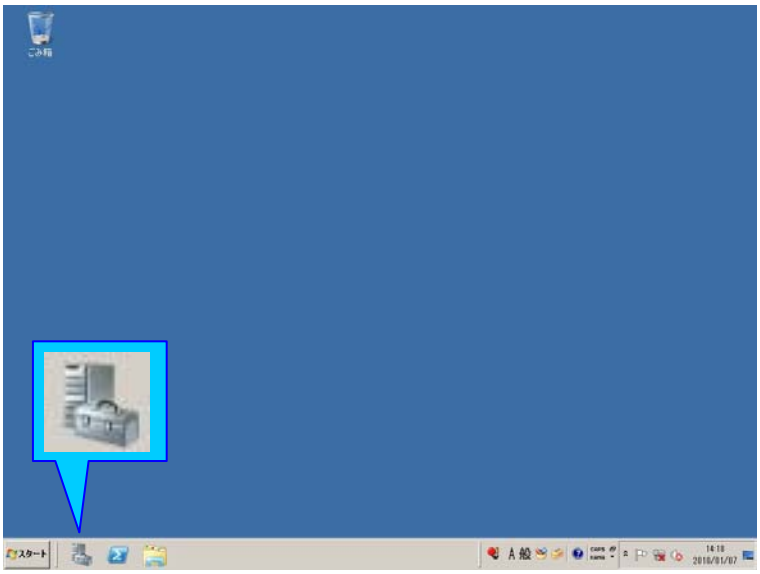
サーバでバックアップを行うためには、まずサーバにバックアップ機能をインストールする必要があります。インストール手順を説明します。

1 バックアップ機能をインストールします

1 [サーバー マネージャー] を起動します

画面左下の[サーバー マネージャー]アイコンをクリックします。

※[サーバー マネージャー]が起動している場合、この作業は必要ありません。

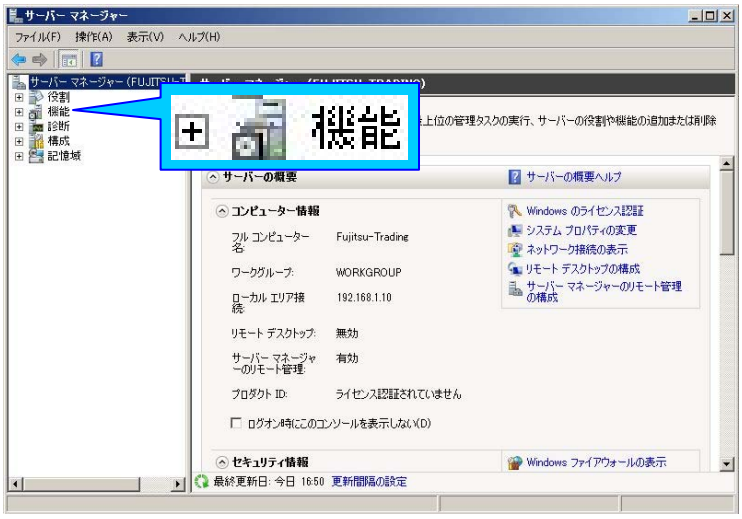


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

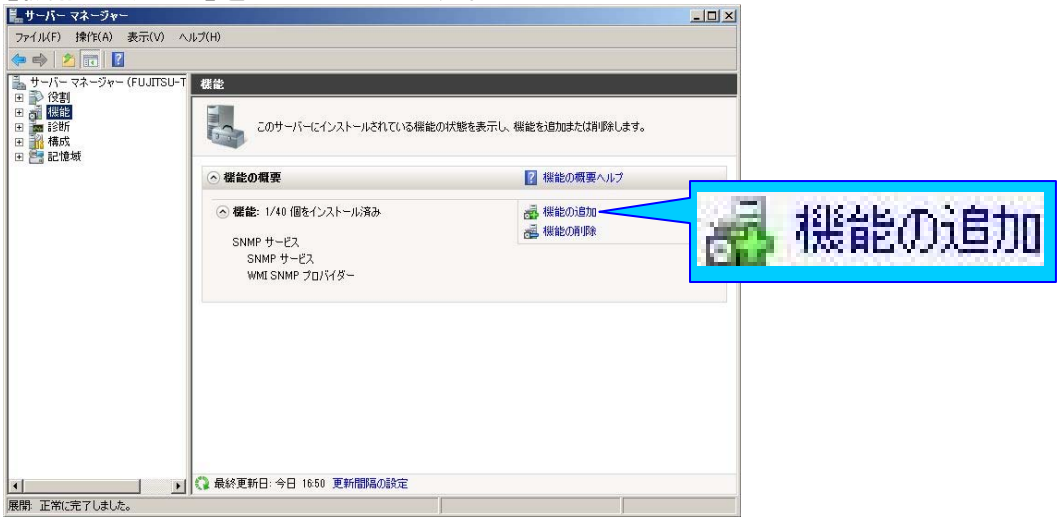
2 [機能] を開きます

[サーバー マネージャー]で[機能]をクリックします。



3 [機能の追加ウィザード] を開きます

[機能の追加]をクリックします。



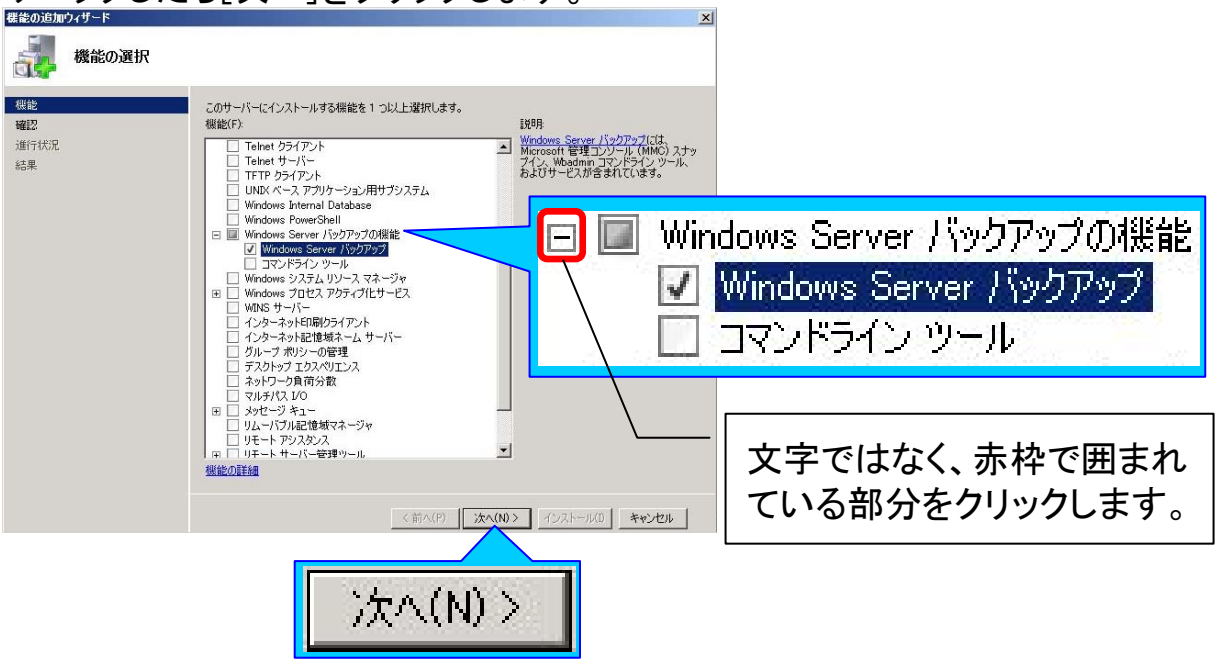
次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

4 機能を選択します

[機能の追加ウィザード]で、[Windows Server バックアップの機能]をクリックし、[Windows Serverバックアップ]にチェックします。

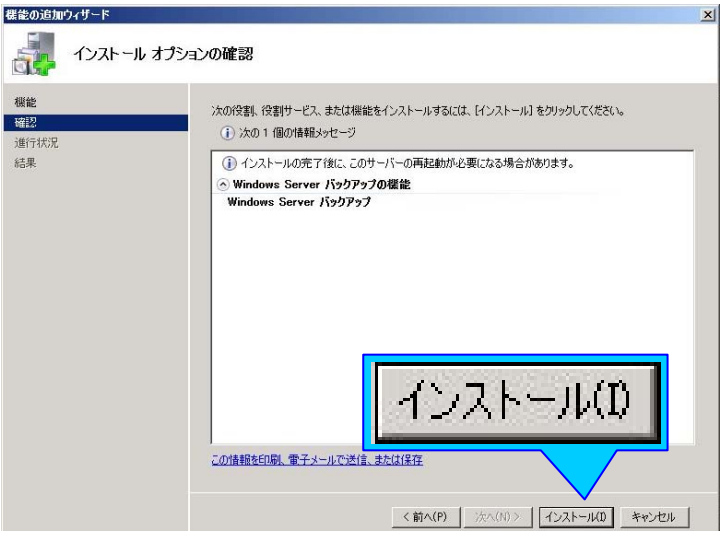
チェックしたら[次へ]をクリックします。



文字ではなく、赤枠で囲まれている部分をクリックします。

5 機能をインストールします

[インストール]をクリックします。

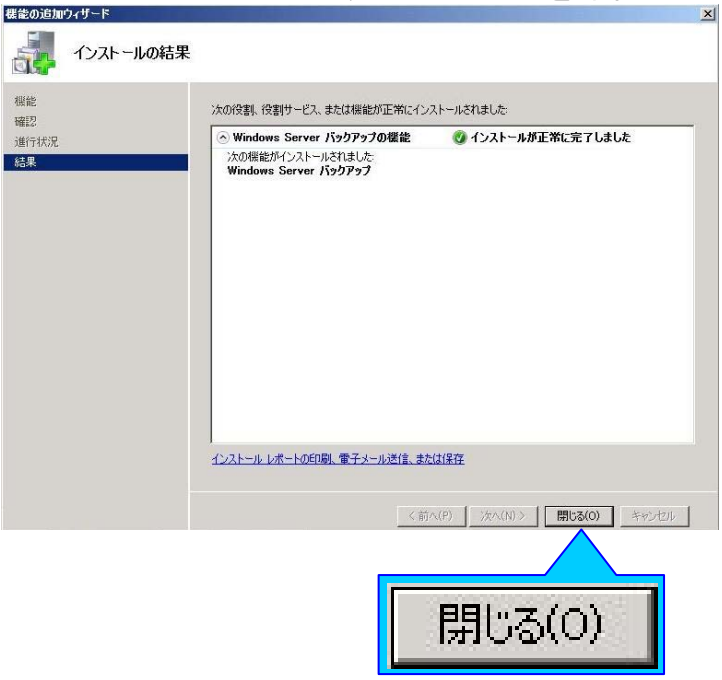


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

6 インストールを終了します

インストールが正常に完了したことを確認したら、[閉じる]をクリックします。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

5.2 システムのバックアップ

FUJITSU

■ 本節では、サーバのバックアップ機能でシステムのバックアップを行う手順について説明しています。

太郎

サーバのバックアップをするにあたって、何か注意事項はありますか？

次郎

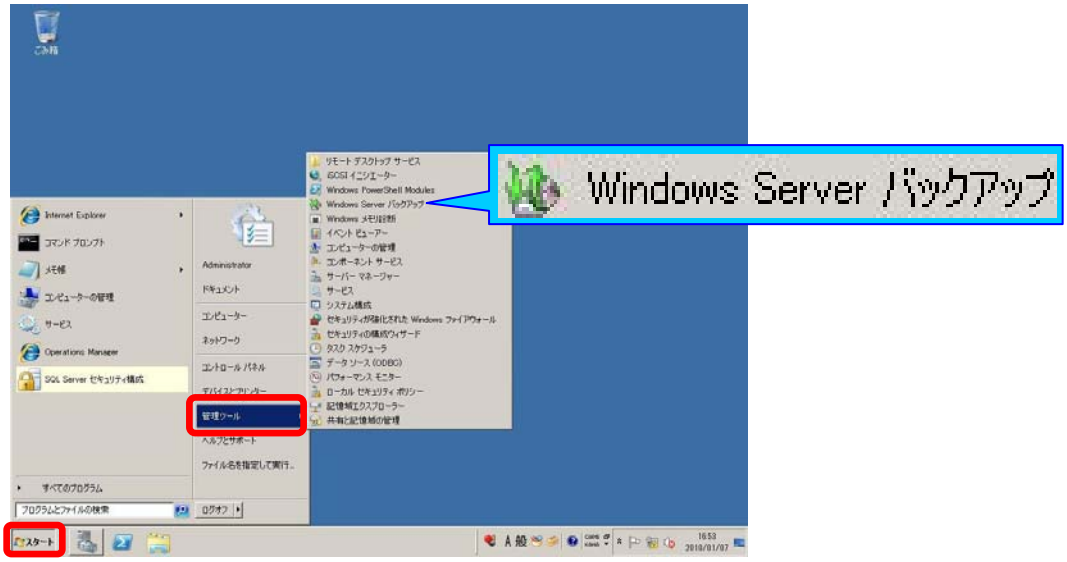
はい、バックアップを行っている最中はサーバに高い負荷がかかるので、バックアップは業務時間外に行い、他の業務はなるべく行わないようにすることをお奨めします。

では、システムのバックアップを行う手順を説明します。

1 バックアップを行います

1 [Windows Server バックアップ] を起動します

[スタート]メニューをクリックし、[管理ツール]から[Windows Server バックアップ]をクリックします。

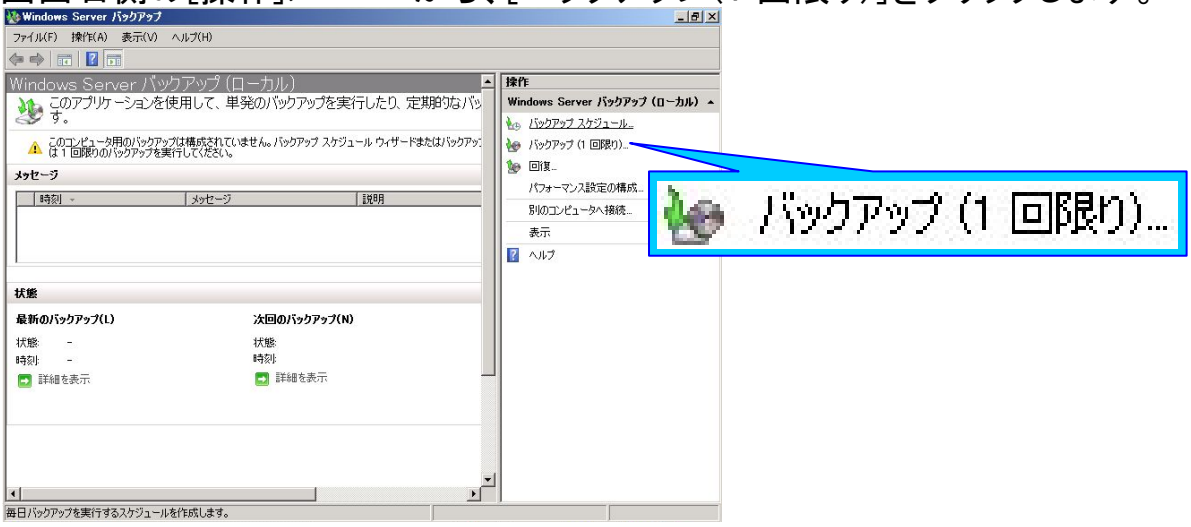


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

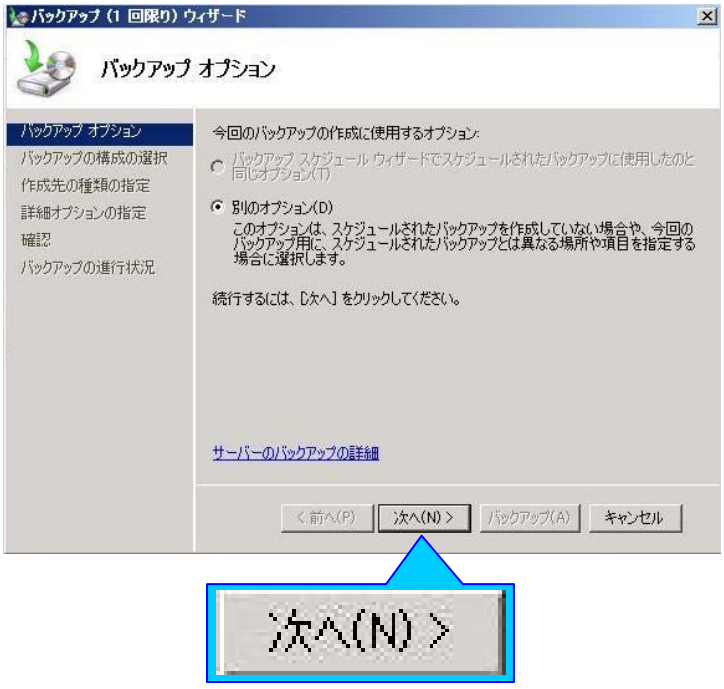
2 [バックアップ(1 回限り)ウィザード] を開きます

画面右側の[操作]メニューから、[バックアップ(1 回限り)]をクリックします。



3 バックアップオプションを選択します

[次へ]をクリックします。

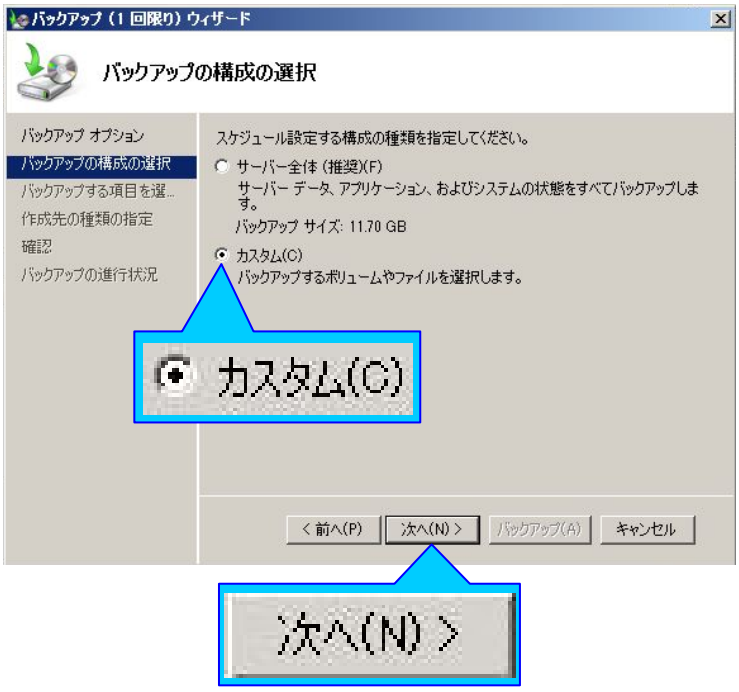


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

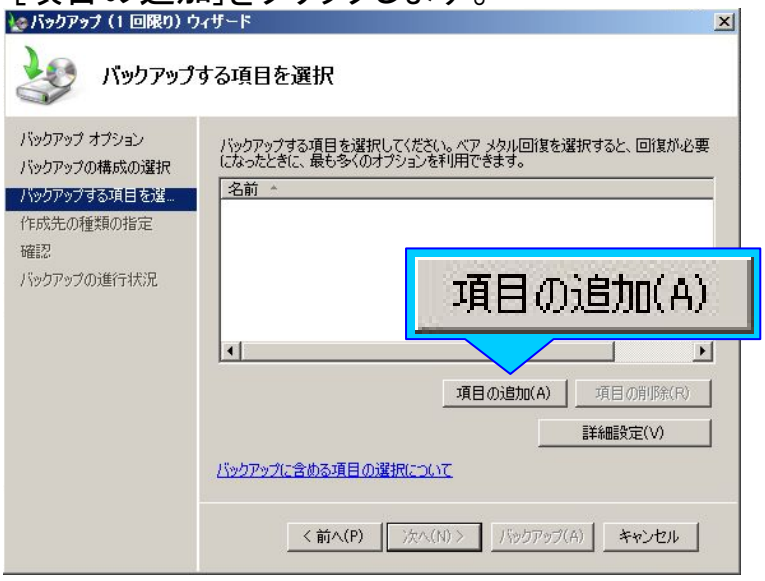
4 バックアップの構成を選択します

[カスタム]を選択し、[次へ]をクリックします。



5 バックアップする項目を追加します

[項目の追加]をクリックします。

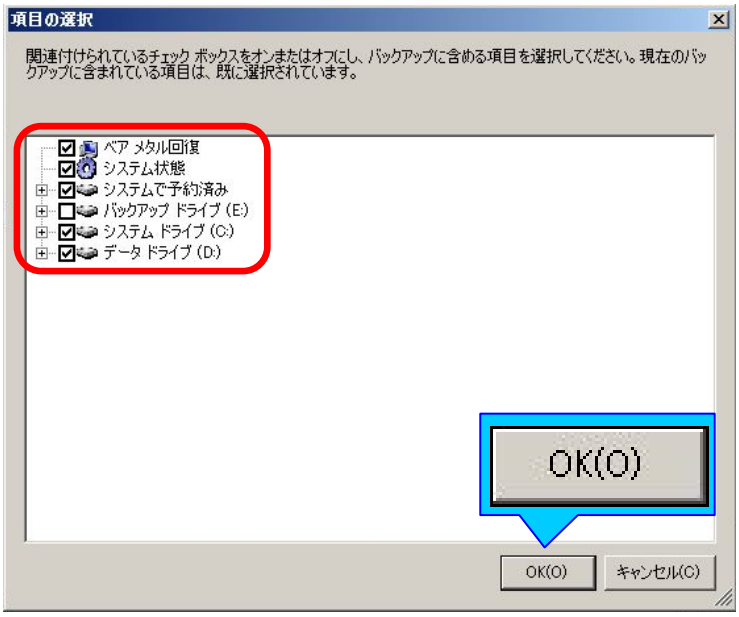


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

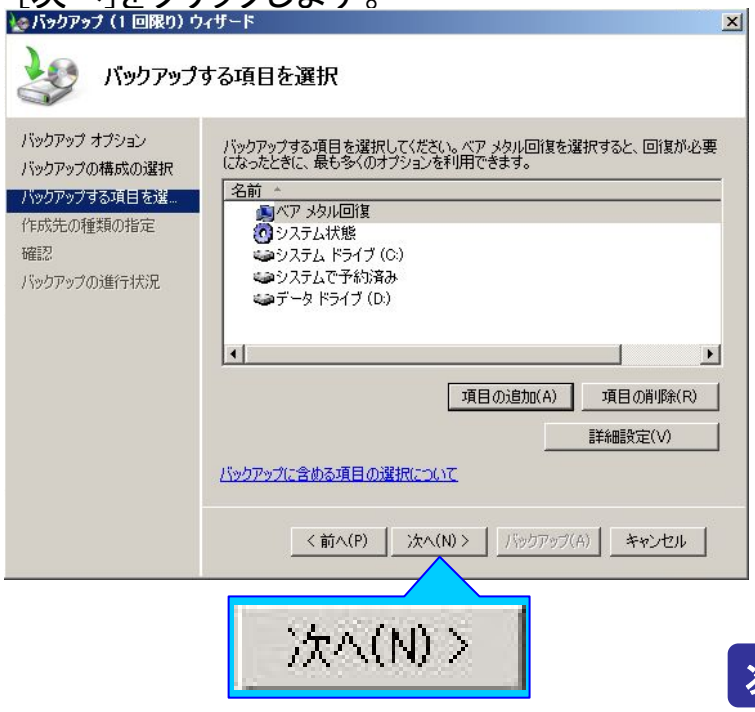
6 バックアップに含める項目を選択します

[バックアップ ドライブ]を除くドライブを全てチェックし、[OK]をクリックします。



7 バックアップする項目を選択します

[次へ]をクリックします。

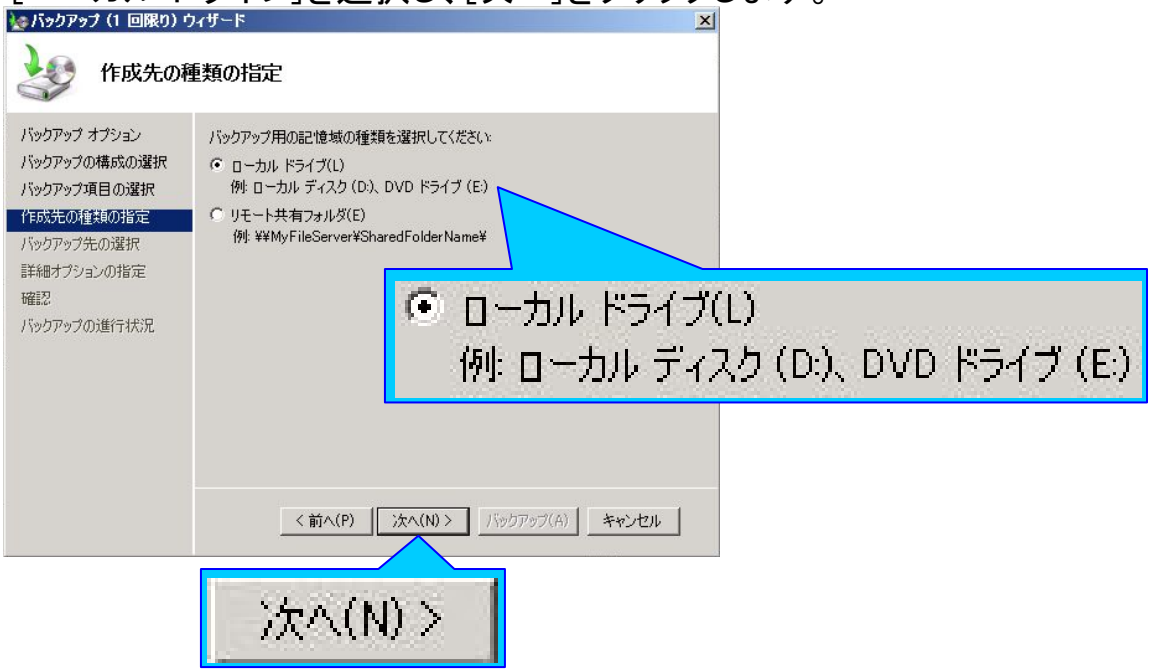


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

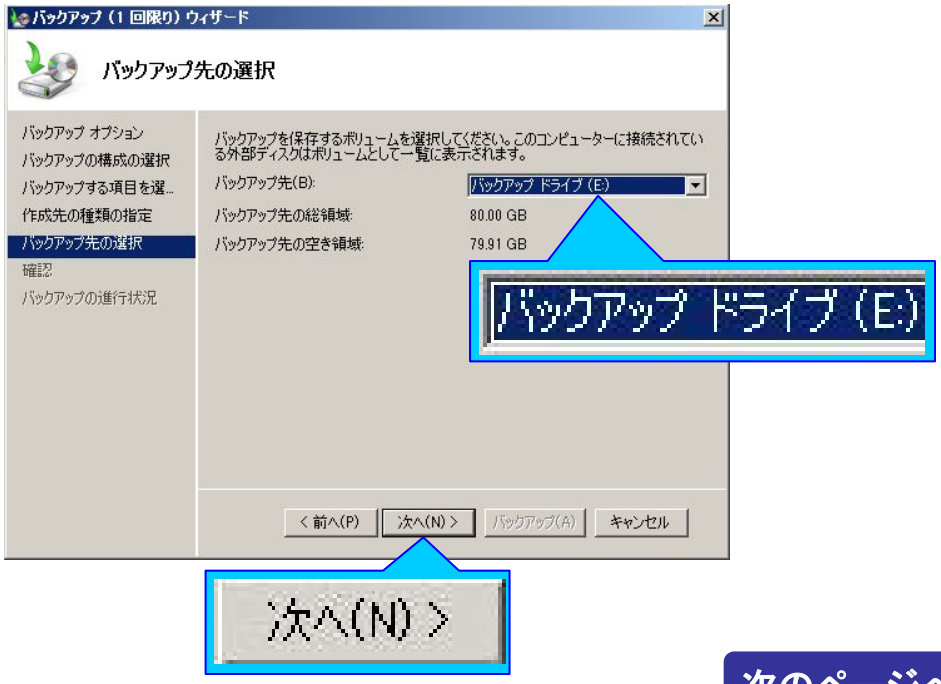
8 作成先の種類を指定します

[ローカル ドライブ]を選択し、[次へ]をクリックします。



9 バックアップ先を選択します

[バックアップ先]に[バックアップ ドライブ]を選択し、[次へ]をクリックします。

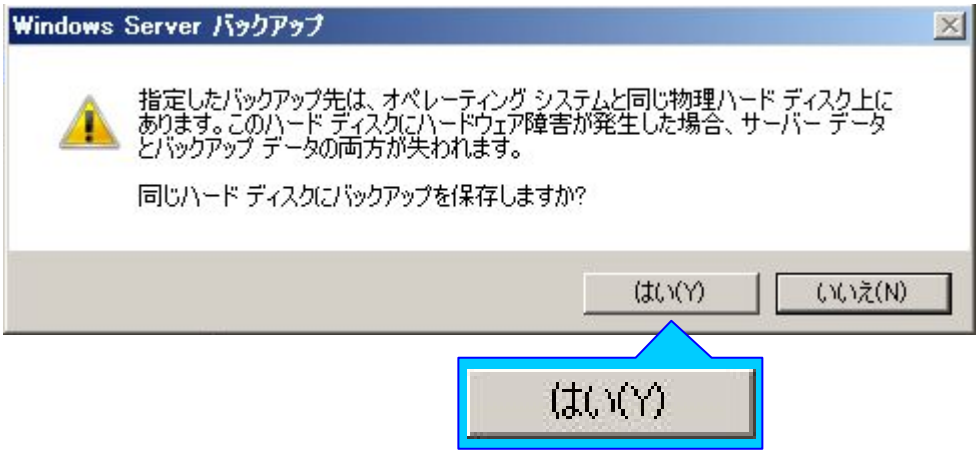


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

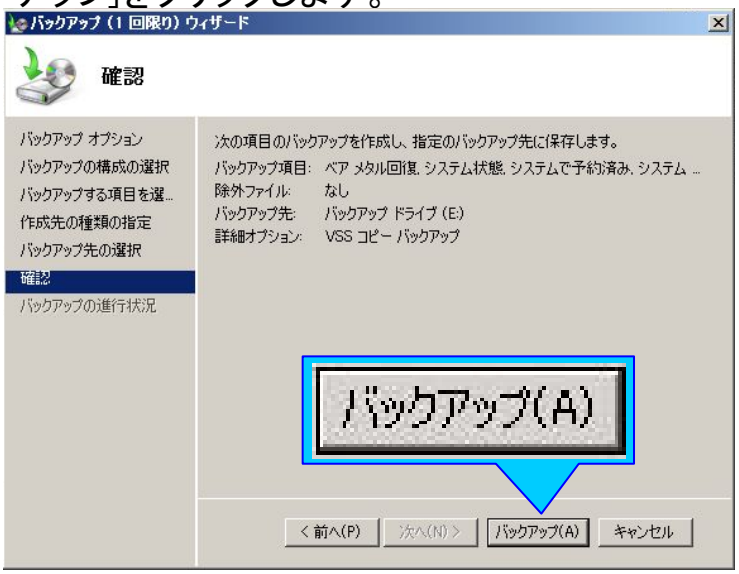
10 注意事項を確認します

同じ物理ハードディスク上にバックアップを実行する際には、以下のポップアップが表示されます。[はい]をクリックします。



11 バックアップの内容を確認します

設定したバックアップの内容が表示されるので確認し、問題無ければ[バックアップ]をクリックします。



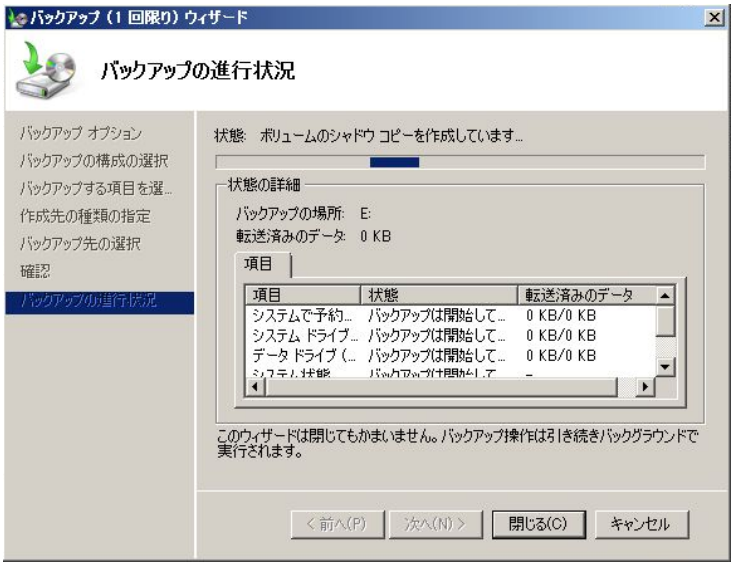
次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

12 バックアップの進行状況を確認します

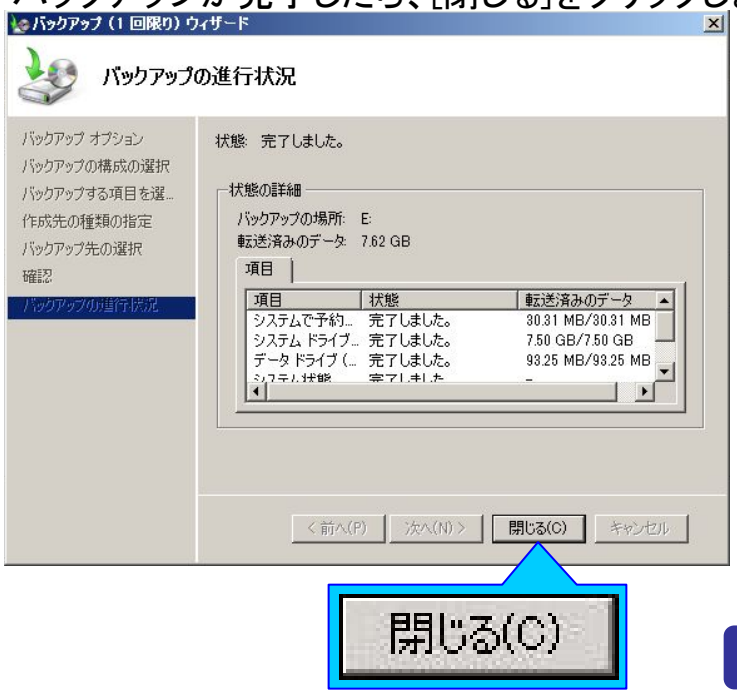
バックアップが始まります。

バックアップするディスクの使用量によって、バックアップにかかる時間は変動します。



13 バックアップを終了します

バックアップが完了したら、[閉じる]をクリックします。

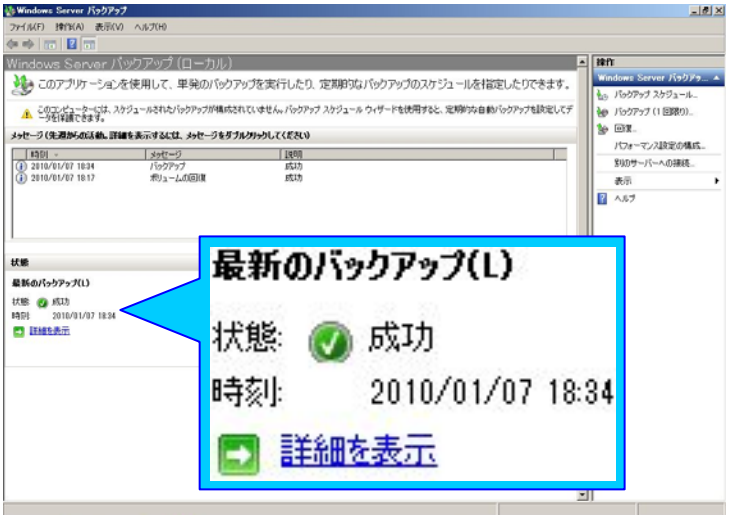


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

14 バックアップの詳細を表示します

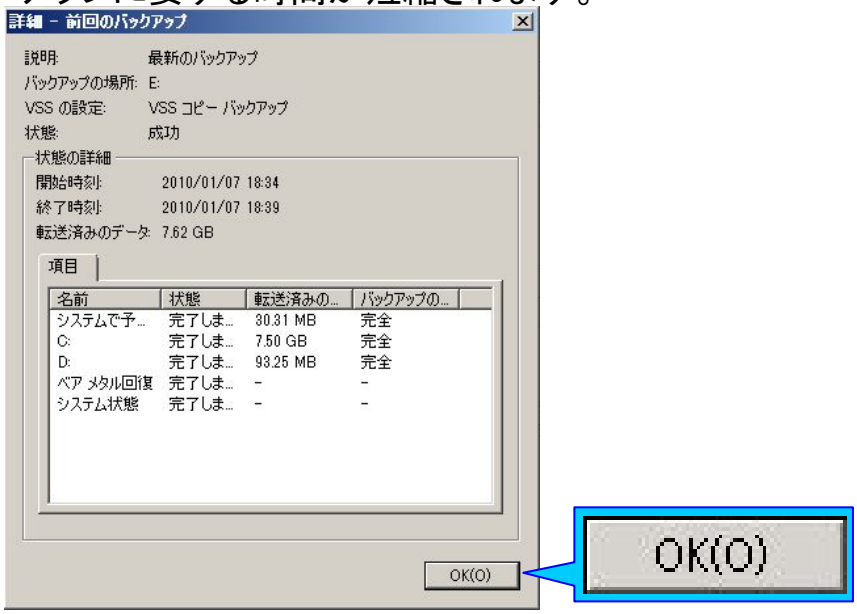
[状態]メニューで最新のバックアップの詳細を確認することができます。
[詳細を表示]をクリックします。



15 バックアップの詳細を確認します

バックアップの詳細が表示されます。

※2回目以降のバックアップは、初回・前回のバックアップから変更・追加された部分だけをバックアップする増分バックアップが自動で行われるため、バックアップに要する時間が短縮されます。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

5.3 システムの復元

■ 本節では、サーバのバックアップ機能でシステムの復元を行う手順について説明しています。

次郎

システムの復元を行うと、バックアップを行った時点の状態にシステムを戻せます。バックアップ後のシステム変更内容は失われてしまうので注意が必要です。

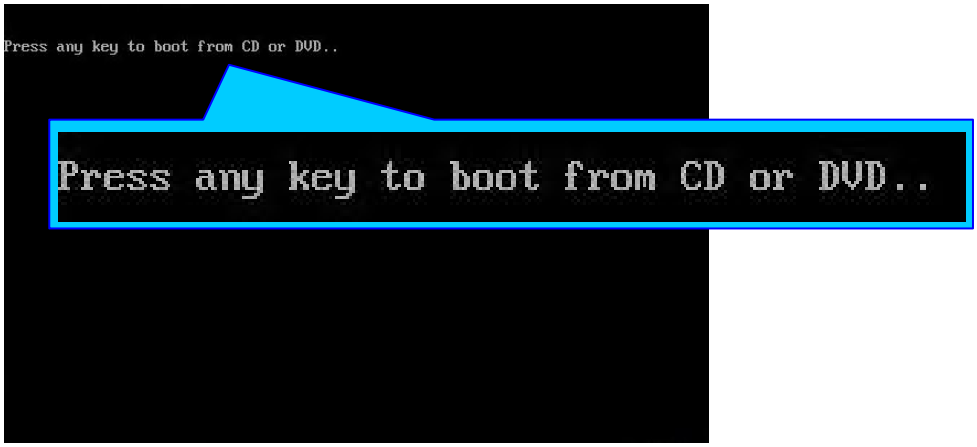
では、システムを復元する手順を説明します。

1 システムの復元を行います

1 OSインストール用DVDからサーバを起動します

サーバに電源を入れ、DVDドライブにサーバ添付のインストール用DVDを挿入します。DVDを挿入したらすぐにキーボードの[Ctrl] [Alt] [Delete]を同時に押し、サーバを再起動します。

サーバが再起動し、しばらくして[Press any key to boot from CD or DVD..]と表示されたら、キーボードのキーをどれか押します。

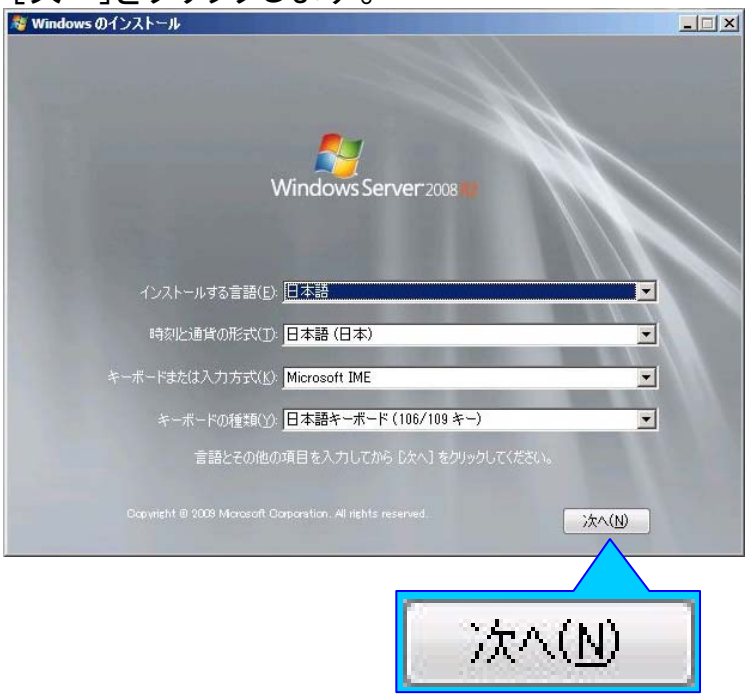


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2 復元作業を開始します

[次へ]をクリックします。



3 コンピュータを修復します

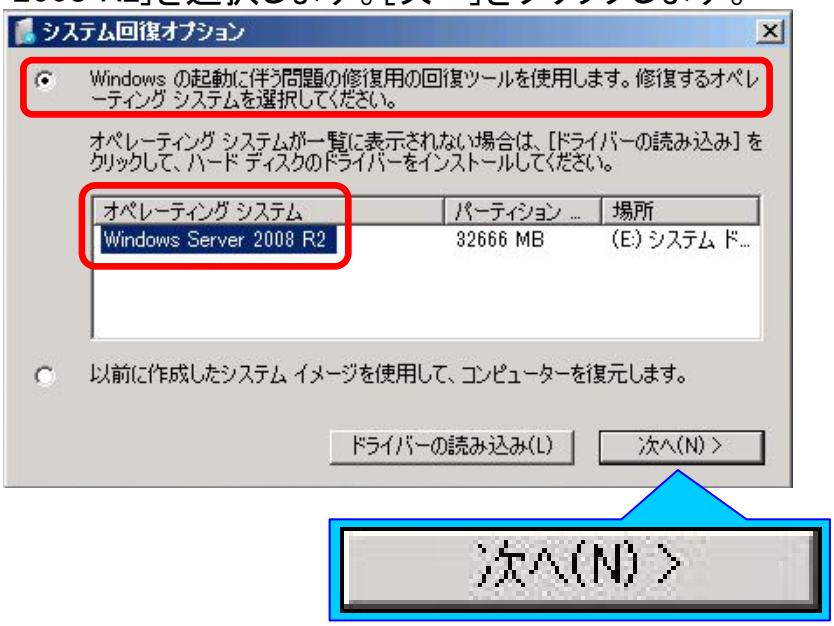
[コンピューターを修復する]をクリックします。

次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

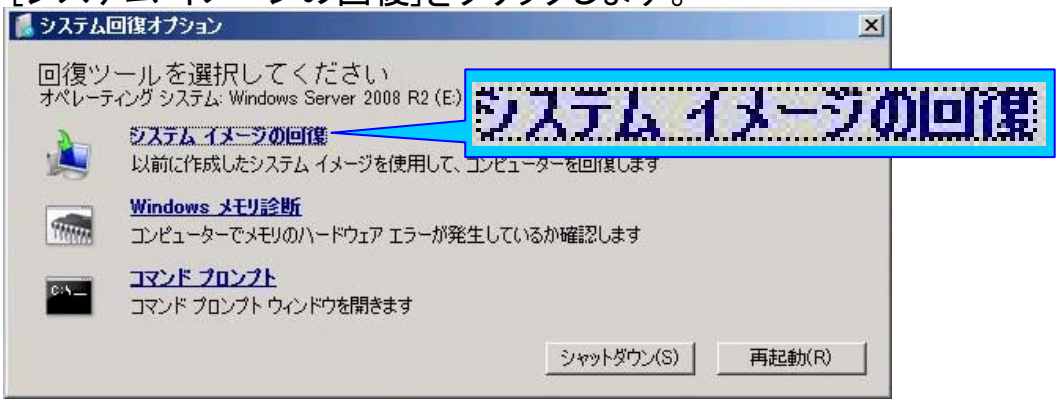
4 システム回復オプションを選択します

[Windowsの起動に伴う問題の修復用の回復ツールを使用します。修復するオペレーティングシステムを選択してください。]を選択し、[Windows Server 2008 R2]を選択します。[次へ]をクリックします。



5 回復ツールを選択します

[システム イメージの回復]をクリックします。

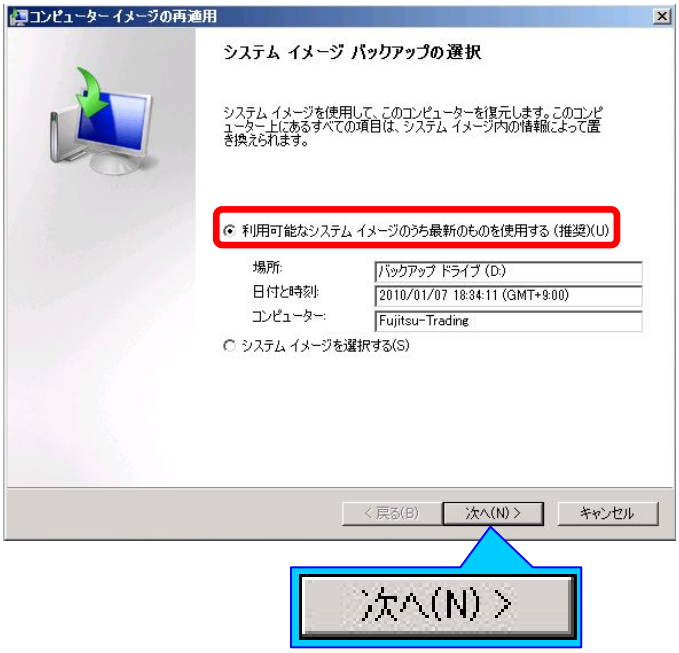


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

6 システムイメージを選択します

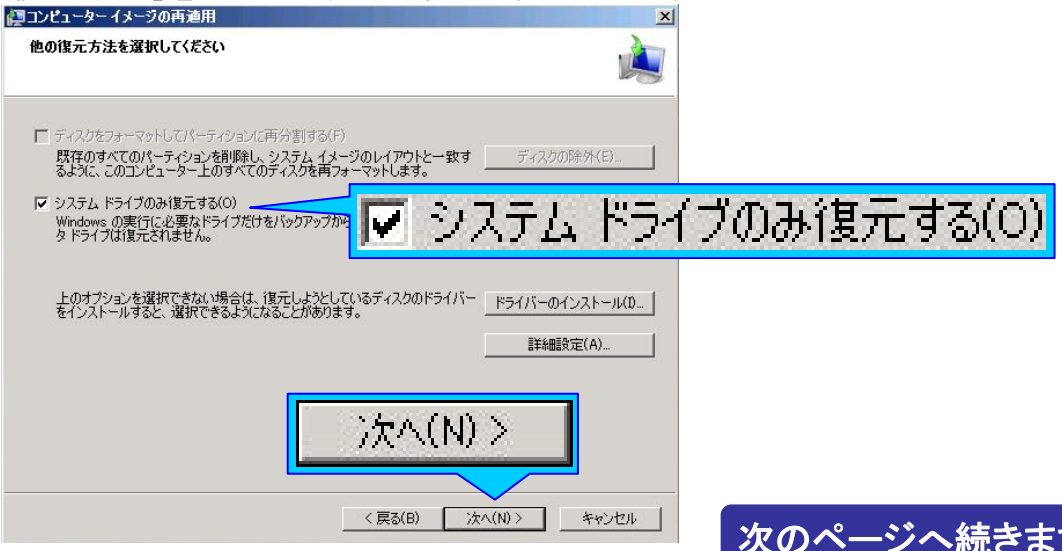
[利用可能なシステムイメージのうち最新のものを使用する(推奨)]を選択し、[次へ]をクリックします。



7 バックアップの復元方法を選択します

[システム ドライブのみ復元する]をチェックし、[次へ]をクリックします。

※データもバックアップを行った時点に復元する場合は、[システム ドライブのみ復元する]をチェックする必要はありません。

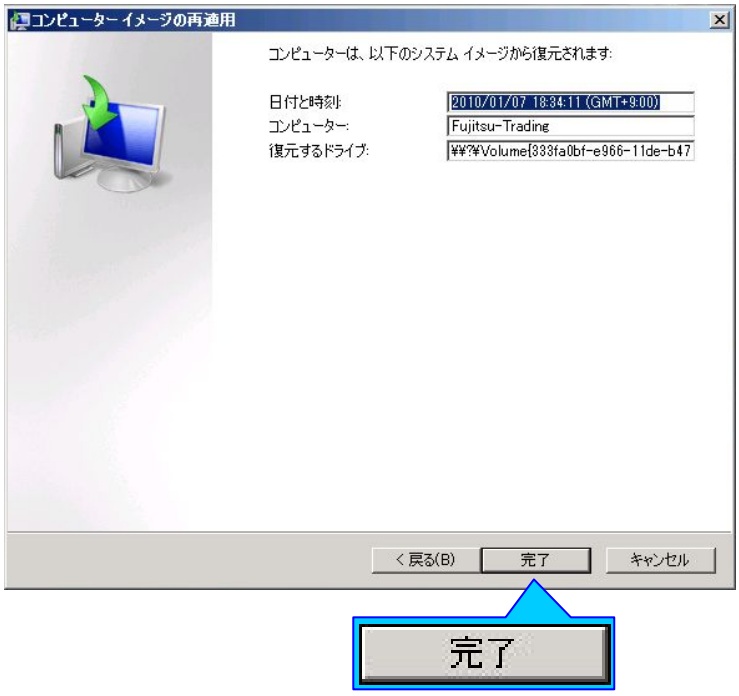


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

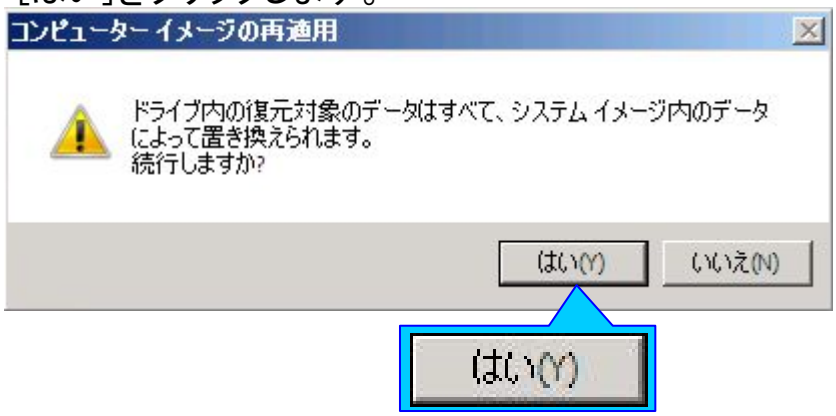
8 復元情報を確認します

システムの復元情報を確認します。情報が正しければ[完了]をクリックします。



9 注意事項を確認します

[はい]をクリックします。

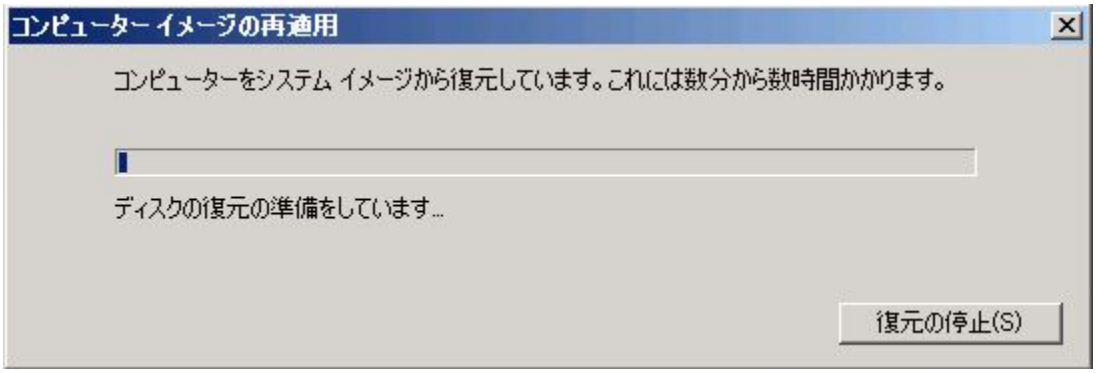


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

10 復元を実行します

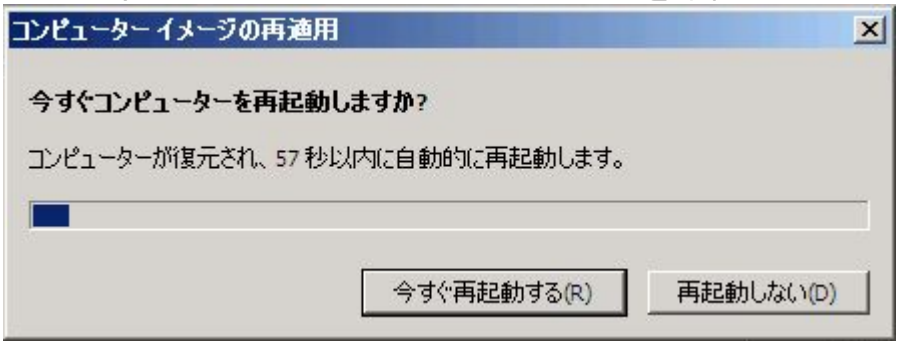
復元が実行されます。



11 復元を完了します

復元が完了するとサーバは自動で再起動します。

※システムが復元できていて、OSが正常に起動することを確認したら、パソコンから共有フォルダーにアクセスできることを確認してください。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

5.4 データの復元

■ 本節では、サーバのバックアップ機能でデータの復元を行う手順について説明しています。

次郎

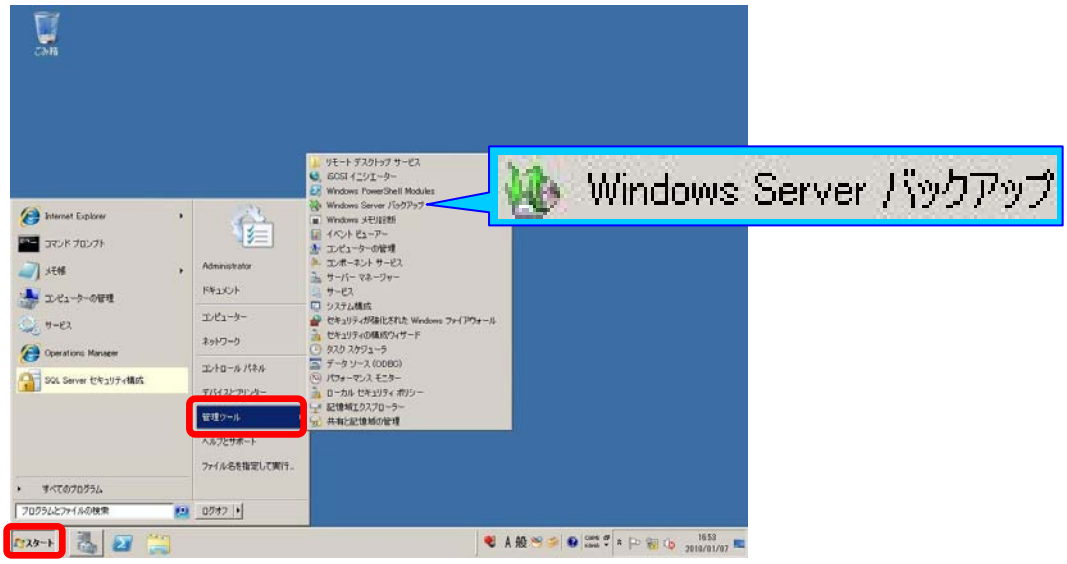
データの復元を行うと、バックアップを行った時点の状態にデータを戻せます。システムの復元と同様に、バックアップ後のデータ変更内容は失われてしまうので注意が必要です。

では、データを復元する手順を説明します。

1 バックアップツールを起動します

1 [Windows Server バックアップ] を起動します

[スタート]メニューをクリックし、[管理ツール]から[Windows Server バックアップ]をクリックします。

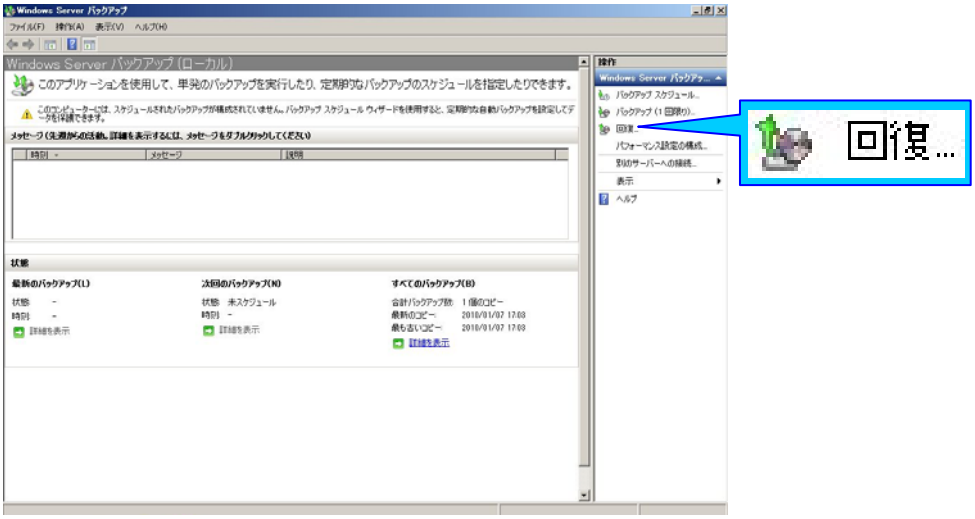


All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2 復元するバックアップを選択します

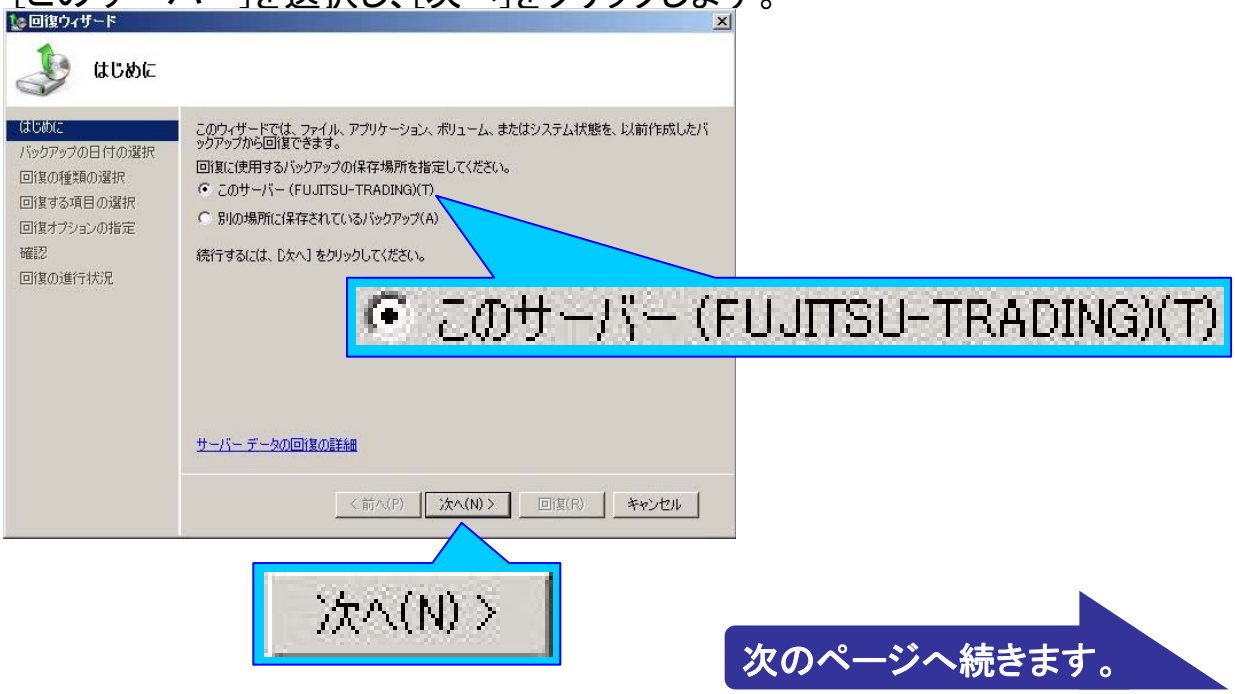
1 [回復ウィザード] を開きます

画面右側の[操作]メニューから、[回復]をクリックします。



2 どのサーバからデータを回復するか選択します

[このサーバー]を選択し、[次へ]をクリックします。

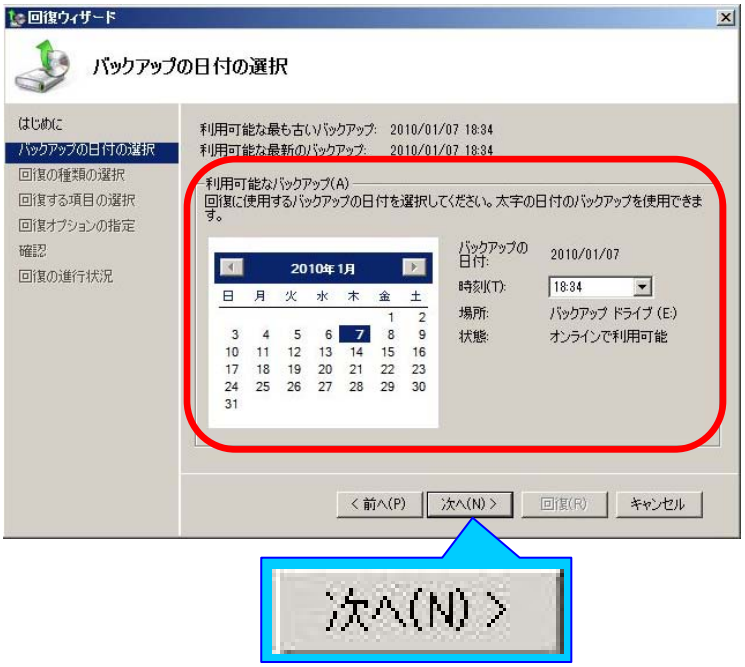


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

3 バックアップの日付を選択します

バックアップは日付で管理されています。データの復元を行いたいバックアップの日付と時間を選択し、[次へ]をクリックします。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

3 データを復元します

次郎

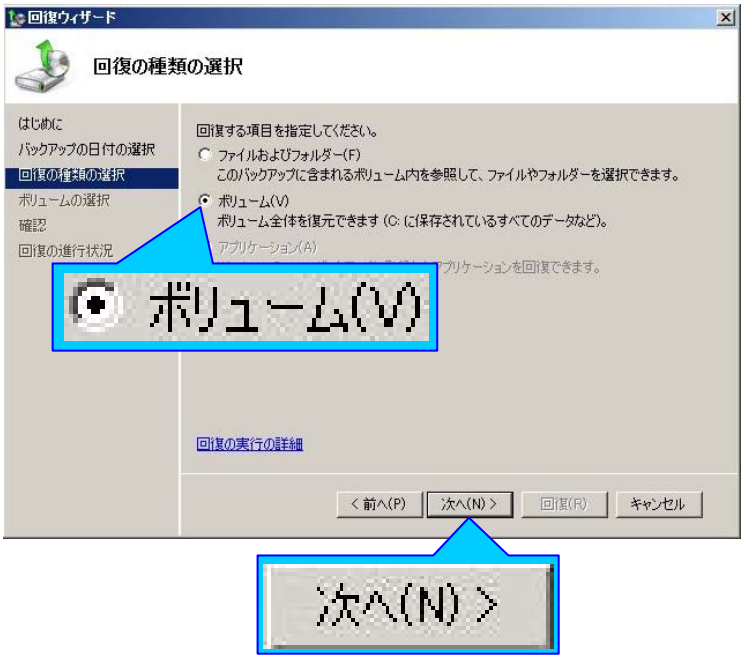
データの復元は [ボリューム]と[ファイルおよびフォルダー]を選択することができます。

3-A ボリューム全体を復元します

例:[データ ドライブ]を復元する場合

1 回復の種類を選択します

[ボリューム]を選択し、[次へ]をクリックします。

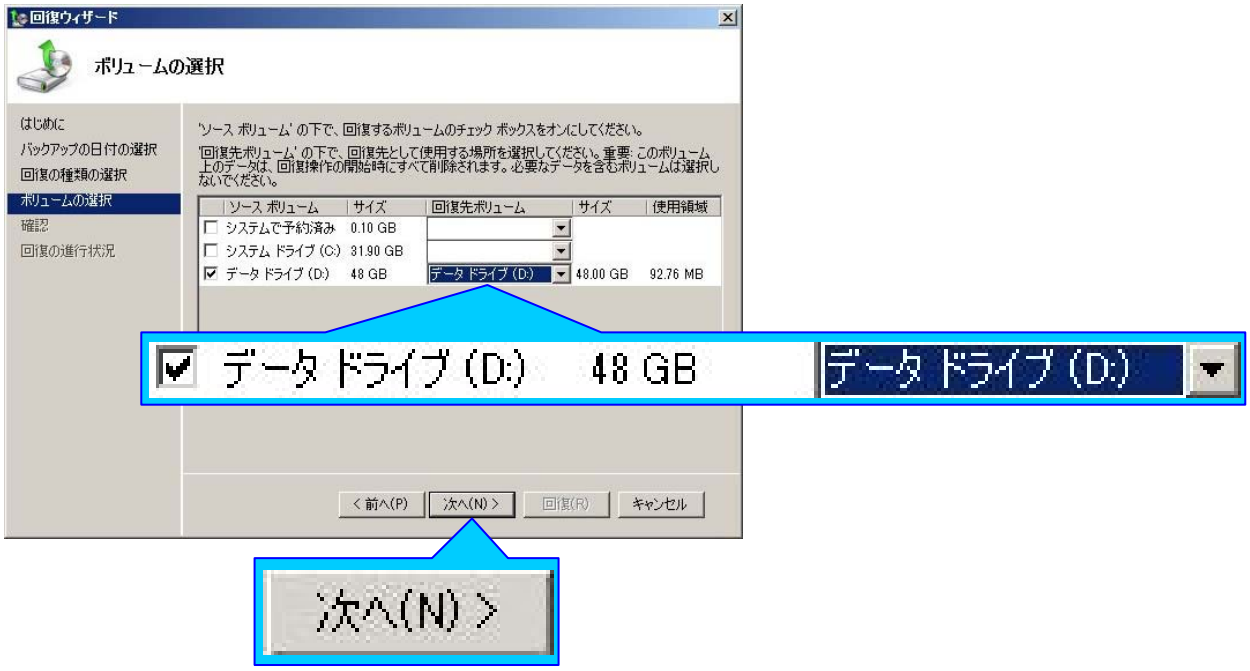


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

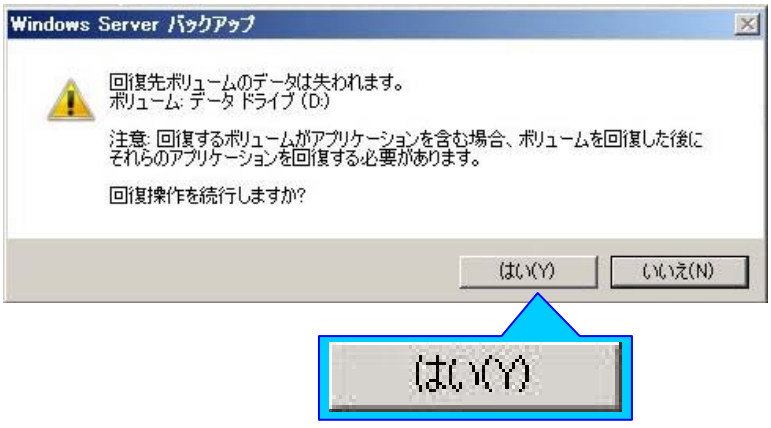
2 ボリュームを選択します

ソースボリューム欄で[データ ドライブ]にチェックし、回復先ボリュームで[データ ドライブ]を選択します。[次へ]をクリックします。



3 注意事項を確認します

[はい]をクリックします。

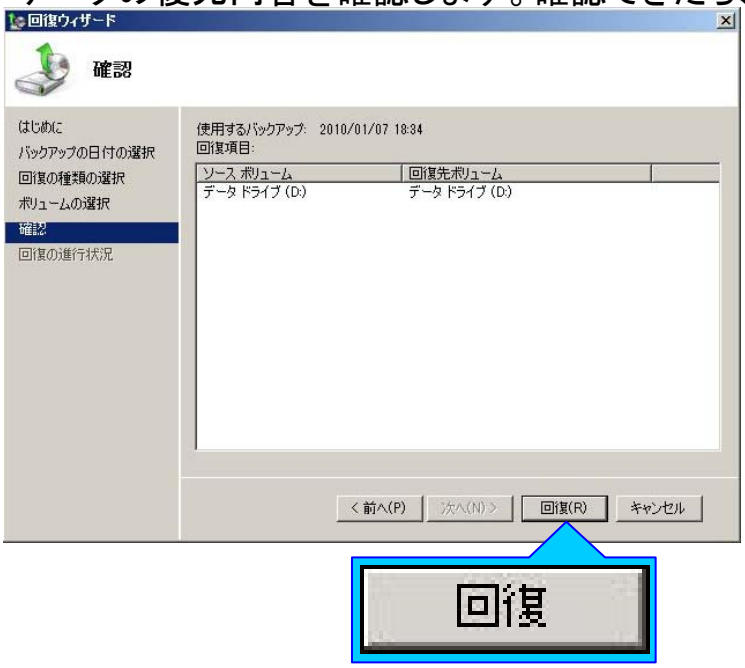


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

4 データの復元内容を確認します

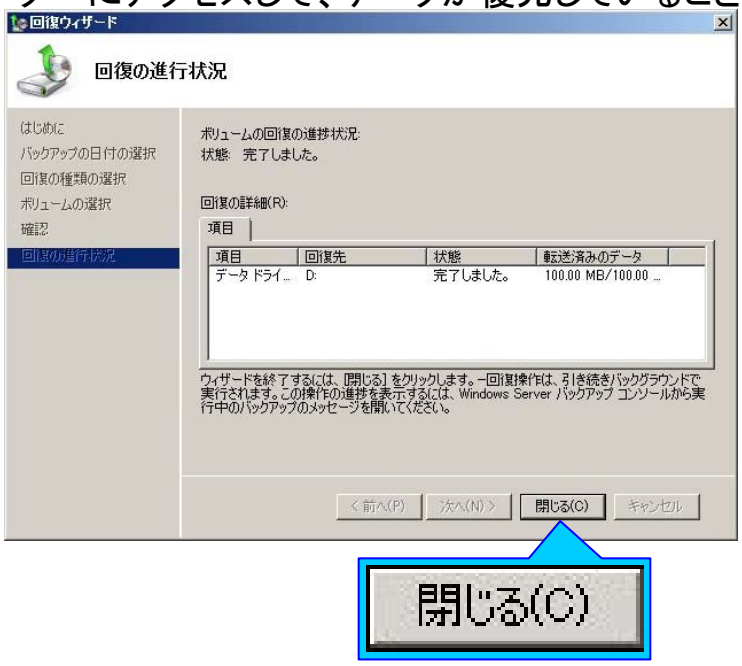
データの復元内容を確認します。確認できたら、[回復]をクリックします。



5 復元を完了します

復元が完了したら[閉じる]をクリックします。

※サーバでデータが復元できていることを確認したら、パソコンから共有フォルダーにアクセスして、データが復元していることを確認してください。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

ポイント

共有ファイル・フォルダーを復元する場合は、シャドウコピーを使用した方が手順が少なく、短時間でできます。

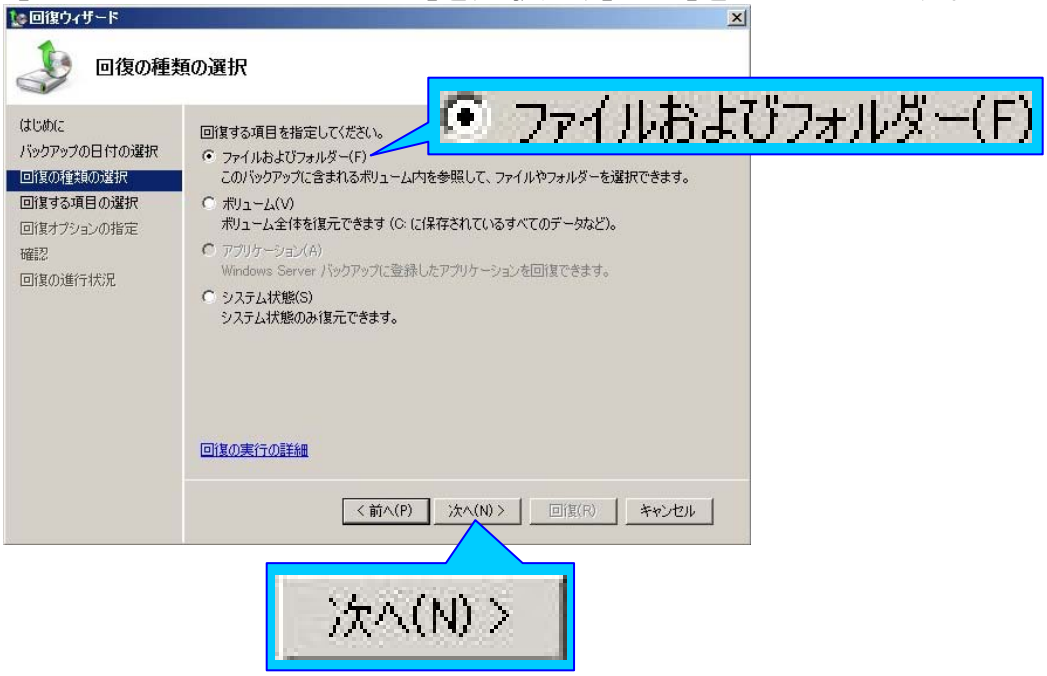
共有していないファイル・フォルダーを復元したい場合などに、この手順を行ってください。

3-B ファイル・フォルダーごとに復元します

例:10月度発注書類_081109.txtを復元する場合

1 回復の種類を選択します

[ファイルおよびフォルダー]を選択し、[次へ]をクリックします。

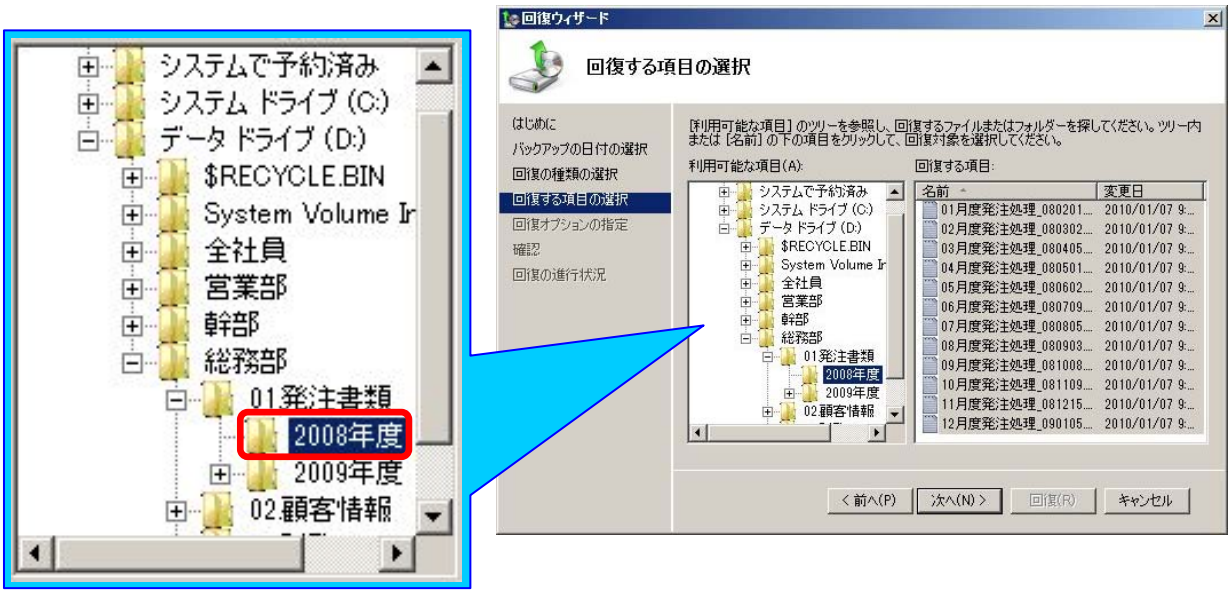


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

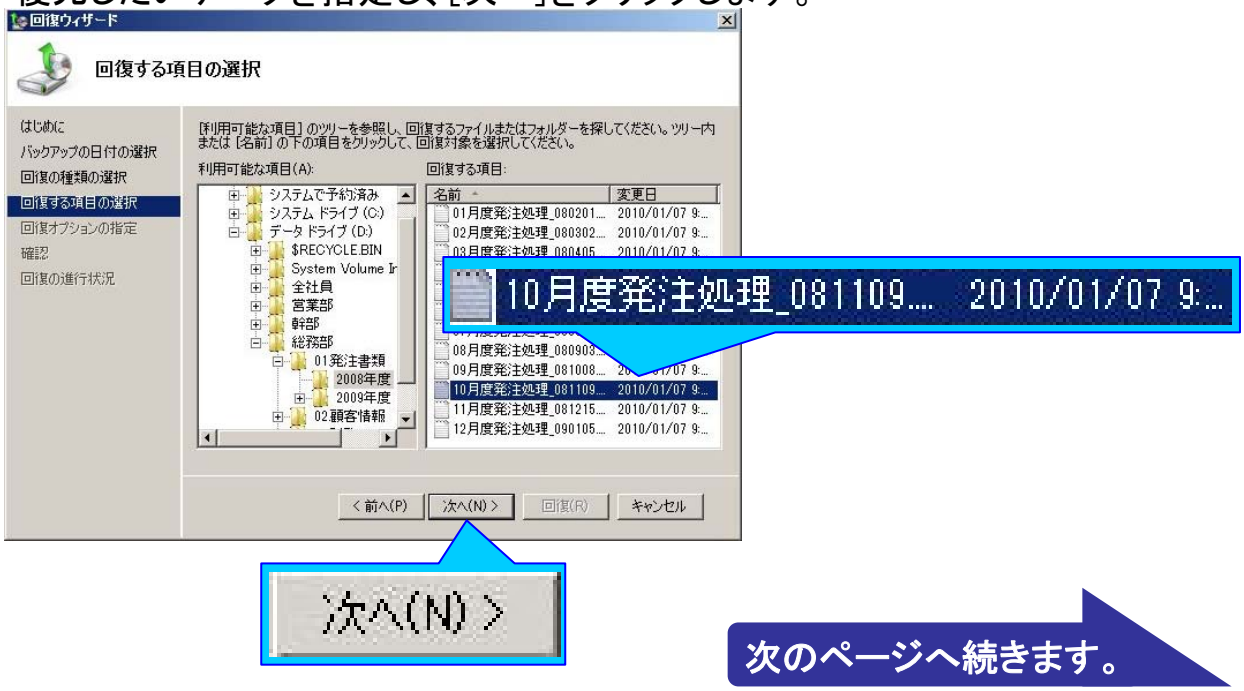
2 回復する項目を選択します

復元したいデータがある場所を指定します。



3 回復するデータを選択します

復元したいデータを指定し、[次へ]をクリックします。

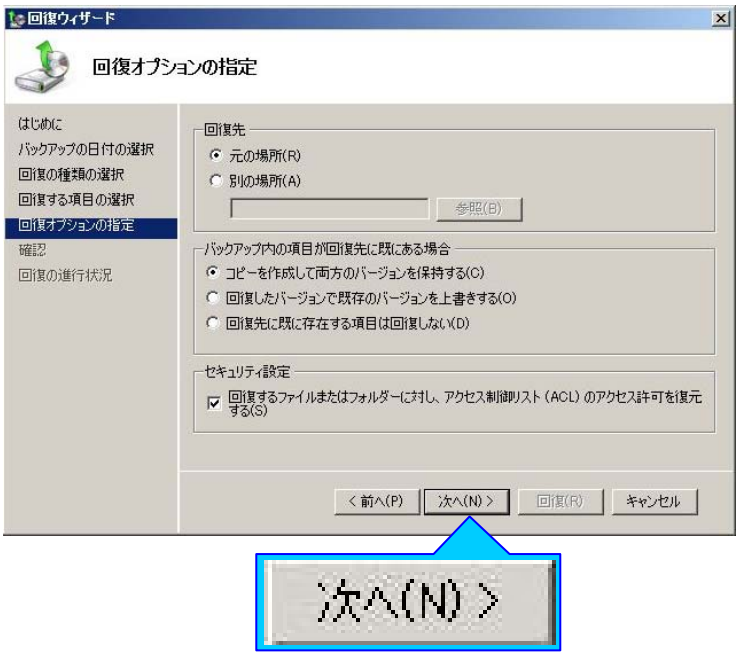


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

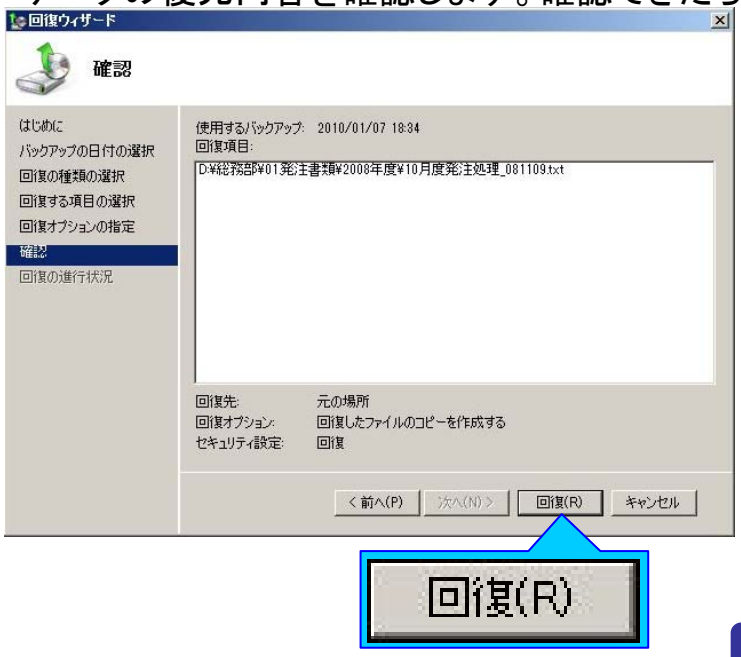
4 回復オプションを指定します

[次へ]をクリックします。



5 データの復元内容を確認します

データの復元内容を確認します。確認できたら、[回復]をクリックします。



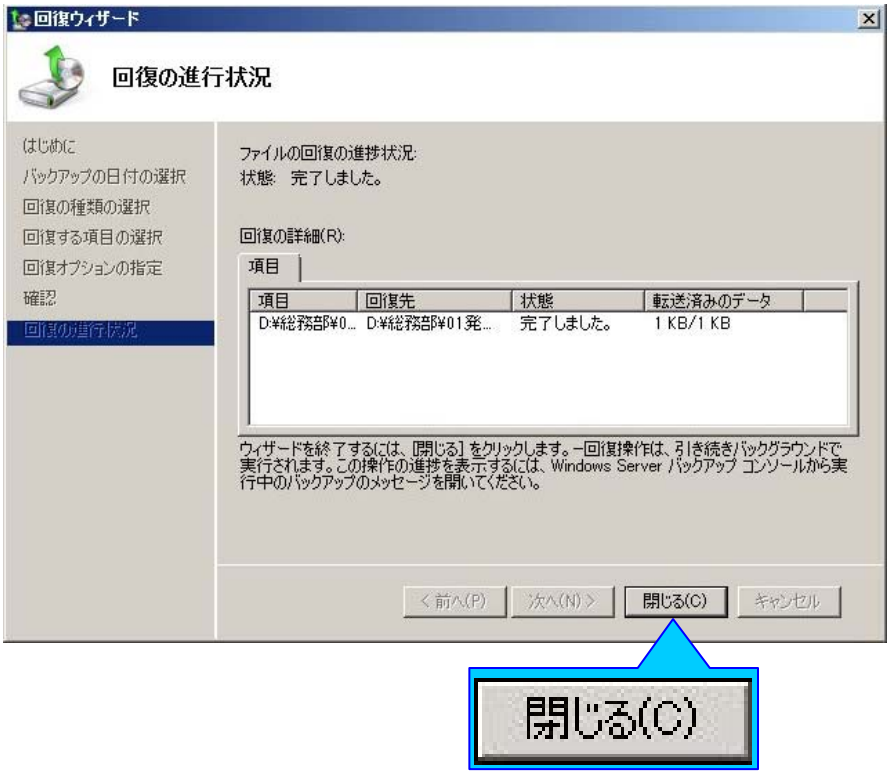
次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

6 復元を完了します

復元が完了したら、[閉じる]をクリックします。

※サーバでデータが復元できていることを確認したら、パソコンから共有フォルダーにアクセスして、データが復元していることを確認してください。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

5.5 シャドウコピーを設定しよう

■ 本節では、サーバの共有フォルダーにシャドウコピーを設定する手順について説明しています。

次郎

シャドウコピーの設定をしておかないと、ユーザーが共有ファイルを間違って削除・上書きするたびに、管理者がバックアップからファイルを復元しなければならず、管理者の負担が増大し、ユーザーの作業も滞ります。

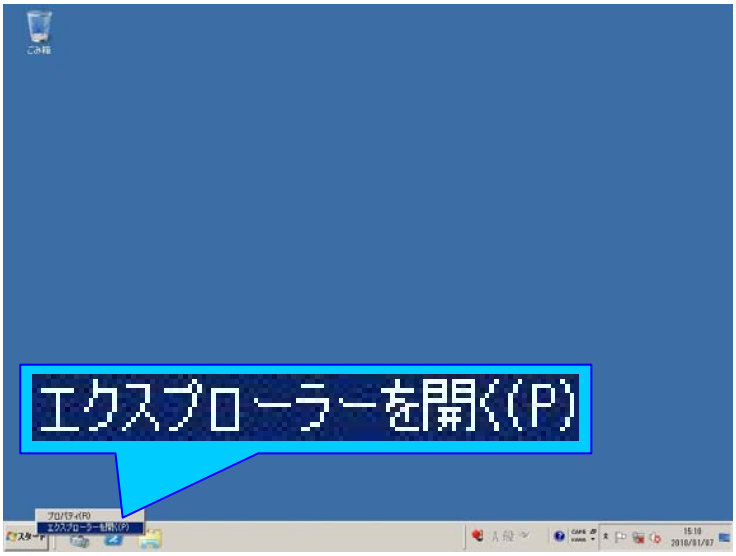
ユーザーの誤った操作により業務が滞ったりしないように、ぜひ共有フォルダーにシャドウコピーを設定しておきましょう。

では、共有フォルダーにシャドウコピーを設定する手順を説明します。

1 シャドウコピーを設定します

1 エクスプローラを開きます

[スタート]メニューを右クリックし、[エクスプローラーを開く]をクリックします。

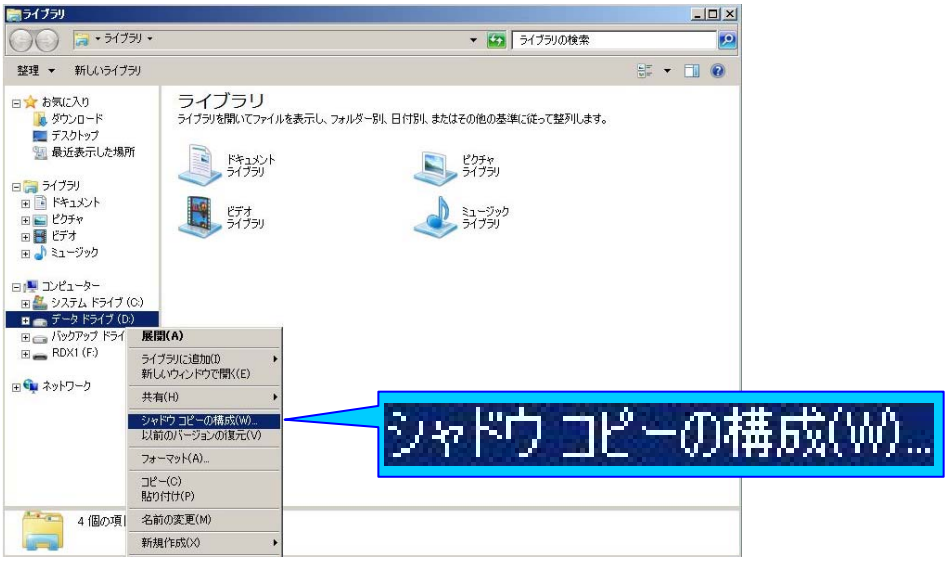


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

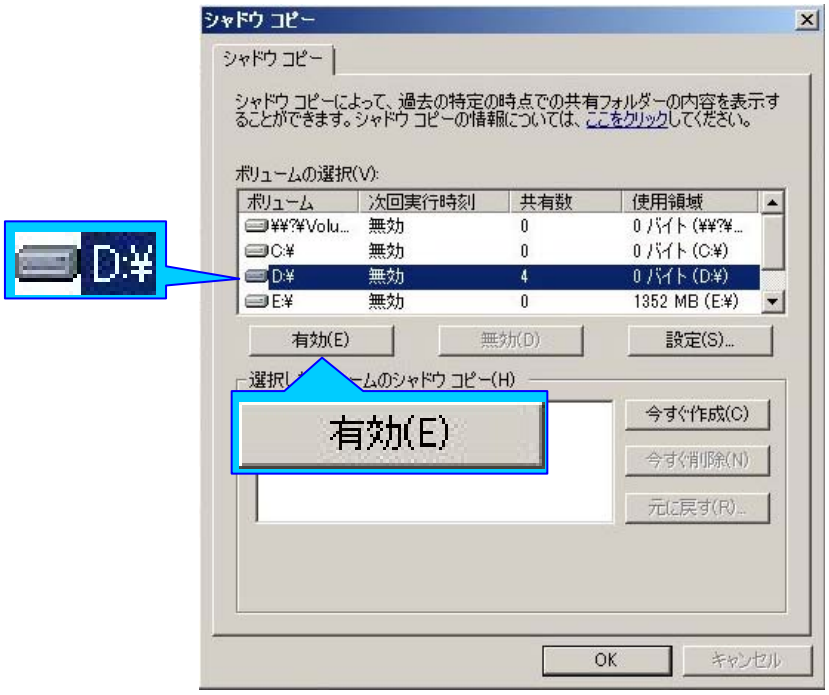
2 [シャドウ コピーの構成] を開きます

シャドウコピーの設定はボリュームごとに行います。シャドウコピーを設定したいボリュームを右クリックし、[シャドウ コピーの構成]をクリックします。



3 ボリュームを選択します

シャドウコピーを設定したいボリュームを選択し、[有効]をクリックします。

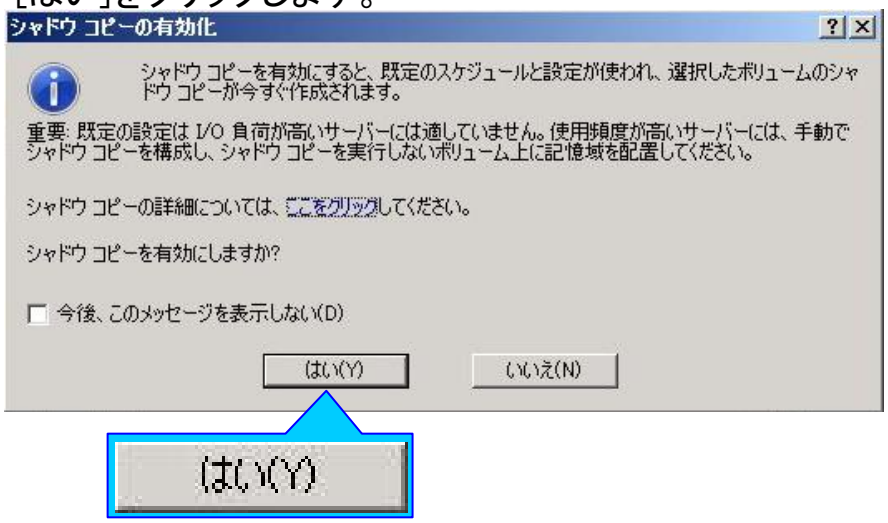


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

4 シャドウコピーを有効化します

[はい]をクリックします。



5 設定を完了します

[OK]をクリックします。

※シャドウコピーを有効化した際に、1回目のシャドウコピーが作成されます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

5.6 シャドウコピーでファイルの復元

FUJITSU

■ 本節では、シャドウコピーの設定をしているボリュームで、共有ファイルの復元を行う手順について説明しています。

パソコンで作業を行います。

次郎

この手順はパソコンで各ユーザーが行うものなので、後で太郎さんから社員の皆さんに教えてあげてください。

シャドウコピーでファイルの復元を行う手順を説明します。

太郎

わかりました！

注意

Windows XP Professionalからファイルの復元を行う場合、シャドウコピー クライアントのダウンロードとインストールがパソコン側で必要となります。Service Pack 2またはService Pack 3を適用している場合、この作業は必要ありません。

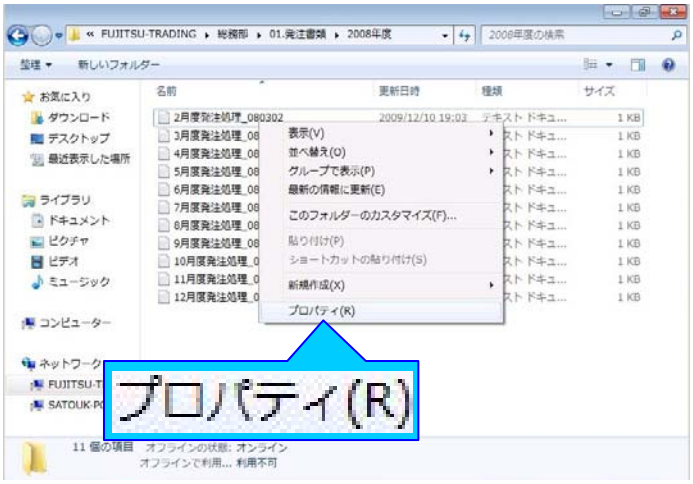
以下のURLからシャドウコピー クライアントをダウンロードしてください。
http://download.microsoft.com/download/4/9/d/49d18272-7622-42f7-85a5-7b01609e8d64/ShadowCopyClient.msi

ダウンロードが完了したら、以下のファイルを実行し、インストールウィザードに沿ってインストールを進めてください。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

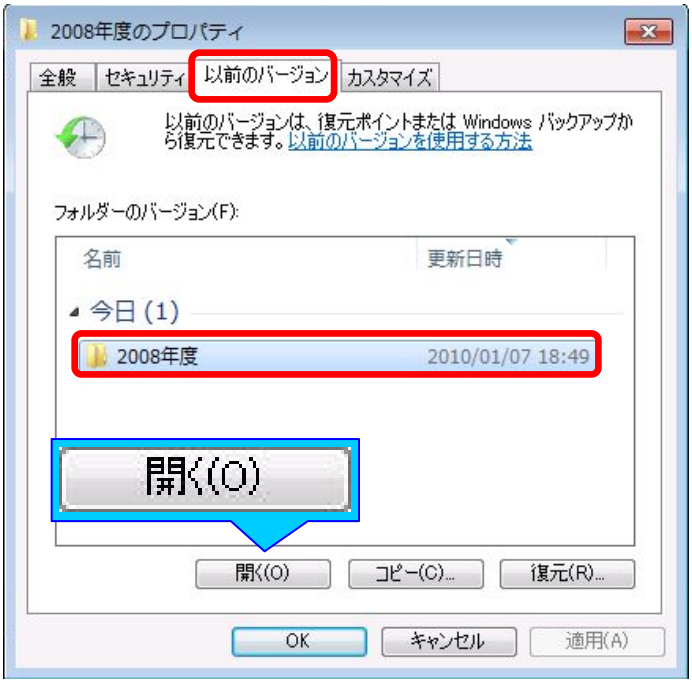
1 プロパティを開きます

誤削除してしまったファイルがある共有フォルダーを右クリックし、[プロパティ]を開きます。



2 以前のバージョンのフォルダーを開きます

[以前のバージョン]タブに移動します。戻したいバージョンのフォルダーを選択し、[開く]をクリックします。



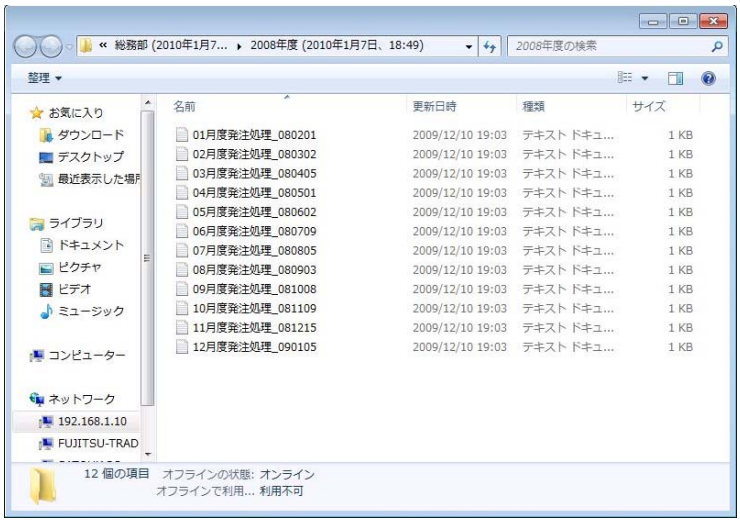
次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

3 以前のバージョンのファイルをコピーします

以前のバージョンのファイルを収めたフォルダーが開きます。

誤削除したファイルをコピーし、元のフォルダーに貼り付けると、以前のバージョンの復元が完了します。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

-補足- 外部領域への バックアップイメージのコピー

■ 本節では、外部領域へバックアップイメージをコピーする手順について説明しています。

次郎

TX100 S1でバックアップを行っていても、ハードディスクが故障するとシステム･データ･バックアップイメージは失われてしまいます。

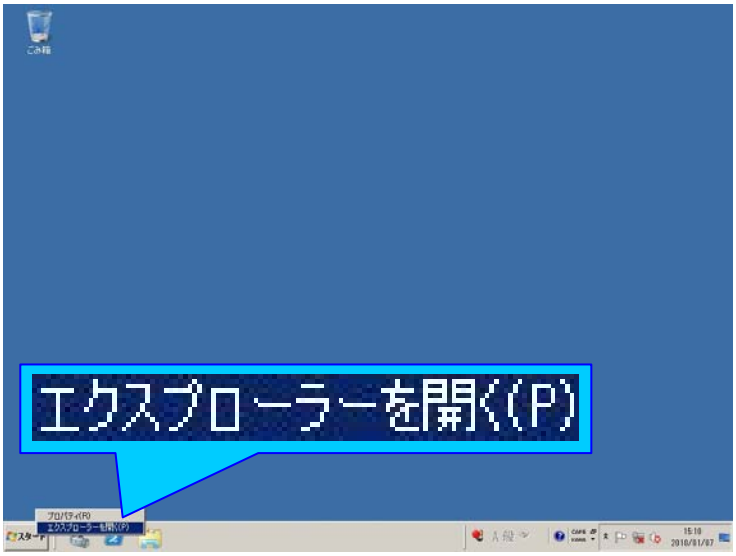
そこで役立つのが、外部の領域（RDXといった外部記憶装置や、ネットワーク上の共有ディスク）にバックアップイメージを保存しておく運用です。

一例として、RDXへサーバのバックアップイメージをコピーする手順について説明します。RDXの取り付けについては、RDXを購入した際に添付されている[内蔵データカートリッジドライブユニット 取扱説明書]を参照して行ってください。

1 RDXへバックアップイメージをコピーします

1 エクスプローラを開きます

[スタート]メニューを右クリックし、[エクスプローラーを開く]をクリックします。

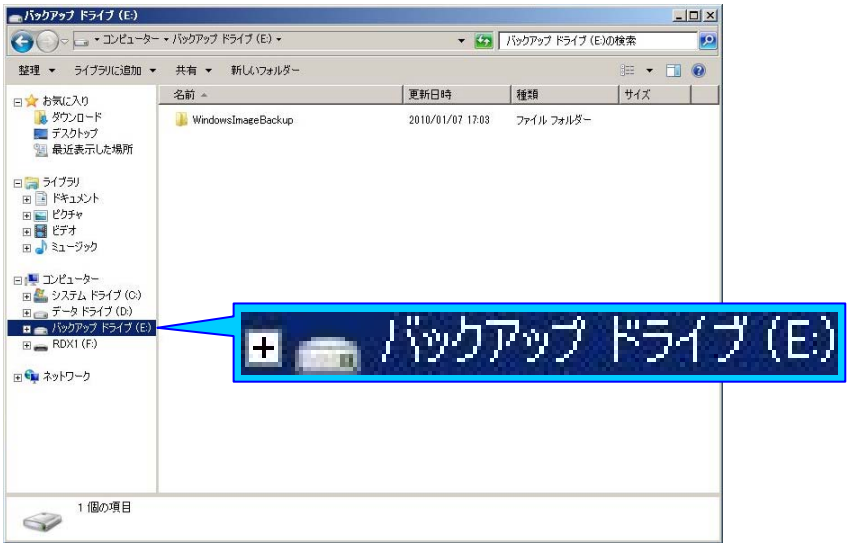


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

2 [バックアップ ドライブ] を開きます

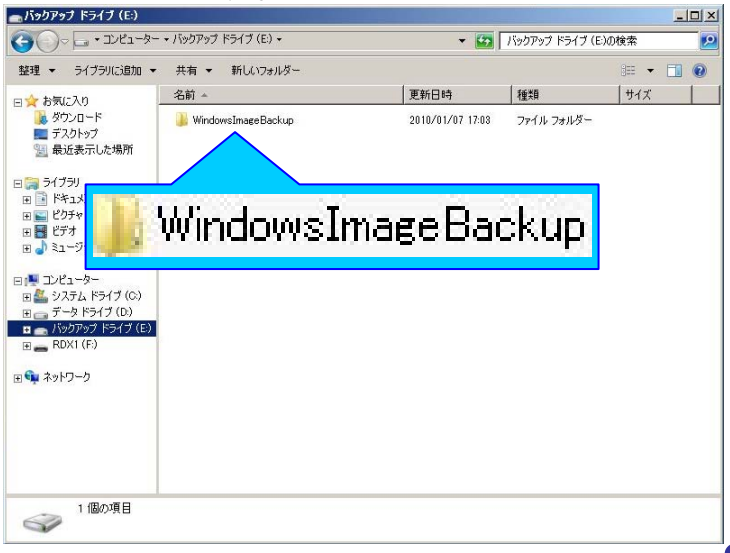
[バックアップ ドライブ]をクリックします。



3 [WindowsImageBackup] フォルダーをコピーします

[WindowsImageBackup]フォルダーをコピーします。

※この[WindowsImageBackup]フォルダーに、このサーバのバックアップイメージが入っています。



次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

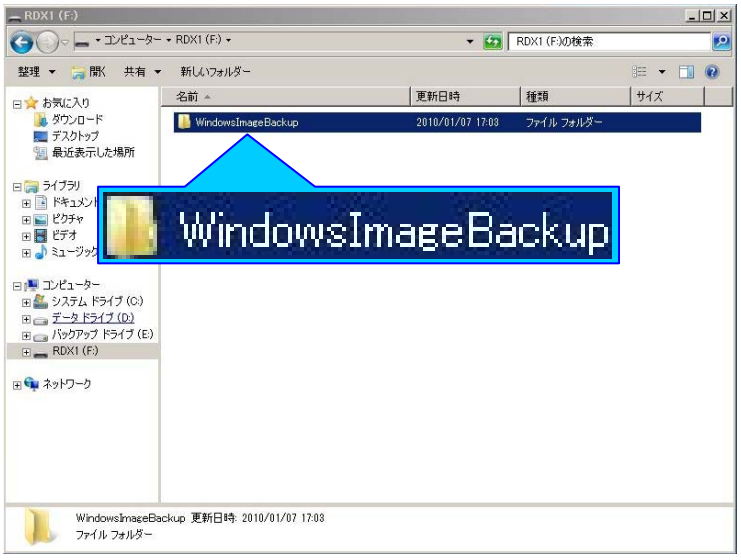
4 RDXを開きます

RDX1をクリックします。

5 RDXに[WindowsImageBackup]フォルダーを貼り付けます

[WindowsImageBackup]フォルダーを貼り付けます。

※RDXのデータ転送速度は最大16MB/秒です。[WindowsImageBackup]フォルダーのコピーには、[WindowsImageBackup]フォルダーのサイズに応じた時間がかかります。



All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

-補足- 外部領域を使用したシステムの回復

■ 本節では、外部領域にコピーしておいたバックアップイメージを使用して、システムの回復を行う手順について説明しています。

次郎

TX100 S1にハードディスクの故障が発生し、ハードディスクの交換をした後、RDXに保存しておいたバックアップイメージを使用して、システムとデータを故障前の状態に回復することができます。

1 RDXを利用してシステムの回復を行います

1 OSの手動インストールを行います

サーバと一緒に梱包されているマニュアル「OSの手動インストール」を参照し、TX100 S1にOSをインストールしてください。

注意

パーティションの構成は、バックアップを行った際の構成と同一の設定にしてください。

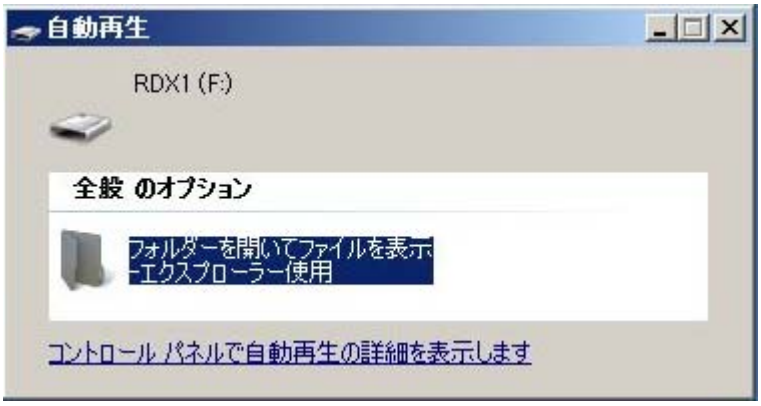
[システム ドライブ]の容量を、バックアップを行った際の容量より少なく設定すると、システムの回復ができません。

次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

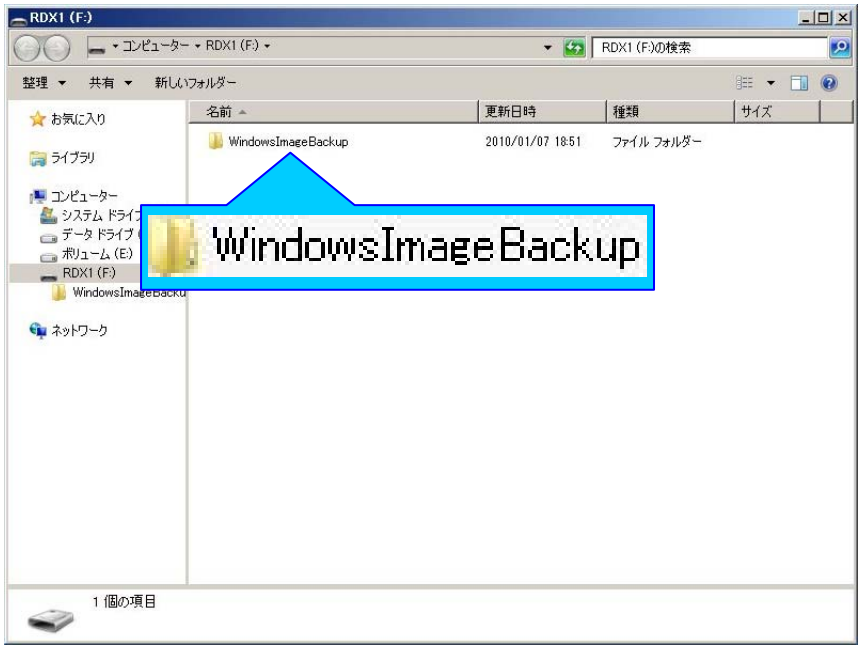
2 RDXを開きます

バックアップイメージをコピーしたデータカートリッジをRDXに挿入します。自動再生のダイアログが表示されるので、[フォルダーを開いてファイルを表示-エクスプローラー使用]をクリックします。



3 RDXの [WindowsImageBackup] フォルダーをコピーします

[WindowsImageBackup]フォルダーをコピーします。

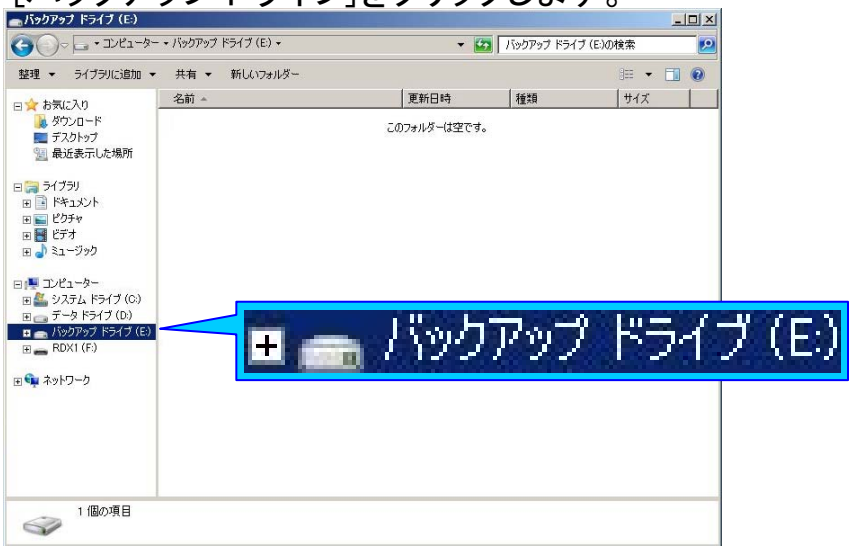


次のページへ続きます。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

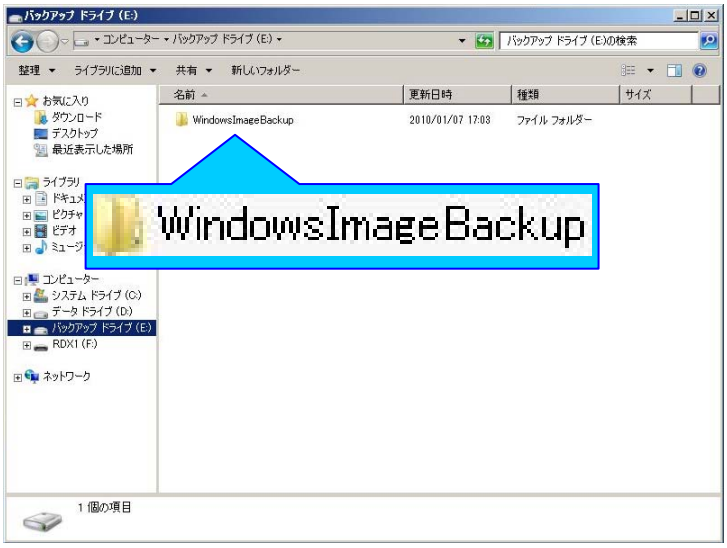
4 [バックアップ ドライブ] を開きます

[バックアップ ドライブ]をクリックします。



5 [WindowsImageBackup] フォルダーを貼り付けます

[WindowsImageBackup]フォルダーを貼り付けます。



6 システムの復元を行います

「本書 5.3 システムの復元」を参照し、システムの復元を行ってください。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

おわりに

FUJITSU

これでファイルサーバ構築の一通りの作業は終わりです。太郎さん、お疲れ様でした。

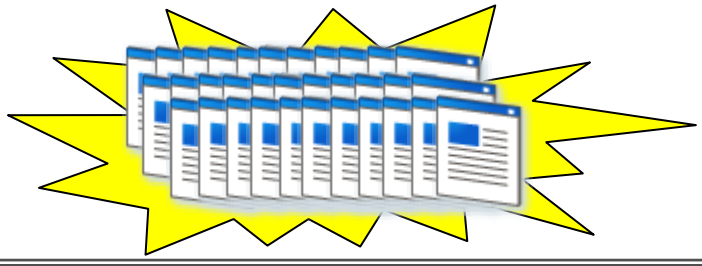
これで仕事がはかどるようになりますね。

次郎さんこそお疲れ様でした。

サーバを導入したお陰で、社長も会社のみんなも安心して業務につけることと思います。

これから僕もサーバ管理者として一層頑張るようにします！！

いまのセリフしっかりと聞かせてもらったよ、太郎くん！サーバを構築できるようになって成長した今の太郎くんなら、これくらいの仕事を任せても大丈夫だよね！？



太郎

えええ～～！

ちょ、ちょっと次郎さん、助けてください！！

次郎

僕の仕事はもう終わったので自社に帰ります♪
太郎さん、**サーバのことでわからないことがあったら**、気軽に聞いてくださいね！

太郎

そ、そんなぁ～…

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2010

FUJITSU